

●講義「交通安全教育デモンストレーション」／12月7日(火)12:40～13:40
警視庁 交通部交通総務課 交通安全教育指導係

配布資料:「交通安全資料(レジュメ)」



【高齢者の事故を防ぐために】

1. 身体機能(身体、視覚、バランス感覚)の低下に対応する。
 - ・慎重な運転を心がける。
 - ・サポカーSを利用する。
※衝突被害軽減ブレーキ、踏み間違い急発進抑制、車線逸脱警報、先進ライトシステムなどの機能があるが、頼るのではなく最終的には運転者自身が対応する。
2. 運転免許証の自主返納を検討する。
 - ・運転経歴証明書の提示による特典を受けられる。
3. 横断歩道の歩行に注意する。
 - ・高齢者の事故の多くは、横断歩道や横断歩道付近で起きている。
 - ・車の停止を確認し、手を挙げるなど、横断中であることを運転手にアピールする。
 - ・事故事例を挙げて、チェックポイントを確認する。
4. 日没時や夜間の歩行に注意する。
 - ・反射材をつけて、車から認識されやすくする。

【自信をもって話すためのポイント】

1. 相手が聞き取りやすい話し方をする。
 - ・場所の状況によって、声の大きさを工夫する。
2. 相手が何を求めているのか考えて話をする。
3. 人を惹きつける話し方をする。
 - ・ルール説明は固い雰囲気にならないように配慮する。
 - ・感じたものを自分の言葉に変えて伝える。
 - ・相手の表情を見て、一音一音を大切に話す。

◎腹話術、マスコットキャラクター、手作りの小道具などを交通安全教育に取り入れる。
※実際につくってみる。

===== 質問・回答 =====

【質問】

- ・交通安全教育指導係の方々は、何名で活動されているのでしょうか。
- ・市や区の指導員と連携し、小学校などの教室を開催されているのでしょうか。

【回答】

警視庁交通総務課の交通安全教育係は9名で活動しています。関係機関や警察署等からの依頼を受けて安全講話を実施しています。各市区町村との連携及び小学校等への交通安全教室は、各警察署の交通総務係員が実施しています。

【質問】

レジュメについている交通安全さんかくしおりの折り方は、ホームページ等で見ることができるのか。

【回答】

今回の講話のレジュメとして作成したものですので、ホームページ等に掲載はしていません。折り方については、一般的な折り紙の「三角しおり」の折り方と同じですので、インターネット等で紹介している折り方を参考にさせていただけたらと思います。レジュメのデータについては、内閣府を通じて連絡いただければ可能な限り対応します。

【質問】

腹話術をやってみたい!と思いますが、今は「マスク」を付けているので、人形が話をしている感じが出ていますが、マスクをしていなかった時にはどのようにやっていたのか教えて頂きたかったです。

【回答】

口をきっちり閉じるのではなく、うっすら開けて声が通りやすいよう心がけながら話をすると、遠目からは口を閉じてお話をしているように見えます。マ行、パ行、バ行などの両唇音は、口を閉じなければ発音が難しいため、人形のセリフに両唇音は含まないようにするか、言い換え法(マンガ→ナンガ)や、置き換え法(車→自動車)を使うと口を閉じている状態で会話ができます。言い換え法にすると、人形の言葉が聞き取りづらいことがあるので、術者が同じ言葉を復唱することで、内容が伝わりやすくなります。練習する際、同じ言葉や短文を高音・低音を交互に繰り返す練習をすると、声の切り替わりがスムーズにできるようになります。ぜひ試してみてください。

【質問】

講座内でご紹介いただいた「横断歩道でクラシック」がとてもよかったです。私たちが普段交通教室を行うとき、子どもたちに興味を持ってもらおうと様々な工夫をしているのですが、交通教室の導入として「横断歩道でクラシック」を歌ったり踊ったり動画を流したりして使用することは可能でしょうか。

【回答】

横断歩道deクラシックは、著作権が切れている曲目を組み合わせ、警視庁交通部と警視庁広報課が歌詞を付けて作成し、歌っているものですので、自由に使用してください。YouTubeで「横断歩道deクラシック」で検索していただくか、警視庁のホームページ内の「交通安全」、「警視庁音楽隊」のページからも検索することもできます。配信されている動画を見せることができる環境になく、音源等が必要な場合は、お渡しすることも検討しますので、内閣府を通じてご相談ください。

【質問】

有名なキャラクターのグッズを作成して児童、生徒に配布することはどのような問題点が発生しますか。職員手作りのグッズでも問題がありますか。

【回答】

工夫を凝らした署員手作りのオリジナルグッズを配付するキャンペーン等は、みなさんの交通安全に対する思いが伝わり、あたたかい広報啓発活動となるのではないかと思います。有名なキャラクターや、似ているキャラクターを使用しますと著作権に抵触する可能性もあるので、注意が必要です。

【質問】

横断歩道の渡り方の指導について、横断歩道の真ん中までは右を見て、それからは左を見て安全を確認することは、全国的に同じか。

【回答】

「交通の方法に関する教則」や「交通安全教育指針」に基づく全日本交通安全協会が発行している冊子等では、「横断歩道を渡る」、「信号に従う」、「青になっても車等が止まったことを確かめてから渡る」、「信号がない場合は、右・左をよく見て車が近づいてこないか確かめる」、「安全を確認してから横断する」などと書かれています。右側通行や斜め横断、歩道から横断歩道を渡る自転車など、歩行者と同じ感覚で自転車を運転している方もいますので、交差点の形状や事故状況等によって、より効果的な安全確認の方法を指導していただけたらよいかと思います。

●講義「子供の交通安全教育について」／12月7日(火)13:50～15:00

山口 直範

(大阪国際大学 人間科学部人間健康科学科 教授)



配布資料:「子供の交通安全教育について」

はじめに

- ・交通心理学とは
様々な基礎心理学を応用して、交通安全のための対策、教育、講習などに活用
- ・発達心理学とは
人間は胎児の頃から生涯にわたって発達していく概念のもと、よりよく生きるための心理学

1. 発達心理学の観点から交通行動を理解する

- ・発達心理学は、乳児期(胎児期を含む)から老年期まで人間の生涯にわたる発達を扱う心理学
胎児期・新生児期・乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期
- ・時間軸の中で加齢とともに心も体も行動も変化していく過程を発達と呼ぶ。
- ・「生涯発達」の考え方
人間の発達はあるピークに後は落ちていくものではない。
人間は人生を全うする最後まで発達を続けていく。

2. 子供の歩行中の事故

歩行中の交通事故の犠牲者は、高齢者と思われる方が多いが、実際は7歳の子供の方が多。
令和元年における交通死傷事故の発生状況等について(警察庁、2020)

- ・歩行中の死者・重傷者数の推移をみると、年々死傷者数は減少している。
- ・横断歩道を横断中以外の事故やその他の横断中の事故においても死傷者数は減少している。
- ・横断歩道横断中の事故は10年間ほぼ横ばい状態が続いている。

状態別(歩行中、自転車乗用中、乗用車乗車中など)交通事故死者数の状況(警察庁、2019)

- ・主な欧米諸国の状態別交通事故死者数の構成率において、日本は他国に比べ、歩行者の死傷者数の占める割合が多い。
- ・日本は子供に限らず、歩行者全体が交通事故による死傷者率が高い。

ITARDA(2016)の報告による7歳児歩行中事故の特徴

- ・73%が日中に発生、薄暮時を合わせると93%
- ・平日の死傷者数は、土曜日の約2倍、日曜日の約2.5倍
- ・6歳から登下校中の事故が増加するが、遊戯中・訪問中など登下校以外も7歳が最も多い。
- ・男児の死傷者数は、女児の約2倍

幼稚園や保育所のように送迎がなくなったから事故が増えただけなのか

【人間発達のシステムモデル】

- ・河合(1989)は、“新たなシステムへの変化の前には不安定な移行前状態が存在する”ことを指摘
- ・子供の交通行動においても同じことがいえ、不安定な揺らぎを繰り返しながら、より上位のシステムへと移行していくことにより安全行動が定着する。

子供の発達と生態学的アプローチ

- ・生態学的に考えると、就学に伴う通学が作り出す、活動システム全体の変化を考えるべき。
- ◎心理的な機能の発達とのマッチングが不十分
- ◎1人の交通参加者としての自立に伴う行動範囲の拡大

※交通参加者とは … 上下関係が一切なく、道路という公共の場をみんなで使う考え方。
お互い譲り合って道路を使い、交通参加者はみな対等な立場。

子供の交通行動を形成していく生態学的システム

- ・家族、学校、地域、環境などが相互作用することによって、子供は交通行動を獲得していく。

3. 子供はなぜ道路に飛び出すのかー発達心理学の視点からー

- ・子供の交通事故の要因で最も多いのは道路への飛び出し
- ・では、なぜ子供は飛び出してしまうのか？
→ 発達心理学の観点で考えてみると幾つかの要因が挙げられる。

(1) 子供には見えていない ※ここでいう「子供」は就学前後を想定している。

- ・大人と比べて子供はあらゆる面で未発達。
- ・背が低い、腕力や脚力が弱い、知的能力が未熟など、これらは発達段階の前期であるため当然のこと。
- ・当然だが、目だけが大人並に発達しているわけではない。
- ・いろんなモノを見て刺激を受けて目が発達していく。
- ・視野が狭いのは、幼児の発達の特性として理解した上で「右見て、左見て」道路を横断することの意味や重要性を子供や保護者に伝えていくことが大切。
- ・近年はSUVやミニバンが主流となり、車高が高くなり、子供がより死角に入りやすくなっている。

アイコンタクトが重要(意思表示)

- ・自動車にはどちらの方向に行くかの合図がついているが、人間(子供)はどちらに進むか分からないのでアイコンタクトで意思表示する→ 本来はドライバー側が配慮すべきこと。

(2)まだ他者理解ができていない

・発達心理学者のピアジェの「自己中心性」

自己中心性とは、わがままや自分勝手といった意味ではなく、身の回りのできごとを自分に引きつけて考えてしまう(一般的に就学前後あたりまで見られる)。

→ まだ、相手の立場から物事を見ることができない。

「心の理論」の獲得

- ・心の理論の獲得とは、他者の心を推察したり、理解したりできること(小学校の中学年以降)
- ・他視点の経験により、やがて自分はその場でどうすべきかといった社会的役割の取得へと発達していく。

子供は車両速度の判断が非常に苦手

- ・大人は距離と速度で道路を渡れるかどうかを判断するが、子供は距離で判断する傾向がある(速度の上昇は加味せず、同じポイントで横断可能か判断する)。

交通場面での自己中心性

- ・公道では、様々な交通参加者が各々の目的のために道路を使用(通行)している。
- ・歩行者または自転車としての交通参加経験しか持たない幼児が、車の挙動やドライバーの心理を理解できるわけがない。
 - 危険行動に対して幼児に相手(ドライバー)の気持ちを考えさせるというような理不尽な要求をするよりも私たち大人が幼児・児童の行動特性を理解することが重要。

(3)子供は感情コントロールが苦手

- ・心の理論を獲得していても、なぜ子供たちは道路に飛び出すのか。

「情動の発達」が十分ではない

- ・情動とはあまり聞きなれない言葉だが、心理学の専門用語で英語では“emotion”といい、喜び、驚き、怒り、悲しみ、怖れ、嫌悪などの激しく抑揚のある心の動き。

感情の抑制(コントロール)が苦手(情動発達)

- ・発達心理学で子供の行動をみると … 子供は衝動的で自分の感情を抑えきれない。

こんなとき、どう声をかけますか。

- ・幼児に「あぶない！」は … あまりよくない場合がある。

- ・乳児・幼児は養育者を避難場所(安全基地)として使うため、不安を感じると駆け寄ってくる。
→ 意味も分からずに注意を促すのではなく、児童の行動の背景に何があり、どのような特性を持っているのかを理解して伝えることが重要。

ドイツでは親が責任をもって横断(通学)方法を教えている。

- ・親が責任をもって教育し、子供が小学校まで1人で安全に通えるようになってから通学させる。

4. 心理学を活用した教育技法ー子供の命を守り続けるためにー

(1) 目先の安全にとらわれない本当の交通教育

- ・交通心理学の専門用語:「危険感受性」(危険に対する感性を豊かに育む)という言葉がある。
- ・幼い頃から危ない目に会う前に、それを予測して回避する力を身につけることが大切。
- ・危険への感性を磨くことは、交通事故に限らず犯罪被害や災害被害の予防につながる。

最近接発達領域Zone of Proximal Development(ZPD) 発達心理学者のヴィゴツキー

- ・「人に教えてもらわなくてもみんなと一緒にできること」と「1人でできること」との間に他者の支えがあればできる領域がある。
- ・交通安全教育も同じことがいえるはずなのに「右を見なさい、左を見なさい」でいいのか。
- ・子供が新しいことにチャレンジする際に自分1人の力だけでそれを達成できる時、大人がほんのちょっと手助けすることで達成できる。

「かわいい子には旅をさせよ」

- ・養育者が子供を交通事故から守ろうとする気持ちが強過ぎるため、危険から遠ざけるばかりの教育になってしまっているはいけない。

子供が自ら学ぶ機会を奪っていませんか。

- ・心配だからといって、大人がすべてやってしまえば、子供の「危険を感知して避ける能力」は、いつまでたっても身につかない。子供に自ら体験させ、それを見守ることも大切な教育。

大切だからこそ

- ・危険から遠ざけるばかりでいると、何が危険でどうすればいいのかを学ぶ機会を奪っている。
- ・大人が一方的に安全な環境を作るのではなく、子供に危険を考えさせる領域を残しておくことが重要。

(2) 能動的な交通安全学習

- ・交通安全教育は自ら学び、人の行動から習う「学習」である。
- ・「安全確認しなさい」「気をつけなさい」と他者からやらされているではダメ。
- ・他者にやらされている行動は、監視の目が届かない場所ではサボるようになってしまう。
- ・子供が自分で安全かどうか判断する領域を残しておく。

子供は安全確認ができないのか

- ・大人と出かけたときの子供は、大人にすっかり頼りきってしまう。
- ・さらに、友だち数人と一緒に行動すると、とたんに警戒心が乏しくなる。

ピグマリオン効果

- ・アメリカの教育心理学者ローゼンタールが期待と成果の相関関係について提唱した。
 - 人は期待されたとおりの成果を出す(期待に応える)傾向がある。
- ・他者にやらされている行動は、監視の目が届かなくなればサボる。
私たち大人は子供よりも先に人生を終える。人生を最後まで見届けることは困難。
 - 子供が能動的に判断できるように教育しなければならない。

5. 自転車運転のための交通安全学習

(1) 被害者教育と加害者学習

- ・自転車は利用するものではなく、自分で運転する車両 → 責任を伴う。
- ・今までは被害に遭わないための教育が中心だったが、これからは加害者になる可能性も学ぶ。
- ・歩行中と自転車乗車中の交通事故の死傷者数が小学3年生くらいで入れ替わる。つまり、小学3年生くらいから自転車教育にも力を入れていく必要がある。

能動的に子供が学ぶ体験型交通安全教育

- ・現在の自転車教育は、子供の発達特性や実態を把握した教育なのか。
- ・今やっている教育は、生態学的に妥当なのか。
- ・課題の難易度は適切なのか(簡単過ぎないか)。

交通先進国のデンマークの実践教育では

- ・幼児期から自転車教育を行っている。
- ・ペダルのない二輪車を使って車両感覚やお互いに譲り合う心などを遊びの中で学ぶ。

(2) 生態学的妥当性

- ・学校のグラウンドや教習コースで子供たちが学ぶ教育を否定しているわけではないが、子供という生物の自転車行動特性を理解しているのか。
- ・多くの幼児が就学前に自転車に乗っている(6割前後)。
- ・小学3年生への交通安全指導を自動車に例えると … 運転歴4年目くらい(車だと初心者マークが取れて初回の運転免許証更新を終えている状況)
 - 初歩的な基本操作の指導でいいのか。現実的・実践的教育内容が必要。
- ・実験によれば、子供は先を読むのが苦手、下を向きがちで不安定。

自転車教育の実践

- ・休日に小学校のグラウンドで実施
 - 自分の自転車を使用し、難易度の高いコース設定や携帯電話で通話しながらの運転などの禁止行為をあえてやる、コース内に他の交通参加者がいるなど、通常の自転車教室と違う学習ができる。

子供たちの興味を向ける工夫

- ・楽しく学ぶ
 - 単純なコース走行ではすぐに飽きる。
- ・現実の交通に近い環境設定
 - 無人の道路にたった1人だけ自転車で走行？難易度の高いコースレイアウト。
- ・いつも運転している車両を使用
 - 成長著しい小学生は大きめの自転車に乗っている。
- ・いつもの知っている場所を活用
 - 子供の行動範囲は狭い。写真や事例は身近な内容にして現実感を持たせる。

中学生になれば自転車の走行レーンが変わる。自転車は車道が原則、歩道は例外。

- ・自動車やバイクと異なり、並進が禁止されている。
- ・一定の条件の下に歩道や路側帯の通行ができる。交差点を右折する際はできる限り道路の左側端に寄り、かつ、交差点の側端に沿って徐行しなければならない。
(道路交通法34条3項、いわゆる「二段階右折」)
 - 自転車は車道へ、小学6年生のうちに学習しておく。

(3)人間の行動 $B=f(P \cdot E)$

B = behavior:行動、P = personality:人間特性、E = environment:環境

- ・気質や性格等の個人特性と生活環境や家庭環境との相互作用によって子供の交通行動が培われる。
- ・子供の周囲にいる大人の行動も決定因の1つとなるため、大人が子供たちの前でモデルとなる正しい交通行動を示さなければならない。

【悪い行動の学習例:信号無視】

- ・子供は大人の自転車の信号無視を見て→参考にして→学んで(よくないことの学習、誤った信念)
 - 自分の中に取り入れて→状況によって実践(信号無視)する
- ・水野・徳田(2020)は、交通ルールやマナーを守っていない姿を子供に見せているケースは子供が交通事故に遭う危険性を高め、ルールやマナーを守る「よき交通社会人」を育てる教育を阻害する行為であると指摘している。

子供の命よりも大切なものはない

- ・有効な交通安全教育は自分がいなくても子供たちの命を守り続けることができる教育。
- ・子供たちが、そして指導員も交通事故の被害者にも加害者にもならないことを願っている。

6. 子供の交通死亡事故ゼロの国

- ・2019年ノルウェーでは16歳以下の子供の交通事故死者ゼロ(ビジョン・ゼロの実現、ノルウェーの人口 : 532万人)
- ・ノルウェーの首都オスロ(人口 : 67万人)では年齢に関係なく、歩行者と自転車の交通事故死者はゼロ。
- ・ノルウェーが「ビジョン・ゼロ」を導入したのは2002年。
- ・2019年フィンランドの首都ヘルシンキ(62万人)では、歩行者に関する交通死亡事故がゼロ。
- ・日本でも生活道路で実施している「ゾーン30」をフィンランドでは、市街全域に適用した。
→事故死者ゼロは人が少ないからではない。やればできる。

===== 質問・回答 =====

【質問】

デンマークでの実践教育について(配付資料 P54)。京都市で開催された幼児の自転車教室はいつ開催されたものなのか。現在も各地で開催されているのか、日本の指導員に伝えて行われた、とのことでしたが、今後も開催予定があるのか等知りたいです。よろしくお願い致します。

【回答】

デンマークの自転車教育は国際交通安全学会(IATSS)の研究調査プロジェクトの一環として開催されました。3回の開催でしたが、兵庫県では尼崎市でも行われていました。残念ですが、プロジェクト研究のため今後の開催予定はありません。ただし、京都市の保育園がワークショップを参考にして遊びの中に自転車教育を取り入れたとの話を聞いたことがあります。どこの保育園かは不明ですが、複数あったと聞いています。現在も続いていたらいいのですが定かではありません。

参考までに以下の開催告知はIATSSのHPより引用しました(一部校正)。

ワークショップ:楽しみながら乗り方を学ぶ デンマーク式自転車教室(逐次通訳あり)

対象:3~8歳の幼稚園児~小学校3年生とその保護者(同伴必須)

趣旨:自転車王国デンマークの自転車ゲームを通じて、バランス感覚、身体能力、交通ルール等の自転車の乗り方を楽しく学びます。その他:自転車に乗れないお子様の参加大歓迎です。ペダル無し自転車・ヘルメットの無料貸出があります。こどもの自転車・ヘルメットの持ち込み歓迎です。

講師:ロッテ ベック先生 建築家兼都市計画家。Urban Cycle Planningコンサルタントに所属。デンマークサイクリング大使館。デンマーク自転車連盟の国際委員会委員。1998~2010年の12年間、コペンハーゲン市交通部門で、自転車文化のプロジェクトマネージャーを経験。近年は、ボゴタ、メデジン、リマ、メキシコシティ、リオデジャネイロ、クリティバ等の南米主要都市で教室の開催を支援しています。

日時場所:平成28年10月9日(日)9:00~11:00(雨天時中止)尼崎市立尼崎北小学校グラウンド

日時場所:平成28年10月10日(月・祝)13:00~15:00(雨天時中止)京都市中京区竹間公園(京都市こどもみらい館北側)

主催:(公財)国際交通安全学会 こどもの交通安全教育プロジェクト

【質問】

警察官でヨーロッパに研修に行った人の話(十数年前位)では、自転車が走る環境(道路状況)が日本とは比べものにならないくらいすばらしかったと言う話を聞きました。その環境がどのようなものか教えてください。

【回答】

ヨーロッパのなかでもオランダやデンマークは自転車に対する交通環境が整っています。特にオランダでは自転車専用道路がまるで高速道路のように設置されています。交差点にはラウンドアバウトやアンダーパスが設置され、そのため自動車と接することが少ないように工夫されています。

しかし、市街地へのアクセスなどの主要道路以外では、外側線が引かれているだけで日本の道路環境とさほど変わりません。ヨーロッパの交通をよく知る先生から聞いた話ですが、自動車のドライバーは自転車や歩行者の通行帯を示す外側線をまるでそこに壁があるかのように、絶対に入ってはいけない領域として遵守しているそうです。

【質問】

情動未発達の段階にある幼児等に対する対応事例を紹介したサイト・ホームページ等があれば、教えてほしい。

【回答】

インターネットで発達について検索することがあまりないため、ご紹介できないのですが、書籍や論文であれば本講座の引用文献を参考にいただければよろしいかと思います。また、私も共著者の1人ですが「子どものための交通安全教育入門 心理学からのアプローチ」では、実践教育の13事例が紹介されています。

【質問】

生態学的システムの「エクソシステム」と「マクロシステム」のちがいがよく分からなかった。ローカルルール等はどこに入るのか。

【回答】

急いで説明してしまい失礼しました。2つの違いに絞って説明しますね。両方とも外部からの影響なのですが、エクソシステムに比してマクロシステムは、より巨大であるということです。エクソシステムには、地域の交通文化や身近なドライバーの運転、交通参加のあり方などを含みます。したがってローカルルールは、エクソシステムに含まれます。対してマクロシステムは、日本の交通社会や文化的な状況といったより大きなサークルです。私が提示した図は、子どもの交通行動の形成は発達とともに

行動範囲や人との交流が広がり、複雑なシステムの中で培われていくという考え方です。

【質問】

去年は本市(生駒市)の YouTube 監修・講演いただきありがとうございました。奈良県では現在『渡るなら Let's sign!』をスローガンに子どもたちへ道路を安全に渡るため、「手を上げて合図して渡る」よう指導しております。子どもが横断の意思を明確に伝えるより良い方法はどのようなものでしょうか。

【回答】

近年になり、手を挙げて横断することが再注目されてきましたね。講義でも触れましたが、アイコンタクトは重要な要素だと思います。子どもではなく、大人でのデータですが、静岡県警察(2021)の報告によると、歩行者が横断歩道で手を上げて車両に顔を向けると、約 90%が停止しています。私見ですが、子どもの目で見つめられたらドライバーは停止したくなるのではないのでしょうか。

【質問】

先生のお話で、子供には「自分で考える、判断する領域を残しておく」事が必要と言う事を学ばせて頂きましたが、今、子供たちに横断歩道を渡る時に「渡り終わったら、止まってくれていた車におじぎをする」ところまで一連の流れで教えようとしていますが、必要だと思いますか。

【回答】

横断歩道は、歩行者が優先ですので車両は停止して当然ですが、お互いさまの気持ちを持つことは大切です。しかし、私が子どもたちに教える場合は、「止まってくれた運転手さんにありがとうと言おうね」と伝えていきます。私見を申しますが、停止してくれた時にアイコンタクトと同時に「ありがとう(大人は会釈やハンドサイン)」でいいのではないかと思います。そもそも交通参加者には上下関係がありません。子どもにおじぎを指導するのであれば、地域の大人たちも横断後におじぎをして見本を示さなければなりません。誰もがお互いさまの気持ちを持っていれば、横断後のおじぎは不要だと思います。

【質問】

ドイツでは親が横断(通学)を教えているとのことですが、日常的に親子で歩いて教えているということでしょうか。

【回答】

日常的にもですが、特に就学前になると親子で通学路を何度も一緒に歩いて学習させます(強制的な安全確認ではありません)。危険な場所を探したり、どうすれば安全に横断できるのかを考えたり、子どもと一緒に親も学んでいるのです。

【質問】

特に幼児向け教室において、最近は発達に問題のある子や個性的な子が多くいる。保育士の先生方のフォローもあるが、「1対1」では集中して聴くことや理解することができる子も、「1対集団」だと集

中できなかつたり、発言し続けて場を乱してしまつたりすることがある。私自身保育士資格があり、発達段階や発達障害についてある程度の知識や経験はあるつもりだが、「交通指導員」の立場で教室を行う際には、「全員に対して短時間でテーマをしっかりと伝える」ことを目的として「1対集団」で話す。命を守るためには、どのような子にも交通安全知識は必要であり、それぞれに合った方法で身につけてもらいたいと思っている。結局その場ではある程度の発言を無視して進行を重視し、「1対集団」での講義や実技に特化してしまい、細かいフォローやそれぞれに合った教え方は先生方にお任せして退室している状況である。どのような発達の子にも、短時間で目的に合ったテーマを分かりやすく伝え、興味を持って集中し理解してもらうには、どのように話せばよいのか、どのような手法があるのか、教えていただきたい。

【回答】

方法ですが、幼児期の発達は段階によって異なるうえに個人差もあるため、対象を絞り込んでグループワークを実施するのがいいと思います。知識を伝えるには、発達段階がそろっていなければ成立しません。また、知識の教示も重要ですが、自分で考えさせる安全教育も有効です。子どもたちに「ここどこかわかる」、「何が危ないと思う」などと各々が考えるような問いかけがいいです。この方法だと、発達に個人差があっても個人の中で問題について考えるため、ついていけない子どもの抑止にもなります。

その際の教材は、視覚からの刺激(情報)を生かしたものがいいのですが、提示する写真や事例は身近な話題、リアルな場所(環境)だと、より良い学習につながると思います。例えば道路標識を教えるときは、標識だけを拡大した図を見せるのではなく、実際に学校や保育所の近くにある標識を背景とともに写真に収めて提示するなどです。正門のすぐそばにある標識でもわからないと答える子どもは珍しくありません。

また、発達障害児への教育ですが、ASDの場合、「交通安全」に特化するのではなく、「交通教育」として交通社会への参加方法と一緒に安全を学んでいくのがいいでしょう。最初の段階として教室でルールやマナーを学び、次に施設内でリアルに近い環境を作って体験学習、そして最後は実際の交通社会に参加するなど、段階的に学習します。最後の段階では、地域のバス・電車会社などの協力があれば、より実践的な学習になり、交通関連会社の方々の発達障害の理解にもつながります。

【質問】

小学校一年生の歩行教室において、ある児童から「歩く人の信号がチカチカしたので止まったら、お母さんから手を引っ張られ、「何かこつけてるの、早く渡りなさい」と言われ、横断歩道を走って渡らされた。」と、話してくれました。このような大人(保護者)をなくしていくために、交通安全教育担当者として、どのようなことが出来るでしょうか。

【回答】

おっしゃる通り、見本にならない大人がいますね。交通行動に限らず、人間の行動を変容させるには、大きく分けて二つの方法があります。一つは「何度も繰り返して教育する」方法、つまり反復練習です。もう一つは「ええ、そうだったの」と思うような衝撃的な事実を伝えることです。自分の考え方を改め

させる目から鱗が落ちるような体験です。子どもの行動範囲は狭いです。地域の実情に合ったリアルな問題提起を考えてみてはいかがでしょうか。

また、自分の子どもへの交通安全教育の大切さを感じてもらうには「リアル」を感じさせることが重要です。本当のリアルは事故の当事者となってしまいますので、正確にはリアルに近い経験です。

【質問】

子供の身体、心理を深める事ができました。子供に対する安全教育とともに、保護者にも学んでもらう事、また「子供と保護者が一緒に交通安全を学ぶための教材」は有りませんか。

【回答】

子どもと保護者が一緒にコミュニケーションをとりながら学ぶ教材であれば、「あやとりい」(ホンダ安全運転普及本部 鈴鹿モビリティ研究会 児童用交通安全プログラム、監修:蓮花一己教授)がいいのではないかと思います。幼児用と児童用があります。

また、就学前の子どもであれば、絵本はいかがでしょうか。交通安全教育に特化した絵本がいろいろありますよ。養育者は絵本を読み聞かせることにより、自らの行動も律さねばなりません。

また、私が監修した冊子であれば、生駒市のロータリークラブ発行の「いつも会える笑顔 子どもの交通安全教育」も参考にさせていただけるとと思います。

●講義「いきいき運転講座」／12月7日(火)15:10～17:00

池田 佳代

(株式会社コンセプトン 代表取締役)

配布資料:「いきいき運転講座」教材



【「いきいき運転講座」の考え方と特徴】

「いきいき運転講座」とは

脳を元気にし、話し合いながら学び、交通安全力を高めることを目的としたユニークなプログラム。

講座の受講者数は2008年8月から約35万人にのぼり、約90%の交通安全教育指導者からは「受講者の反応がよかった」という回答があった。

受講者からは「自分が発言することで意識が高まる」「他の人の意見を聞くことで、自分が気づかないことが分かる」「時間があつという間にたち、楽しく勉強できた」などの声がある。講習が終わった後、「楽しかった」という声をかけてくださる方が多い。

交通安全担当者の方からは「みんなに考えさせ、発表させる教室は新鮮でよい」「人の意見を聞くことによって気づきや学びがある」「話し合う、考える、見るなどいろいろな場面があり、受講者を飽きさせない」という声があった。

「先生の話をもっと聞いただけで楽しくない」——交通安全教育に持たれているイメージを変えたいと願ってプログラムづくりに取り組んだ。

1. 「いきいき運転講座」の目的

- ・自動車乗車中死者数は減っているが、死者数に占める高齢者の比率が高くなっている。一方で、過疎地だけでなく都市部でも、買物や病院通いのために、運転を続けたい高齢者がたくさんいる。また、車は、便利さだけでなく、家族や友人との交流や趣味やスポーツなどを楽しむための移動手段として重要。いきいきした活動を支え、精神的にサポートする力もある。
- ・この講座は運転を必要とする高齢ドライバーに、長く健康で安全に運転を続けていただくために、(一社)日本自動車工業会が開発した。
- ・活力ある長寿社会に向けて、高齢ドライバーの運転行動、安全意識、生活活性度(いきいき生活)を高め、アクティブな社会参加の実現に貢献することを狙ったもので、実験教育の中で効果を検証しながら教材を作成した。
- ・交通安全、心理学、脳科学、高齢者の健康などの専門家6人でチームを作り、開発を行った。
- ・警察庁「高齢運転者交通事故防止対策に関する有識者会議」において、「いきいき運転講座」の有効性を認められ、評価された。
- ・筑波大学の研究チームによると、高齢者で運転をやめた人は、運転を続けた人に比べて要介護となる可能性が約2倍高くなるという。精神的なものも含めた「活動量」が減ると健康度が下がる。

2. 「いきいき運転講座」の考え方

- ①コミュニケーション力を高めながら、「いきいき度をアップ」する
活動的な人ほど長生きであり、身近に何でも話し合える仲間がいる人ほど、交通安全意識が高くなる。
- ②自分で考え、行動を変化させることで、「交通安全力をアップ」する
教え込むのではなく、気づきを通して安全性を高めることに焦点を置いている。

3. 「いきいき運転講座」の特徴

特徴1: よい仲間づくりをする

- よい仲間がいる人は安全に行動できる
 - ・小グループ学習
 - ・活動的な暮らしを推奨

特徴2: 話し合いを中心に進める

- 意見を出し合って自分たちで問題解決
 - ・気づきを促し、行動を変化させる教育メソッド(コーチング、自己評価法、ミラーリングなど)

特徴3: 脳機能を高めながら交通安全を学習できる

- 交通脳トレ+話し合い

特徴4: 免許がない方も参加できる

- ドライバー、歩行者、自転車等の立場で話し合い
 - ・それぞれの立場から意見を出すことで「気づき」があり、地域の交通安全活動全体に役立つ

【高齢ドライバー対象の実験例】

「一時停止標識と停止線のある信号機のない交差点」の安全な通過方法を聞き、その後、車に乗ってもらい通過方法を観察した。約80%の方々は「停止線で止まり、安全確認してから徐々に道に出る」と、正しく答えた。しかし、実際に車に乗ったときに停止線で止まった方は約15%だった。

- 知識と行動のギャップをどう埋めるのか
 - ・問題点を単に伝えるだけでなく、問題点を気づかせることがポイント。
 - ・小グループでのディスカッションや、運転の問題行動をビデオで観察する手法などを使っている。

4. 「いきいき運転講座」の構成

「交通脳トレ」+「交通安全トレーニング」

- ・指導者用資料には「今日、話し合うための台本」が入っている。
 - ・挨拶、話し合いの進め方、発言を引き出す方法など、そのまま読み上げるだけで、講座を進めることができる。
 - ・初心者もベテランも同じレベルで講習を展開できる。
- ※地域や個人間でレベルのバラツキが出ないように、統一的なプログラムになっている。

【進め方】

- ①「交通脳トレ」で脳の機能を高めておく
- ②「交通安全トレーニング」では、ワークシートを活用する



交通脳トレ



交通安全トレーニング「自分の運転を振り返る」

【「いきいき運転講座」体験】

1. 「いきいき運転講座」の流れ

準備

- ・5～8人一組のグループに分ける。
- ・各班の班長を決める。
- ・班員は1名につきひとことを原則とし、班長がまとめて班の意見とする。

1. 挨拶と自己紹介

- ・グループ内で自己紹介(名前、地域、趣味など)をすることで雰囲気が和む。 ※アイスブレイク

2. 交通脳トレ

- ・脳の機能を高める「交通脳トレ」1日分、3問を実施。
※ほかの人と競わないで、マイペースでやることを強調する。

3. 交通安全トレーニング

- ・ワークシートを活用し、グループで話し合う。

例「自分の運転を振り返る」

①運転の自己評価

四輪車に乗って、一時停止標識と停止線のある細い道から2車線道路に出る際に、きちんと止まって、安全確認をしているか、ふだんの運転を振り返って、100点満点で自己評価する。

②安全な通過方法を話し合う

どのようにすれば安全に通過できるか、グループ内で1名ずつ意見を述べてもらい班長がまとめる。
※意見を出し合いながら、正しい答えを参加者全員で作っていく。

③ビデオを見る

実際に停止線で止まった車の数を数える。(通過車両15台すべてが止まっていない)

④ビデオを見た後の感想

ビデオを見てどう思ったか、どんな感想を持ったかを話し合う。(自動車、自転車、歩行者等のお互いの立場等でも行う)

⑤ビデオの解説編を見る

ビデオで自動車、自転車、歩行者等の問題行動を確認。問題行動(自動車は停止線で止まらない、自転車、歩行者は安全確認をしない等)の原因と解決法をグループで話し合う。

⑥もう一度、運転の自己評価

100点満点で運転の自己評価を再度行う。映像を見たり、話し合いを行った後、自己評価に変化があったかどうか確認する。

※自分ではきちんとやっているつもりでいたが、実際はやっていなかったことに気づく。

100点未満の人には、100点になるにはどんな行動をとればよいか考えてもらう。

⑦「今日、覚えてほしいこと」を確認

学習したことを整理するため、最後に「今日、覚えてほしいこと」を読み上げると効果的。

2. 進め方のポイント

(1) ふだんの運転を振り返り、講座の前後に100点満点で自己評価

・前後の点数の差で、学習効果をつかむことができる。講習後は自己評価の点数が下がる人が多い。自分の運転の問題に気づき、客観視できるようになったといえる。

(2) 正確(安全な行動)を出してから、現実(危険な行動のビデオ)を見て比較

※いきなりビデオを見せない

・ビデオを見せる前に、グループで話し合い、正しい通過方法を確認すると学びが深まる。

(3) ビデオを見ることで、人の振りを見て、我が振り直す

・問題行動を見ることで、自分の問題点を気づくことができる。

(4) 違う意見、共感する意見の中から学ぶことができる

・異なった意見を聞くことで気づかなかったことを発見したり、共感したりして学びを得る。

●台本があるので気軽に使ってみる。

【「いきいき運転講座」の話し合いの効果】

●自分の意見を言い、人の意見を聞く中で、学び合い、「気づき」や「発見」がある。

●1人では無理でも、グループで話し合えば、みんなの知恵が集まって、指導者が伝えたいと思っていることが考え出せる。

※指導者は、よい答えは褒め、足りない意見を補う。

●自分たちで考え、見つけた答えは忘れない。

【よくある質問】

●高齢者は本当に交通安全について話せるの？

・交通参加者としての長い経験があり、わいわいがやがやと楽しい交流ができる。

●高齢者は「班長」になって、話の進行役ができる？

・先生、管理職、地域の世話役経験者をお願いする。

・会議の要領を進める。

●面白そうだけど、もっと短時間でできないの？

- ・グループ分けせず、指導者と受講者全体がキャッチボール方式で行う方法もある。
- ※「30分でできる」など自動車工業会のホームページにある「好事例集」を参照

【その他のプログラム】

「いきいき運転講座」には、「いきいき運転・いきいき生活」「危険予知トレーニング」「ヒヤリ地図をつくる」など、全部で4種類・3レベル、合計12の交通安全トレーニングがあり、「交通脳トレ」と組み合わせたの応用ができる。

活用については

- ・高齢者向けでは「シニアドライバースクール」「高齢者交通安全教室」「交通安全大学」「市民講座」など。
- ・壮年・子供向けでは「社員教育」「安全運転管理者教育」「小学生、中学生の授業」など。
- ・自動車工業会のホームページでは、お試しセットなどの教材を提供している。
- ・指導者研修を無料(交通費別途)で行っている。

===== 質問・回答 =====

【質問】

講座で取り上げた一時停止の交差点は、実際に事故の多い場所なのか。

【回答】

必ずしもそうではないが、車の行動を見るという点で適切なので選びました。
このような場所は、実際に危険です。

【質問】

教材は無料でダウンロードできるのか。

【回答】

日本自動車工業会のホームページからすべて無料でダウンロードできます。

【質問】

脳トレが3ヶ月実施とあるが、講習会で実施しない分はいつやるのか、各自でやってもらうのか。

【回答】

ほかの問題は、自宅で、週5日間(週休2日です)、1日10分程度で実施していただきます。

【質問】

ありがとうございました。この講座を子ども向けにアレンジする際にどこをどうすれば良いですか。ア

ドバイスをお願いします。

【回答】

2021 年度に小学 4～6 年生、中学生 1～3 年生を対象に講座を実施された自治体におたずねしました(小学生は学習力からみて小学 4 年生以上を対象に実施)。

- 教材に書いてある内容を「その通りやりましょう」という交通安全教育のやり方には物足りなさを感じ、子どもに考えさせる教育をしたいと考えたとき、「いきいき運転講座」はそれにぴったりだと思い採用した。
- どの学校でも「いきいき運転講座」のワークシートをそのまま使っている(小学生の場合は、ワークシートにフリガナをふり、理解しやすいように工夫)。小中学校ともアクティブ・ラーニングが定着し、質問に対し答えていく、という手法は子どもたちに抵抗なく受け入れられているためだ。
- ワークシートの質問に一つ一つ答えてもらうが、子どもたちは自分の意見をたくさん記入してくれる。記入後発表してもらうが、自分で考えたことを自分の言葉で発表してくれる。その様子に感動した。
- グループ学習をする場合、講習時間に限りがあるため(小学校 45 分、中学校 50 分)、事前に先生がグループ分けをしている。感染拡大につながらないように、グループ学習はやめ、個人での作業に変更した学校では、1 問について、数人に答えてもらう、という質疑応答方式をとった。

【質問】

「いきいき教室」を開く中で、リーダーを決めたり、意見を求めたりする事を嫌がる人もいますが、そのような時はどうすると良いのでしょうか。

【回答】

これまでの経験では、参加者のみなさんが打ち解ける雰囲気づくりをすることが大切だと思います。次の質問でご紹介していますが、講座の最初に自己紹介をしていただくとういでしょう。気分がほぐれると、リーダーを決めたり、意見を言うことに抵抗が少なくなります。

リーダーを決める際には、「会議の進行役のようなものです」と説明し、じゃんけんでも、推薦でもよいですから、選んでくださいとお話しています。

【質問】

グループに分けたとき、初対面の人同士でちゃんと話し合いができるのか心配に思います。実際に交通教室にグループ討議を取り入れたとき、話し合いをスムーズに始められるような、指導者側の声掛け、段取りについてアドバイスをいただければ嬉しいです。

【回答】

初対面の人同士でもすんなり話し合いが進むように、講習の最初にグループごとに自己紹介をしていただくことをお勧めします。

今回の研修では時間の関係で実施できませんでしたが、①お名前、②住んでおられる地域、③趣

味、あるいは今熱中していること、あるいは好きな食べ物など、お人柄が出ることをお話しいたきます。とくに⑧をお話しいただくことで、一気に距離が縮まり、空気が和らぎます。

【質問】

大変有意義な講習ができると思いました。また、それなりに時間も必要と考えます。本講習を実施するに当たって必要とする時間と内容をどの様に考えれば宜しいのでしょうか。最低1時間でも出来る事、2時間で行う場合、半日程度で行う場合など、具体例的なものは有りませんか(〇〇地区、〇〇時間、講習事項、脳トレ)。

【回答】

「ワークシート」は、1項目で、1時間を目安に構成しています。

今回ご紹介した「自分の運転を振り返る」は、四輪車用と、歩行者・自転車用の2つの項目があります。それぞれ1時間ずつで実施できるようになっています。

時間を短縮して実施したいという方もおられます。その場合は、グループ分けをせずに、質疑応答形式で進めます。質問ごとに3～5人に答えてもらうというやり方です。

日本自動車工業会のホームページの「いきいき運転講座」に「活動好事例」があります。教育現場でのさまざまなやり方や工夫を紹介しています。参考にいただければと思います。

●グループ討議結果発表／12月8日(水)9:20～10:20

「高齢者の交通安全」グループ

【課題 1】

運転の際のアクセルとブレーキの踏み間違いによる事故について

【対策案】

自治体が安全装置等の機器を設置→助成制度の確立

【実施上の問題点】

デジタルに弱い高齢者のために紙媒体を使用して周知を図る。
→正確さ、時間がかかるなどが問題

【課題 2】

歩行の際の反射材と手上げ横断の実践について

【対策案】

- 講習会場で実際に付けてもらい、効果を体験
- 指導員が率先して実践

【実施上の問題点】

反射材や手上げ横断が、社会全体で当たり前という風潮になっていない。

【課題 3】

免許証の返納について→どのように促進するか

【対策案】

- 公共交通機関の割引
- スーパー等買物における割引

【実施上の問題点】

自治体と警察の連携が取れていない。
→返納と申請のためにそれぞれ別の場所に出向くのが負担

【課題 4】

講習を行う上での問題点

- マンネリ化
- 参加者との感覚のズレ

【対策案】

- 毎年、内容を変えて講習する
- 寸劇や腹話術等を使用し、趣向を凝らす。
- 流行を取り入れて興味を持ってもらう。
- 認知・判断に関するレクリエーションを通じて体感してもらう。

【実施上の問題点】

※参加者の立場に立って教えることが大切である。

「自転車の交通安全」Aグループ

【課題 1】

親世代(主として幼児・学童の保護者)への安全な乗り方の周知

【対策案】

- チラシ配布
- 警察と連携した安全教室に親子で参加
- 免許制にする
- ヘルメット着用義務化
- イベント等でブースを設置して啓発
- シミュレータの利用
- 子供用塗り絵の裏面に保護者向けの注意点を記載
- 自転車販売店と協力し、無料点検を実施

【実施上の問題点】

働いている親は教室などに参加できない。

→運動会や各種式典など一斉に集まる機会や、ショッピングモール、三歳児検診等で啓発する。

【課題 2】

関心のない方への効果的な広報啓発(街頭含む)

- ヘルメット着用
- 保険加入義務化
- 反射材使用

【対策案】

- 団体と協力した啓発
- 来庁者への広報
- 自転車事故多発地点を記載したハザードマップを作成して活用
- 有名人とのコラボ(Twitter、インスタ、TikTok 等)

【実施上の問題点】

- 市内全域にわたるハザードマップの作成、配布は予算的に困難
→自治会の回覧板・掲示板での提示や、地区ごとの作成
- 有名人がいない
→地元企業とのコラボ

【課題 3】

中高生に向けて自転車の交通ルール・マナー等の啓発と、自転車への認識

- イヤホン着用
- 標識
- 一時停止等

【対策案】

- 免許制にして、講習を受ける機会を設ける。
- 自転車教育実施校に免許証のようなものを配布
- 自転車に貼るシールを配布
- 自転車通学の学校への届出

【実施上の問題点】

届出制にしても、ルールを守るとは限らない。

- 文化祭や体育祭等イベントでブースを設置し広報
- 登下校時、高校生同士が、注意・啓発(岐阜県で実施例がある)

「自転車の交通安全」B グループ

【課題 1】

- 交通安全教室は、コロナ禍で対応が難しい。
- 地域では工夫されているが、共通の教育プランがない。

【対策案】

指針が必要

【実施上の問題点】

小・中・高それぞれの目標設定が必要

【課題 2】

- マンモス校では、自転車の持ち込みによる実技の実施に苦勞している。
- 実技教室では、全員が乗れない場合がある。
→ハンドルのみを使用した教室の開催(放置自転車のハンドル部分を活用)

【対策案】

ハンドルのみの活用時、低学年では重いと感じる児童がいる。
→軽い素材で自作したハンドルを使用

【実施上の問題点】

ブレーキのかけ方が体験できない。
※体験することが大切

【課題 3】

高齢者の自転車のマナーが悪い。
→交通ルールが周知されていない。

【対策案】

自動車運転免許の更新時に周知ができないか。

【実施上の問題点】

免許更新時の研修時間は限られている。
→自転車にかける時間確保が難しい。

「幼児・児童の交通安全」Aグループ

【課題 1】

都道府県の道路の渡り方に違いがある。

ほとんどの県では、「止まって手を上げて左右の安全を確認して渡る」という教育がされているが、手を上げることの問題点がある。

- 集中力が低下する
- 視界が妨げられる
- 手を上げることに集中してしまい、安全確認を怠る

※「手を上げる」ことは「意思表示」であり、渡る際には手を下げるという指導をする例もある。

→交通教室での映像と講話が食い違ってしまう。

【課題 2】

年少の交通教室で集中力が切れているのが目立つ。

【対策案】

- 靴や服装を褒めると集中力が伸びる。
- 歌や色を使って、信号の話につなげる。
- 絵本や人形劇を用いる。

【課題 3】

集中して聞いてもらうための工夫

【対策案】

- DVD や事故を再現した映像を流す。
- マジックや着ぐるみを活用する。

【実施上の問題点】

インパクトがありすぎると、交通教室の内容ではなく、「マジックがあった」「着ぐるみがいた」だけが印象に残ってしまう。

【課題 4】

飛び出しに対する交通教室の指導方法

【対策案】

- 繰り返し教える。
- 実験などを通して「危険」を体感させる。
- 絵本を活用する。

【実施上の問題点】

- 実際の道路で教えることが難しい。
- 園庭が狭い小さな施設では実践が難しい。

【課題 5】

小さな子供の自転車の交通教室における課題

- 乗れない子供は見学や歩行となり、教室自体が嫌な記憶になってしまう。

【対策案】

ハンドル部分のみを使用して参加させる。

「幼児・児童の交通安全」Bグループ

【課題 1】

保護者に対してどのように交通安全意識を高めていけるか。

【対策案】

- 自宅での会話のきっかけになるように、実際に発生した事故事例を掲載したチラシを配布する。
- 入学説明会、就学時健診、講演会、母親学級等での啓発をし、より多くの人に知ってもらう。
- 保護者教室でのチャイルドビジョン体験を通して、幼児の特性について理解を深める。
- 市役所、児童館等、短時間での周知を行う。
- YouTube、Twitterなどで発信する。

【実施上の問題点】

- 意欲的な保護者以外は、わざわざ仕事を休んでまで参加しない。
- SNSのフォロワー数が少ない。
- 交通安全教材は高額なものが多く、予算が足りない。
- 保護者教室の開催にあたっての指導員不足や、日程調整が難しい。
→申し込み自体も少ない。

【課題 2】

幼児、児童に対する効果的な教材について

【対策案】

- 自作の紙芝居、パネルシアター、動画の作成
- 手作りのキャラクターのお守り、お約束バンドの配布
- 着ぐるみを使った寸劇
- 教室後に、学年別のワークシート型クイズを配布し、指導内容の理解を深める。

「幼児・児童の交通安全」Cグループ

【課題 1】

講習時における横断歩道の渡り方の指導効果

→幼児自身が安全の理解ができているか判断が困難

【対策案】

- 年齢に応じてパネルや横断歩道マットなどの教材を使い分ける。
- 実際の道路状況により似せて指導することも必要。

【実施上の問題点】

- 予算上の制約があり、充実した教材が用意できない。

【課題 2】

コロナ禍での活動について

- さまざまな制限の中でどのように活動しているのか

→密を避け、人数・回数・場所を工夫しているが、対策が会場によってまちまちのため、児童や指導者の健康を守れるのか不安

【課題 3】

無謀運転から子供を守る方法はないか

【対策案】

- 小さいころから何度も交通安全教室で学ぶことにより、安全運転ができる大人を育成する。
- 子供だけではなく、大人も教育する施策展開が必要。

「幼児・児童の交通安全」Dグループ

【課題 1】

コロナ禍での交通安全教室の実施方法

- 実施できる教室の減少
- 実施方法の変化(実施者・参加者の人数制限、時間短縮)

【対策案】

- 放送室からリモートで各教室のモニターと結んで交通安全教室を実施
 - 地域のキャラクターなどの協力を得て動画を作成し、YouTube で配信
 - 実際の交通安全教室の DVD を配布
 - 全学年ではなく、対象を絞って実施
- 保護者対象に zoom で実施した例もある。

【実施上の問題点】

- 相手の反応がわからないので、一方通行になりがち
 - 動画作成にあたり、機器操作のスキルが必要
 - 実施できなかった対象には、同じ内容の手作り紙芝居を利用
- ※リモートや DVD 視聴では物足りないので、子供たちとの生のやり取りを実施してほしいという要望もある。

【課題 2】

保護者の交通安全教室の実施

- 身近な保護者が交通ルールを守れていない
- 意識改革の必要性

【対策案】

- 年 1 回、警察と連携した親子交通安全教室(年少向け)を実施
 - 送迎時の保護者にチラシを配布
 - 育児講座、入学説明会、各種式典などで、保護者と話す機会をつくる。
 - 授業参観日にも保護者に話す時間があればよい。
- ※保護者が集まる機会を知り、依頼を待つのではなく、積極的に働きかける

【実施上の問題点】

小学校(教育委員会)、幼稚園、保育園、児童館への協力依頼が必要

【課題 3】

交通指導員と見守り隊(ボランティア)の指導方法の相違について

→例として、点滅信号の場合、指導員が次の青まで待たせるが、見守り隊の中には急いで渡るよう指示する人もいて、子供たちは何が正しいかわからなくなることがある。

【対策案】

指導員・見守り隊は、警察官とは立場が異なることを伝える。

- 会議など機会あるごとに指導方法を話す。
- 市役所の職員が間違いを指摘する。

→市役所の車両広報時に見回りチェックをしている。

※交通安全教室の際に、指導員が指導方法についてのきちんとした説明をして、同じやり方にする必要がある(「やり方カード」を回している例もある)

【実施上の問題点】

- 指導員が見守り隊の人に注意するのは、立場的に難しい。
- 警察や市役所、元警察官などの立場からの指摘であれば受け入れられやすいのではないかと。
- ※「正しい横断旗での誘導方法」を作成し、周知徹底する。

【補足】「幼児・児童の交通安全」Aグループ

山形県では、「ストップのお約束」を教室の始めと終わりに必ず練習している。

「道路を渡る際は、手前できちんと止まって『手を上げて』、車が止まったことや、車が来ないのをきちんと確認できたら『手を下ろして』横断してください」という指導である。

車が全く来ていない見通しのいい道路であれば、手を下ろしたままでも可能だが、普段の指導では、「手を上げて」と指導している。

【補足】「幼児・児童の交通安全」Aグループ

岩手県では「横断しているときは手を下げて」という指導はしていない。渡っているときに自然に下がってしまった児童に対しては「下げたままでもよい」と話している。

【質問】

教室の内容をDVD化するとあったが、指導員の講話だけか。実技指導もプラスされているか。

【回答】

普段行っている教室をそのまま映したものではなく、JA提供の「幼児の歩き方教室」や「自転車教室」の映像をもとに、キャラクターなどの協力を得てオリジナルのDVDを作成した。

【質問】

「チャイルドビジョン体験」とはどのようなものか。

【回答 1】

子供の視野を体験できるメガネのような制作キットがインターネットでダウンロードできる。それを組み立てて、保護者教室で活用している。

【回答 2】

以前は、ダウンロードしたチャイルドビジョン用のメガネを複数で使い回していたが、コロナ禍では難しくなった。手で目の周りを囲うと、チャイルドビジョンを使っているのと同じような視野になるので、保護者にはその方法で子供の視野を体験してもらっている。

【回答 3】

(実物提示)名古屋市では、必要に応じてチャイルドビジョンを各小学校の新1年生の保護者に配布している。

【質問】

「お約束バンド」とは、具体的にどのようなものか。

【回答】

「信号を守る」と「飛び出しをしない」という 2 つの「お約束」を印刷してシールを貼ったもの。真ん中には子供の好きなドラえもののシールを貼り、左右に 1 つずつお約束を印刷した、手に付けるタイプのものである。

自分たちで作成し、子供に家に持ち帰ってもらうことで、ご家族と交通安全について話をするきっかけになっている。

ピカチュウの交通安全のお守りも作成し、後面にお約束が書かれている。

マスクをしたウサギやトトロを折り紙で作っている。折り方は YouTube で「ブレスレット 折り紙」で検索すると出てくる。

●講義「自転車の安全利用のために」／12月8日(水)10:30～11:40

彦坂 誠

(一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 次長)

配布資料:「自転車の安全利用のために」



●問題1「正しいのはどちら？」 ①発煙筒 ②発炎筒

→ 光を見せるものであるため、②が正解。

●問題2「設置場所はどちら？」 ①助手席側 ②運転席側

→ 事故時には運転手は焦ってしまうため、助手席の人が使えることが重要。①が正解。

・交通ルールも大切だが、雑学的な話で興味を持っていただくことができる。

1. 近年の自転車安全対策の取り組み

(1) 第11次交通安全基本計画の概要

- ・令和3年度スタートの基本計画の中にも、自転車の課題が入っている。
- ・目標は 24 時間死者を 2,000 人以下にすること。世界の人口 10 万人当たりの交通事故死者数を見ると、日本は交通事故の少ない安全な国と言える。
- ・道路交通環境の整備として、歩行者・自転車・自動車の適切な分離が図られつつあるが、なかなか広がっていない。
- ・運転免許を持たない若者が自転車に乗るため、ヘルメット着用等、交通安全思想を普及徹底させていく機会を広げていただきたい。
- ・損害賠償責任保険への加入を促進する。
- ・自転車関連事故件数等の推移としては、事故自体は下がっているが、自転車の関与率は右肩上がりに上がっているのが現状。比較的平坦なエリアは高止まりしている。

(2) 交通安全白書でみる交通事故の実態

- ・年齢層別の交通事故死者数は、高齢者の事故率が上がってきている。高齢化が進んでいる現状では大きな課題である。
- ・状態別に見ると、自転車の事故では死者は少ないが重傷者が多く、障害が残り生活が一変する。
- ・65 歳以上の高齢者が、自転車の交通事故で多く亡くなっている。損傷主部位も頭部損傷が5割以上を占めていることから、ヘルメットの重要性が分かる。
- ・交通事故死者の割合は、日本では歩行中や自転車が車にぶつかっている場合が多い。対自動車の事故では、自転車側にも 78%の法令違反がある。
- ・自転車のルールは複雑で、分からないまま乗っているようだ。ルールの啓蒙がまだ必要である。
- ・対歩行者事故では 100%自転車側に法令違反がある。自転車の危険性とルールを啓蒙してほしい。

(3) 自転車の交通ルール改正の流れ

・歩道を走り、歩行者用信号機で横断歩道を走って歩道に乗るスタイルが定着している。高度経済成長期からルールは変わっていないが、自転車の事故による被害を減らすために歩道を推奨する施策の時期があった。それにより自転車利用者の車両意識が薄れてしまった。

・自転車の車両意識の再確認のために「自転車安全利用五則」等ができた。

- ①自転車は、車道が原則、歩道は例外 ②車道は左側を通行 ③歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行 ④安全ルールを守る ⑤子どもはヘルメットを着用

2. 自転車の基本的なルール「自転車安全利用五則」

(1) 自転車安全利用五則

・自転車は、道路交通法上、「軽車両」であり、「車」と同じ。よって、自転車に乗るときは、自転車を「運転する」という意識・感覚を持たせることが大切。

(2) 五則の1「自転車は車道が原則、歩道は例外」

・自転車が車両であることを認識し、歩道に「普通自転車の歩道通行可」の標識・標示がある場合は歩道通行できる原則を理解していただく。

(3) 五則の2「車道は左側を通行」

・ドライバーの視野は右側の抜けがいい。左側通行であれば早めに発見されるが、右側通行では安全マージンが狭くなり、出会い頭事故が起きやすい。

(4) 五則の3「歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行」

・歩行者との事故は歩道が多い。自転車関連の相手当事者件数は、自転車単独、自転車相互、歩行者が増えている。

・「対〇〇速度」

「対歩行者速度」 ※正面衝突の場合 歩行者(5km/h) + 自転車(20km/h) = 25km/h

「対自動車速度」 ※左側通行の場合 自動車(40km/h) - 自転車(20km/h) = 20km/h

「対自動車速度」 ※逆走の場合 自動車(40km/h) + 自転車(20km/h) = 60km/h

・自転車は自動車よりも止まりにくいいため、歩道内は大変危険性があるので、すぐに停止できる速度で徐行しなければならない。

・歩道の通行方法は、車道寄りを走行する。

・歩道のない路側帯の通行方法は、平成 25 年の改正道交法により道路の左側に設けられた路側帯を走行。路側帯がない場合は車道の左側を走行する。

・様々な自動車通行部分

「自転車道」 ※工作物で区画された独立した道路で、相互通行可。歩道と車道は通行不可。

「自動車専用通行帯(自転車レーン)」 ※車道左側のレーンを通行。相互通行不可。

「自転車歩行者道」 ※歩道は歩行者優先、車道寄りを徐行。

「車道混在(自転車ナビライン)」 ※自動車に車道内で自転車が混在することを注意喚起。

(5) 五則の4「安全ルールを守る」

- ①飲酒運転の禁止。2人乗りの禁止（幼児座席に乘せる子供の年齢制限を確認）。並進の禁止（前方不注意の原因）。
- ②夜間はライトを点灯。ライトの安全基準は、自分の前方の安全確認のため、10m先まで照らせなければならない。点滅型のライトはNG。常時点灯と並行して使わなければならない。
 - ・自分の存在を相手に知らせることが重要。
 - ・自転車の無灯火事故で高額賠償になった例が多い。
- ③信号を守る（信号の意味）
 - ・「歩行者・自転車専用」の標示がなくなり、自転車横断帯がなくなってきているため、自転車などの信号に従うか、理解している人が少ない。
- ④交差点での一時停止と安全確認
 - ・信号機のある交差点では必ず二段階右折する。自転車は第1車線のみ通るルールがあるため、右折信号に従うことはできない。
 - ・交差点横断時、歩行者用信号が青でも右折車がぶつかる危険性がある。自動車のピラーの死角があるので、ドライバーとアイコンタクトをすることが必要。
 - ・単路の信号は横断歩道上での衝突が発生しやすいので危険。
 - ・信号機がなく見通しが悪い交差点での一時停止標識・標示は必ず止まる。優先道路側の走行車は減速しないので重大事故につながる。
 - ・傘さし・携帯電話・イヤホン等使用運転の禁止。運転者の非注意性盲（見えているが認識できない状態）の問題。

(6) 五則の5「子どもはヘルメットを着用」

- ・ヘルメット着用による効果は非常に高い。自転車で転んだときに縁石で頭を打つ問題もあるので、大人でも重要。
- ・道路交通法に努力義務として、保護責任者は幼児・児童に乗車用ヘルメットをかぶせるよう努めなくてはならないという項目があるが、7割方の親が知らない。その方々に知っていただくだけでも着用率が上がる。
- ・愛媛県ではヘルメット着用率が高い。ヘルメット着用宣言など広報の仕方が上手。
- ・シンプルでおしゃれな高校生向け自転車ヘルメットやエアバッグ型ヘルメットもある。

(7) 自転車運転者講習制度

- ・罰則規定がついているのがポイント。3年以内に複数回違反等で講習制度を受けなかった場合は罰則規定がつくので、そのようなことがないようにしてほしい。
- ・文字だけでは分からないので、絵をつけて伝えていただきたい。

(8) 電動アシスト自転車の注意点

- ・交通統計でも自転車は補助動力付きとなしで分けるようになってきた。親子乗り自転車で電動アシスト自転車デビューが多く見られる。

- ・人力1に対して補助動力2の力がつくので、坂道や最初の漕ぎ出しが軽い。10km/h を超えて24km/h になると補助動力が0になる。
- ・補助動力で加速がよいが、周囲は決して速くないので急発進しない。また、加速域が短く、重いために停止距離が延びる。
- ・車体が大きく、急な危険回避がしづらい。車重＋自分の体重＋子供の体重＋荷物等で、100kg 以上のものが約 20km/h で衝突することを理解していただく。
- ・親子乗り自転車(幼児2人同乗用自転車)では、前抱っこは子供がエアバッグのようになり危険。

(9) 自転車の点検・整備

- ・一番重要なのはブレーキ。また、夜間であればライトが重要であることを伝えていただきたい。

(10) 電動キックボードについて

- ・原動機を有しないキックボードは遊具なので、交通のひんぱんな道路で遊んではいけない。
- ・電動キックボードは原動機付き自転車なので、運転免許、ヘルメット着用、ナンバープレート装着、軽自動車税納付、自賠責保険への加入が必要である。
- ・特例電動キックボードは、特殊自動車に位置づけることによりヘルメットの着用を任意とし、自転車道を通行できるようにすることなどを、実験的に検証中。実証実験の区域内の道路のみ走行。

3. 自転車で事故を起こしたときの義務

(1) 救護措置、危険防止措置義務

- ・事故を起こしたら、まず負傷者を助け、保護する。119 番へ通報する。

(2) 報告義務

- ・警察への報告義務。110 番通報。
- ・札幌市で、大学生が自転車で歩道を走っていて、子供が飛び出してきてぶつかったが、大丈夫だと言われてそのまま立ち去ったが、警察に報告しなかったため、ひき逃げ犯として逮捕され、その後の人生が一変した。
- ・賠償事例も高くなってきているが、保険を下ろすためには事故証明が必要。その意味でも警察への報告義務が非常に重要になる。
- ・相手がいなくなったケースでも、ぶつかったことの報告をしておけば、相手が名乗り出た場合に連絡が来るので、伝えておくべき
- ・例示した高額事例は裁判事例。示談になっているものは既に1億円を超えているのではないか。

4. 自転車事故と保険

(1) 自転車損害賠償責任保険等義務化の状況

- ・現在、自転車事故の際の相手方への賠償は、自動車事故の場合と同様に高額となっている。自転車を運転する場合は、必ず保険に入っておく必要がある。
- ・全国的に義務化にはなっていないが、条例が改正されているところもあるので、どんどん推進し

ていただきたい。

(2) 自転車事故に備えるための保険

- ・自分を対象にした傷害保険に入っている人が多いが、今は加害事故に対する補償。
- ・自転車向け損害賠償保険・共済には、各種保険等の特約、クレジットカード等の特約、自転車単体の保険等があり、示談交渉サービス等が付いているかも確認していただきたい。

===== 質問・回答 =====

【質問】

山口先生へも質問したのですが、ヨーロッパ等における自転車が街中を走る道路環境がどのように違うのか教えて下さい。これは私の勝手な考えです。幼児児童に対する教育で実際の道路での訓練は危険が伴いますが、その心配がないような場所、例えば交通教育に特化したテーマパークでの実施。テーマパークを建設する計画はないものでしょうか。

【回答】

日本に比べ、ヨーロッパ等では早い段階から、歩行者・自転車・自動車専用道による分離がなされているイメージがあります。特に環境汚染等の問題もあり、移動に関する自転車分担率がさらに進んでいるのではないかと思います。所によって違うとは思いますが、地方分権などが進んでいる国ですと「職住」の距離感は近く、自転車通勤者も多くいるようです。さらに最近では、コロナ感染防止の観点から自転車を利用する方は、世界的に増えています。日本でも同様に自転車利用者は増える傾向にありますが、長距離移動というよりは、買い物などの短距離移動が多いのではないのでしょうか。そうなると、日本のような狭い国土で、道路脇が建物で囲まれている環境では、なかなか「専用道」が増えないのが現実だと思います。日本では「歩道通行」意識が長かったこともあり、結果として、歩行者・自動車双方から「邪魔者扱い」されがちです。今後、「自転車の車道通行」が本当の意味で浸透することで、自転車通行環境も変わってくると思います。

ご指摘のありました実際の道路での訓練は「道路使用許可申請」のこともあり、「交通公園」が交通安全教育の場として想定されると思いますが、「交通教育特化型テーマパーク」は面白いと思いました。交通他者のいない中での教育ではなく、交通指導員による「混合交通を再現した」中での訓練はより実践力を養うことができると思います。

【質問】

配付資料 P86 で「自動車運転免許等の停止処分」とありますが、自転車の運転で自動車免許に影響することがあるのでしょうか。

【回答】

「道路交通法第 103 条第 1 項第 8 号」において、自動車の運転免許停止処分が可能となっています。

実際に平成 26 年、自転車で酒酔い運転をしていた男性が、高齢女性に衝突し骨折させたにもかかわらず、「危ないじゃないか」と被害女性を怒鳴り、救護せず逃走するなど、悪質であり、今後も同様の「交通の危険を生じさせる恐れがある」などと判断され、180 日間の中型運転免許の停止処分となっています。

【質問】

自転車関連事故件数が減少傾向にある中で、減少傾向をたどっている一番の要因は何だと思われますか。

【回答】

自転車専用通行帯等の自転車走行空間の整備など、自転車が安全に通行するスペースが増えたことも一因だと思います。以前と比べ、最近ではインターネットなどで情報を得ることができるので、自転車の正しい通行方法を知ろうとする方々も多いのではないかと思います。また、全国各地の様々な交通事故のニュースも日々入手可能な状況ですので、注意する方々は多いのではないかと思います。

【質問】

パワーポイントがとても分かりやすかったので、使っているパワーポイント教材や素材を使わせてもらうことは出来るか。

【回答】

皆様にご使用いただきたいところですが、イラスト等(自転車等の各パーツなど)の著作権のこともあり、お断りしている次第です。大変申し訳ございません。

【質問】

被害者にも加害者にもならないような安全な乗り方を学ぶことが出来た。スウェーデンのエアバッグ式ヘルメットは始めて知りました。電動キックボードも3種類程度あるとのことなのでそれぞれの違いをよく学びたい。大人も含めたヘルメット着用について、より多くの人に周知するため効果的な方法は。

【回答】

電動キックボード関連としましては、養成講座開催以降に、警察庁から有識者検討会の報告書を発表され、規制緩和する方向との報道がなされました。電動キックボードを含む電動車いすなどの電動モビリティを速度で分け、「①歩道通行車(6~10km/h 以下):歩道・路側帯通行可、②小型低速車(15~20km/h 以下)車道や自転車専用通行帯等通行可、③既存の原動機付自転車等(15~20km/h 超):車道のみ通行可、要免許・ヘルメット」として、更なる検討を行うようです。

自転車ヘルメット着用促進については、周りから「使用しなさい」というのであれば「義務化」に勝るものはありません。しかし現状では、周囲で「着用者が増えている」という状況を作り出すことが着用増加につながるのではないかと思います。そのためには、行政を中心に地区の企業等にも協力してもらい、「皆がヘルメットを着用している」環境をつくることもひとつではないかと考えます。

【質問】

アシスト自転車の信号待ちでペダルから足を降ろすとなっているが、両足降ろした方が良いのか。

【回答】

電動アシスト自転車は、人の踏力に対して電動で補助力を加えるもので、人力を「1」とすると、最大「人力の2倍」の補助力が加わり、「3」の力を発揮します。そのため、踏力の弱い女性や高齢者でも坂道を上ったり、重たい荷物も楽に運んだりできます。言い換えれば、弱い力でも、前に進もうという力が加わることとなりますので、停止している時は前後輪ブレーキをしっかりとかけ、不用意な前進を避けるため、ペダルに力が加わらないようにすべきです。

たとえば信号待ちをしている時にくしゃみをするなどして、意識せずに力が入ってしまった際に飛び出さないようにするため、信号待ちでは両足をペダルから降ろすようにしましょう。

【質問】

ありがとうございました。動画などがポイントごとであり、大変わかりやすかったです。お話の中で、東京では傘さし、ながらスマホ運転が減ってきているとの事でしたがその原因はどのような事が考えられますか。

【回答】

傘さし運転については、当初、傘さし運転が違反であることを知らない方々も多くいたようです。そのため、自転車安全利用五則が発表されたと同時に、関連法令も紹介される中で、徐々に違反であることが浸透していったと思います。主婦層を中心に傘さし運転違反の話は広まり、同時に街中で様々なデザインのカラフルな雨合羽が増えた印象です。

ながら運転については、ながら運転を起因とする交通事故のニュースが大きく取り扱われたことが大きかったと考えます。しかし、イヤホン使用運転防止は、まだこれからの状態ですので、事故防止を進めてまいりたいと思います。

【質問】

ヘルメットの着用が重要なのは十分承知ではありますが、小学校までは当たり前に着用していたヘルメットを中学生になると「格好悪い」と着用しなくなってしまう。色々な事例を出し着用するように促しますが、学校へ行く時は仕方なく着用し、遊びに出る時は決して着用しません。そのような子供達に、何か良い方法はないか教えて頂きたいです。

【回答】

現在の「ヘルメット着用」の状況を垣間見ると、「子どもだからヘルメットを」という風潮になっているのではないかと思います。所によってはランドセルカバーも「あれは小学校1年生が使用するもの」というイメージがあり、2年生以降使用しないという流れができてしまっている、ということと同じかと思います。ヘルメット着用については、大人が積極的に着用しないといけないと思っています。その上で、子ども、大人関係なく「自転車ではヘルメットを着用するもの」という「新しい常識」が必要ではないかと思います。

経済的な理由などもあり、法令等で規定するにはまだ難しいと思いますが、子どもから見て「ヘルメット着用＝大人」というイメージができるとういと考えます。

【質問】

パワーポイントの使い方、電動アシスト自転車の危険なところの指摘ポイント等とても勉強になりました。配布資料 83 ページでの左折レーンがある場合の自転車での直進についてですが、当市では別添のような左折専用レーンがある交差点があり、どのように指導してよいかわからず苦慮しています。左折レーンの直進については講習では質問がない限り触れないようにしていましたが、①について、JAF から問い合わせ②について、講習先の高校生から質問がありました。完全な回答は出来ませんでした。自転車のための道路環境が整備されていないのが一番の問題なのですが、左折専用レーンの正しい通行方法を指導するため、現状での正しい通行方法についてご回答いただければ幸いです。また、インターネット上では左折専用レーン(車両通行帯)が設けられた道路では、数えて1番左端の通行帯を通行すればよく、車両通行帯のない道路のように左側端に寄って通行する義務はなく、後方からくるクルマに注意しながら左折レーンの右側によって走行できると記載されているサイトもありますが、この解釈は正しいのでしょうか。安全上問題があるとおもうのですが。

【回答】

左折レーンがある交差点での直進方法についてですが、右左折・直進レーンといった進行方向別通行区分規制のある車両通行帯の設けられた交差点では、その通行区分に従って当該車両通行帯を通行しなければなりません。自転車(軽車両)は、この進行方向別通行区分規制からは除外されています(道交法第35条第1項)。

また、車両通行帯があるところでの通行方法の基本は、「道路の左側端から数えて一番目の車両通行帯を通行しなければならない(道交法第20条第1項)」となりますので、自転車は道路の左側端にある左折レーンしか通行できないとなります。

ご指摘の「左折レーン内の右側に寄って通行できるか」という点ですが、道交法第18条第1項で「軽車両にあつては道路の左側端に寄つて、それぞれ当該道路を通行しなければならない」となっていますが、まず、進行方向別通行区分規制は、そもそも自転車は規制から除外されていますので、自転車で交差点を直進するために左折レーンに入ることは問題ありません。

次に、車両通行帯のある道路は「道路の左側端から数えて一番目の車両通行帯を通行する」とこととされていますので、左折レーン内の右側に寄って通行することも可能ではあります。つまり、ご指摘があった通りで問題ありません。

これらを踏まえご質問の交差点を見てもと、どちらも「導流帯」が設けられ、左折レーンの先は大きく曲がっています。こうした左折レーンは、自動車の速度も速く、自転車は見落とされがちなうえ、そもそも自転車が左折レーンを直進することを知らないドライバーも多いです。

そのため、交差点手前で予め左折レーン内の右側に寄り、後方から来る車に十分注意することが大切です。車線の右側に寄る際は「手信号」で後続車に合図することも重要です。交通量にもよりますが、自転車に慣れていない方であれば無理をせず歩道を通行する(自転車通行可であれば)、または左折した先の横断歩道を通って戻ってくるという選択肢もあるのではないかと思います。

【質問】

自転車のマナーが悪いことに起因する交通事故が多発していると思います。児童に対して、そのような大人たちの悪い行動をまねさせないための教育方法を教えていただけますか。

【回答】

子どもは思った以上に正しい交通行動を理解しています。そのため周囲の大人に流され「単に行動する」のではなく、「考えて行動する」ことを繰り返し教えてください。信号の意味を教える時などでは「もし保護者の方が違うことをしようとしたら、危ないから教えてあげてね」というように、してあげるとよいと思います。小学校であれば、交通安全教育を行う時間帯を授業参観にして、保護者に子どもたちが正しい交通行動を理解している様子を見てもらい、家族全体での安全行動の実践をお願いすると良いと思います。

【質問】

私は、小学校3年生の自転車の交通安全教室も担当しています。その中で、自転車の手信号についてです。道路交通法 53 条には「車両(自転車以外の軽車両を除く)の運転手は、手、方向指示器又は灯火により合図し…」と定められていますが、今は手信号を教えていないのでしょうか。お尋ねします。また、理由は「片手運転が危険だから。車道通行から歩道も走れるように」になったからでしょうか。

【回答】

全国の小学校でどのようにお教えされているか個別には存じませんが、小学校の自転車教室では「手信号」を教えているところは多いのではないかと思います。ウinkerがない車両である自転車にとって手信号は、後方から来る自動車等に対して、これからどのように進行するかを示す大切な意思表示です。特に駐停車車両側方を通行する際は、手信号を行うことで後続車に注意喚起することができますので、将来使えるように手信号は教えておくべきだと思います。ただ、学校で教える時間は限られていますので、どうしても「安全確認の方法」や「交差点の通行方法」などを優先せざるを得ないというところも多いと思います。

ご指摘の通り、道交法第 53 条第1項でも「…進路を変えるときは、手、方向指示器又は灯火により合図をし、かつ、これらの行為が終わるまで当該合図を継続しなければならない」となっていますが、右左折している間はずっと片手運転になってしまうため、大人でも難しい乗り方となり、腕力が弱い、バランスがうまく取れない子どもにとっては、優先度が下がってしまうと思います。

【質問】

「自転車で事故を起こしたときの義務」の報告義務について。対自転車、対人の場合に非常に軽微(かすり傷も無いような場合)な時、相手方が直ちに立ち去った場合の対応で、相手方の素性が全く把握できない状況で警察に報告すべき事項はどの様にすべきでしょうか。

【回答】

相手が立ち去ってしまった場合でも、同様に報告を行います。警察は「事故の状況」や「報告者の連

絡先」などを聴き取り、「相手方が警察へ連絡してきたら」、改めて報告者へ連絡をすることとなります。報告しないことで、後に「ひき逃げ」にならないようにしましょう。

【質問】

彦坂先生が使用のパワーポイントの内、「自転車の通行方法・通行区分」は、“中国・四国ブロック交通ボランティア等ブロック講習会(10/26 開催)”でも使用されていたと思いますが、当市の中学 1 年を対象にした自転車教室で活用したく(静止画やパネルでは伝わりにくいと思料されます)、可能であればデータ送付を希望しています。

【回答】

皆様にご使用いただきたいところですが、イラスト等(自転車等の各パーツなど)の著作権のこともあり、お断りしている次第です。大変申し訳ございません。

●閉講式・主催者挨拶／12月8日(水)11:45～11:55

西村 真弓

(内閣府 政策統括官(政策調整担当)付

交通安全啓発担当 参事官補佐)

内閣府交通安全啓発担当の西村でございます。

令和3年度交通安全指導者養成講座の閉講に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

受講者の皆様におかれましては、3日間にわたる受講、大変お疲れ様でございました。また、未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見通すことができない状況の中、本講座に御参加いただき、誠にありがとうございました。

主催者を代表して改めて御礼を申し上げます。

本講座では、皆様方の真剣かつ熱心に受講されているお姿がパソコン越しではございましたが、大変印象的でした。

皆様方には、子供や高齢者、自転車に関する講義、あるいは話し方講座や交通安全教育デモンストラクションなど、交通安全指導に必要なプログラムについて限られた時間ではありましたが、受講していただきました。交通安全教育の基礎的理論や現場における実践的手法など、皆様方の今後の交通安全活動に少しでも役に立つものがあれば、非常にうれしく存じます。

交通安全対策というものは、どれだけ努力をしても、目に見える効果がすぐに現れるものではありません。また、必ずしも成果に結びつくものでもありません。それでも交通事故で悲しくつらい思いをされる方を1人でもなくすためには、地道に継続的に、あらゆる機会を通じて交通安全思想の普及に努めていくことが大切であると考えております。

開講初日に、交通事故死者数が減少しているという話をさせていただきましたが、今後、更に交通事故を減少させるためには、やはり、交通安全活動において指導的な立場で御活躍されている皆様方の役割というものが、非常に重要であると考えております。

皆様方には、本講座を通じて学んでいただいた成果を各地域の交通安全活動の場において遺憾なく発揮し、地域における交通安全リーダー、指導者として御活躍されるものと信じております。そして、引き続き安全で安心な交通社会の実現に向けて、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

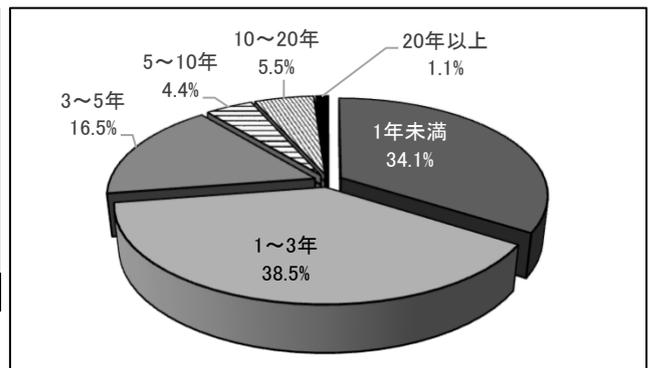
最後になりますが、本講座の開催に御尽力いただきました関係者の皆様方に改めて御礼を申し上げますとともに、受講者の皆様の今後の御健勝・御多幸を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

3日間ありがとうございました。お疲れ様でございました。

4. アンケート集計結果

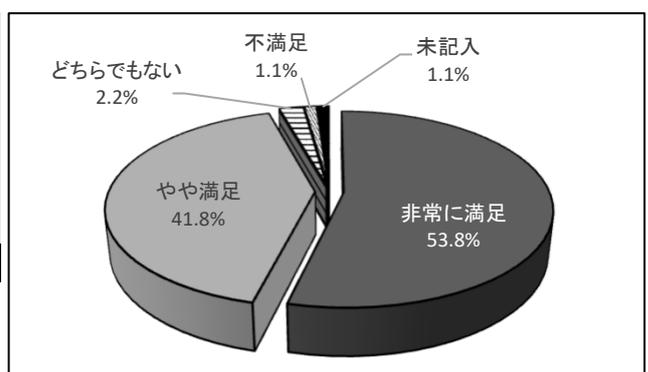
1. 交通安全業務の経験期間をお教えてください。

	人数	割合
1年未満	31	34.1%
1～3年	35	38.5%
3～5年	15	16.5%
5～10年	4	4.4%
10～20年	5	5.5%
20年以上	1	1.1%
未記入	0	0.0%
合計	91	100%



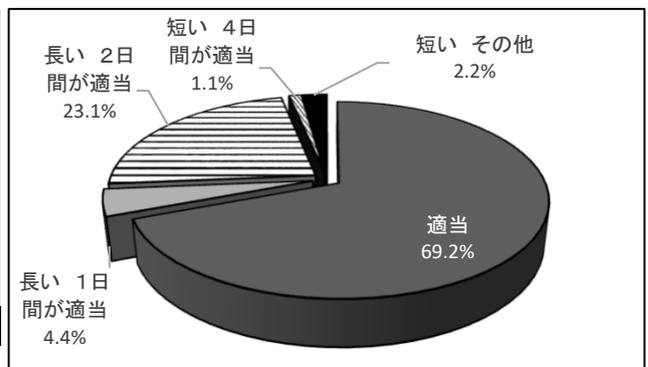
2. 3日間の講座内容はどうでしたか。

	人数	割合
非常に満足	49	53.8%
やや満足	38	41.8%
どちらでもない	2	2.2%
やや不満足	0	0.0%
不満足	1	1.1%
未記入	1	1.1%
合計	91	100%



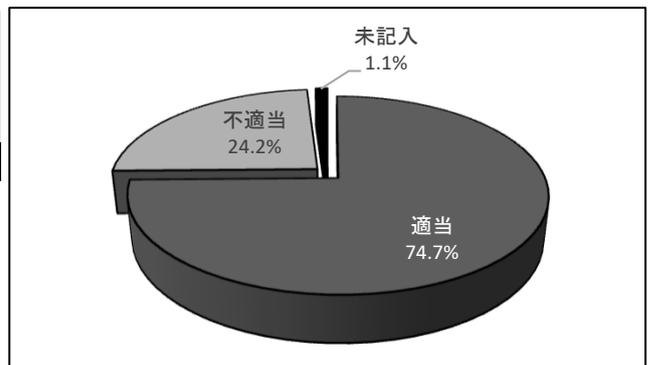
3. 本講座の開催期間:3日間という日程はいかがでしたか。

	人数	割合
適当	63	69.2%
長い 1日間が適当	4	4.4%
長い 2日間が適当	21	23.1%
長い その他	0	0.0%
短い 4日間が適当	1	1.1%
短い 5日間が適当	0	0.0%
短い その他	2	2.2%
未記入	0	0.0%
合計	91	100%



4. 本講座の開催時期:12月6日～12月8日という日程はいかがでしたか。

	人数	割合
適当	68	74.7%
不適当	22	24.2%
未記入	1	1.1%
合計	91	100%



< 適当と思われる理由 >

・新年度に向けて役立てられる時期だと思うから。
・一年の締めくくりとして忙しい時期でもないため。また、ある程度の仕事内容を把握している人が多そうだから。
・ちょうど交通安全指導員の活動が落ち着いている時期でしたので良かったです。
・1年の締めくくりとして年末の実施が良いと思いました。
・業務経験が1年未満だったため、少しでも業務に携わってから講座に参加できたので、具体的に講座の内容を把握できた。
・特に問題はないです。
・年末は教室の依頼が少ないため。
・教室の申し込みが減っている時期だったので参加しやすかった。
・年末年始の交通事故が多い印象であり、その直前であるため。
・交通教室の閑散期の為
・交通安全教室も、落ち着く時期なので適当だと思います。
・私は65歳で本講座を受講した中で一番高齢だったと思います。緊張の中で初めてのズーム会議でしたので、2日目の講義が終了した時点で大分疲れてしまいました。しかし3日間受講できて有意義でした。交通教室が始まる前頃が効果があるのではないかと思います。
・出来れば年度初旬が良いのかも知れないが、コロナ禍でもあり、秋の行事が一段落した時期なので、仕方がなかったと思う。
・交通安全教室の時期が少なく、春、秋の運動期間とも重なっていない為。
・教室がない時期で参加しやすいから。
・交通安全教室も比較的依頼がない時期だから。
・4～6月、2～3月は安全教室が多い。比較的業務が落ち着いた12月は好ましい。
・個人的に、何月に開催してもらっていただいても支障ないため。
・2年目で、少しずつ仕事内容を理解してきた時期だから。
・11月に高齢者の交通安全教室の予定が多く入っておりましてので、もし11月の開催でしたら、参加が難しかったと思います。
・3日間は適当ではありますが、時間が長い(2日目)。
・日程は特にきになりませんが。
・交通安全教室が他の月に比べて少ないため。(今回、7日については、交通安全教室があり、研修に参加することができませんでしたが、例年12月は少ないため。)
・12月は教室が比較的(1～4月に比べると)予約が入っていないので受講しやすいです。
・未記入
・指導方法を振り返る良いタイミングの時期だと思います。
・4月からある程度教室や活動を体験してみて疑問点や他の指導員さんのお話などをきき、総括として自分の指導方法を改める良い機会となった。
・交通教室など他の業務と重なっていなかったから。
・参加しやすいと思います。
・交通安全教室の多い時期(4～6月)ではないから。
・毎年12月は県警による交通安全教室を行っているので比較的時間がとりやすいため。
・スケジュール的に余裕がある時期だったので参加しやすかった。
・新年度の交通安全教室に向けて、最適な時期であった。
・新年度(翌4月～)の計画に参考になるとは思いましたがもう少し早くても良いと思います。
・繁忙期ではないので良かったです。3日間あったのでグループでの話し合いの時間も足りました。
・交通安全教室がおちついてくる時期なので。
・私どもの活動はこの時期、ひと段落ついているので良かったです。
・繁忙期ではないので…。
・交通安全教室が落ち着く時期なので
・本格的な冬を迎える前に受ける事でより交通安全への意識が高まる。
・当市は担当課が防災業務も所掌しており自然災害の少ない時期であるため。
・対応出来る日程が3日が限度です。
・今回はたまたまこの3日間が空いていたので参加できました。しかし、前年度3月に翌年度の行事計画を立てるので、それまでに日程が決まっていると開催時期がいつでも調整ができると思います。
・繁忙期でないため。

・交通教室の依頼が少ない時期であるため。
・1年間の中で、日程が落ち着く時期なので、参加しやすかった。
・研修期間は、交通安全従事1年目の8か月目にあたりました。少しずつ知識や経験を重ねてきた時期で、学ぶ内容に親しみをもって取り組むことができました。
・教室などの繁忙期を避けられるため。
・開催日程については今回のもので問題ありませんが、受講者の方々はほとんどが学校に赴いての安全教育が中心の活動とされますので、学校が夏休み期間中であれば、他の係員の負担もかからないのではと、思います。
・業務の繁忙期と重なっていないため。
・特に問題のある時期でもないが、北海道や東北は豪雪の可能性もあるのでもう少し早い時期でも良いと思います。
・来年(春)に向けての準備ができる。
・本講座の日程が早くから決まっていたため、講座開催に合わせて受講者や行事の予定を調整出来たため。
・一部、交通安全教室の行事とブッキングしたが、基本的には安全教室等、少ない月の開催でしたので、妥当と思われる。
・比較的教室が少ない時期だったので、参加しやすかったです。
・12月は交通安全教室やイベントなどが定期的に少なく時間がとりやすいです。
・例年だと北海道は雪の関係で交通の便が非常に悪くなり、そして不安定になるため不都合であったが、今回のようなzoomによる開催であれば特に問題がないと感じます。
・12月第1～2週であったため。
・春季から冬季にかけて交通安全教室や交通安全運動等交通安全推進活動を実施した後に講座が開催されていることから、意見発表や事例発表がしやすく、開催時期が適当であると感じた。
・必ずしも業務繁忙となる時期でないため。

<不適当と思われる理由>

・4月から業務が開始され、4月の新学期から交通安全講話依頼が入ります。未経験であっても講話を実施しなければならないケースもあり、自信を持って講話ができるよう、早い段階で講座を開催していただければ助かると思います。
・年末の事故防止運動の期間と重なってしまう為、時期が少し前だと良かったです。
・講座で得た知識を次の年にすぐ取り入れるためには、次年度の準備を始める1月頃の方がより適当だと感じた。
・教室が始まっている時期ですので、オフシーズンに行ってほしいです。
・当県の交通指導員の任期が3年と決まっており、12月に受講した際残り任期が2年という短い期間となってもつたいないと感じるので、春から夏頃に開催して頂けると指導員の方の勉強にもなり、学んだ知識を任期中最大限活かすことができると感じた為。
・年末の交通安全運動前で忙しい時期だから。
・仕事のスケジュールをみると適当だと考えますが、私的な事情ではありますが、北海道という地域がら昨年までのように出張が必要であれば冬前にあれば嬉しいです。
・免許窓口が年末にかけて多くなってくため、交通安全教室等もあるので、夏休みで教室がない8月頃がよい。
・交通安全教室の日程が年度初めに決定しており、今回も6日・7日は小学校交通安全教室が入っていました。今年度は市役所でリモートでの交通安全教室だったので他の方にはお願いできましたが、現場に行く場合は研修を受ける事ができない。
・コロナ禍の影響でスケジュールが空いていたため受講できましたが、本来であれば教室があるため受講が困難でした。
・年末の12月という事で予定の調整が厳しかったです。ただ、月初は助かりました。
・この時期は、県の取り組みとして冬期の交通安全運動期間中であり、指導者としての養成講座の観点からも、早い時期にして頂けると良かったと思います。
・年末は、各種交通安全業務があるため時期がずれると参加しやすと思います。
・12月は県によっては、交通安全県民運動、年末年始特別警戒を実施していることから。担当者が少ない県では参加が難しいと思う。
・教室が多く開催されるのは秋のため、その前に実施していただくと、実践しやすと思います。
・春、秋は、全国交通安全運動が実施されているが、夏と年末にも交通事故防止運動があり、それに伴いイベント等が実施されるので、年明けの1月か2月が適当だと感じました。
・内容は非常に充実していたが、係内の他業務の繁忙期に入っており、時間外勤務を余儀なくされている状況。また、今年度着任のため、年度当初に学んだうで日々の業務に活かしたかったことが多くあった。

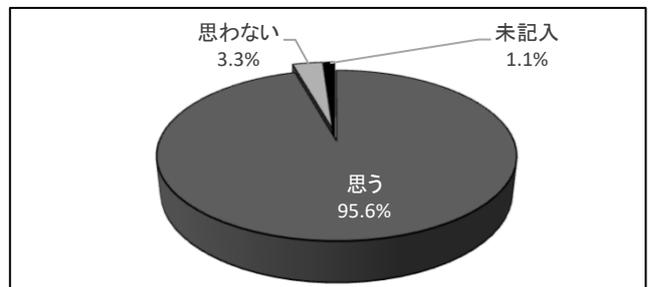
- ・小学校の休み中ではなかったので早朝指導等に影響があったので夏休み中等の開催がよかったと思います。
- ・講座に時間を取られて、早朝の街頭指導、下校時啓発に行けなかったのが夏休みから冬休み中なら良かったと思いました。
- ・年末に近く、業務が立て込んでいる方もいらっしゃると思うから。もう少し時期は早めの方がもっと多くの方が参加できると思う。
- ・今回の講座の内容を次年度の交通安全指導に生かそうとした場合、予算の増額を検討しなければならない可能性もあるため、もう少し早い時期に開催していただくと、余裕を持って新年度予算編成に組み込めるのではないかと思います。
- ・交通安全担当1年目のうちほとんどの期間を、素人同然の状態で、何の根拠もなく交通ルールや交通事故防止についての周知・啓発活動や研修会の開催などを行っていたため。指導員は異動するという概念がないかも知れないが、自治体職員は3～5年で異動してしまうので、最初の1年も貴重である。指導者養成講座受講済みの者とそうでない者では、信頼度が全く異なると思うので、ぜひ早めの時期に実施できるよう今後検討していただけたらと思います。

< 適当と思われる時期(月) >

- ・1月 /2件
- ・1月～2月 /2件
- ・2月 /2件
- ・3月～4月 /1件
- ・4月 /1件
- ・4月～5月 /1件
- ・5月 /1件
- ・5月～6月 /1件
- ・5月～9月 /1件
- ・5月～10月 /1件
- ・6月 /2件
- ・6月～7月 /1件
- ・7月～11月 /1件
- ・8月 /7件
- ・10月 /2件
- ・10月～11月 /4件
- ・10月～12月 /1件
- ・11月～12月 /2件
- ・12月 /4件
- ・12月～1月 /2件

5. 本講座で受講した内容を今後活用したいと思いますか。

	人数	割合
思う	87	95.6%
思わない	3	3.3%
未記入	1	1.1%
合計	91	100%



< 思うと答えた方、今後どのように活用していきたいとお考えでしょうか。 >

- ・コロナ対策など、対面で実施できない時のいろいろなやり方。(YouTube等)
- ・効果的な話し方やいきいき運転講座について、実際に活用していきたいです。
- ・交通安全指導員会議の中で活用したいと思う。
- ・自分で忘れていた部分もあったり、足りない部分を補うことができたので、今後の交通安全教室において活用していきたいと思います。
- ・講義をする場合: 思考整理術や最新の道路交通法を利用して、お伝えしていきたい。グループ討議で勉強させていただいた部分を、改善に役立てていきたい。
- ・講話をする際の話す内容の組み立て方など今後活用していきたい。
- ・幼児、児童の心理を理解し、教室内容を考えていきたい。
- ・他府県で作成しているパネルや小道具を参考に安全教室で活用できる物を作っていきたい。
- ・教室の指導内容に取り入れたい。
- ・現在、小・高校・幼保・高齢者向けに交通安全教室を行っており、講座の内容がすべて入っていた為、今後の教室で今回の内容を取り込んでいきたいです。
- ・他の県の交通指導員の悩みが同じで、解決方法もまた他の県の方々からヒントを頂いたり、アドバイスを頂けたので、さっそく活用するため努力したいと思います。
- ・他都市の方々の話を聞いて、保護者へのアプローチも始めたいと思った。

・本村においての交通安全・啓発運動の主な内容は講話であるが、「いきいき運転講座」のような参加型の方がより身に付くと考えるため。
・幼児への交通教室で考えて行動できるような指導をするために活用したい。
・交通安全教室での話し方を話す時の心得として学んだ丁寧な言葉で接する事を忘れず基本動作の視点法も活用していきたいと思います。
・私は警察官として45年間勤務していました。彦坂先生の「自転車の交通安全教育について」の講義は非常に良かったです。説得力がありかつ判りやすく今後自転車に対する取り組み方も変わってくるのではないかと感じました。できれば講義をDVD化し、警察官、学校教育の場等で使ったら、現状の自転車の乗り方が改善されると思います。
・多面的に知識が増えたことがうれしい。自信をもって活動できる。
・講義で学んだ効果的な話し方や、指導の仕方については、交通安全教室ですぐに生かせるものだった為、他の指導員にも共有し、実践していきたいと思います。
・各講座ごとに指導のポイントや効果的な伝え方を学ぶことができたので、分かりやすい教室になるよう活用していきたい。
・交通安全教室受講者に向けた話し方や、交通安全教室の進め方など、教わったポイントを活かしていきたい。
・他団体の啓発活動の方法を知ることができたので、これからの活動に活かしていきたい。
・効果的な話し方、交通安全のデータなど取り入れていきたい。
・今後の教室で生かしていきたいです。
・交通安全教室や日々の立哨指導、啓発活動の時の講話や声かけで活用したいと思います。
・現在自身が携わっている交通安全教育の業務で活用していきたい。・後輩等、安全教育に携わっている方へも還元していきたい。
・いきいき運転講座等、実際の講習でおこなってきたい。
・高齢者講習
・グループ討議でいろいろな地域の方から、とても参考になる教室のやり方などを聞いたことと、高齢者教室等で使用できる無料の教材を活かし、楽しく印象に残り、記憶に残る教室づくりをしていきたいです。
・先輩方にも、講座の内容をお伝えし、初心に戻って頂き、今後の教室が更に分かりやすく、受講者に交通安全について、興味をもっていただける様にしたい。
・話し方だったり、接し方など、多くの気づきがありました。今の自分より更に向上できるよう、そして明るく楽しい交通教室にして行きたいと思います。
・「交通安全指導における効果的な話し方について」の講義を受講して、幼児・児童に対しての指導時に、幼児語を避けたり、「やばい」といった流行語の使用を禁止するようになっていきたいと思った。また、視点法も活用していきたい。・他市等の交通安全指導の中で、独自のDVDを作成されたり、手作りの交通安全グッズを作成されたりしているところもあったので、当市でも、取り入れていきたいと思った。
・グループ討議で、自作の教材やチラシを見せていただき、今後の教室や啓発活動に役立てたいと思いました。
・子どもの発達の視点を取り入れた交通安全教育。
・交通安全の啓発方法等に活用したい。
・指導員としてまだまだ未熟なので今回講話してくださった講師の方々の話、他の指導員さんの話を教室で活用していきたい。また、全てが全て真似にならないよう県や町の交通情報を基に指導していきたい。
・いきいき運転講座は、ダウンロードできる教材含め試してみたいと思っております。また、自転車の内容については、次年度の小学校～高校で含めたいと思いました。
・交通指導における話し方や腹話術、着ぐるみを使用した指導を今後、幼児向けの教室の際に参考にし活用していきたい。
・高齢者を対象とした講習会や小学校での交通安全教室等の機会に活用していきたいと思います。
・効果的な話し方や、講義の組み立て方等を日々の交通安全教室に生かしていきたい。特に参考になったのは、話している時の目線の動かし方です。これまでは全体や遠くを見て話をしていましたが目線の動かし方で印象が変わると聞いたので、これから実践していきたいです。
・内容はもちろん、取り入れて活用していきたいと思います。又、話し方も気をつけたいと思いました。他の地域の方のお話も参考になりました。
・とても良い講座ばかりだったので、同じ職場の仲間と共有し、様々な場面で活用していきたいと思います。
・交通安全教室での立ち振る舞い、表情、話し方。講義の組み立て方…一方通行ではなく相手の気持ちに寄り添って、印象に残る指導を実践したい。
・各市町村の活動をグループ討議で話し合い参考になった。ホームページ等に掲載されているとの事なので参考にしたい。

<p>・中高生向けの自転車の講習内容を検討しておりましたが、彦坂先生の講習内容がとてもわかりやすく、今後の参考にさせていただきます。</p>
<p>・幼児親子対象の交通安全教室で、保護者に向けて講話する。・今回参加出来なかった指導員にも資料を共有し、日々の指導に活かしたい。</p>
<p>・伝え方、話し方、大変勉強になりました。児童・保護者・高齢者、それぞれの目線に合わせて交通ルールを守る大切さを活動を通して丁寧に伝えて参りたいと思います。</p>
<p>・活動の範囲が広がれば良いと思います。しかし現実的に活用するのは時間がかかると思いました。</p>
<p>・講習での姿勢や内容に取り入れたい。</p>
<p>・講習や交通教室等で今回学んだ知識や内容を取り入れて実施していきたいと思いました。</p>
<p>・現在は、中学・高校生を対象に、自転車シミュレーターを使った体験型交通安全教室を行っており、効果的な話し方や自転車の安全利用についての講義は、非常に勉強になりました。また、役務柄、交通安全施策の企画指導の業務を担当していることから、子供と高齢者の交通事故防止の対策についても多くを学ぶことができました。この講座での受講内容を機会ある毎に活用させていただきます。</p>
<p>・交通安全教室…他市さんの取り組みで良い所を参考にさせてもらいたい。保護者への講話…子どもの特性など。</p>
<p>・人前で話す時の言葉づかい、基本動作については、すぐに実行したいです。高齢者の教室で「いきいき運転講座」の内容を活用出来れば良いと思いました。</p>
<p>・250人いる名古屋市の交通指導員に今回の講座内容を還元していきたい。</p>
<p>・教室など研修会のお話をしていきたいと思えます。</p>
<p>・今回の講義内容は、交通安全事業を進めるにあたって基礎的な知識を養うことができたので、学んだ知識を生かして業務に努めていきたい。</p>
<p>・交通安全教室での講話において、活用させて頂きたいと思えます。</p>
<p>・指導員と情報交換するときの題材としたい。</p>
<p>・幼稚園・保育園・小学校での交通安全教室で活用したい。</p>
<p>・日頃からロジックツリーを意識して話すようにし、相手に伝えたいことがきちんと伝わる話し方を身に付けたいと思えます。</p>
<p>・今後の交通安全教室に、自転車のルールの伝え方を工夫したいと考える。</p>
<p>・講習内容を欲張らずに、的を絞った指導をしていきたい。</p>
<p>・町で行う高齢者・幼児交通安全教室を行う際に役立てたい。</p>
<p>・交通教室での対象者に合った話し方や視点法を取り入れ、分かりやすく聞きやすい教室にしていきたい。</p>
<p>・他の指導員にも伝え、参考にできるところは、どんどん参考にしていきたい。</p>
<p>・警察や関係機関と連携した交通安全事業に従事する中で、指導者目線も大切にしていきたいと思えました。効果的な伝え方、進め方のポイント、ルール改正の流れなどを通じて、指導者・受講者双方の立場に大切なことを学ぶことができました。「必要になったときに身につけているようにする」という学びの姿勢で、日々の業務に活かしていきたいです。</p>
<p>・小学生・高齢者教室の教材に組み入れていきたい。</p>
<p>・教室開催時の話の組み立て方や実技、体験方法など、活用したいと思えます。</p>
<p>・まず、自分自身への知識向上のため、スキルアップを図ると、各年代層への交通安全教室で活用していきたい。</p>
<p>・講義内容は大変興味深く、講師の話し方や受講者への呼びかけ方、提示していただいた資料も非常に参考になった。他県市町村の取組事例や使用教材についても知ることができ、今後の教室運営に具体的に活かしていけると感じた。</p>
<p>・他の地域でのやり方等、参考にしたいと思えました。</p>
<p>・今後の交通安全教室・講義に活用したいです。</p>
<p>・今後の広報啓発や交通安全教育の施策の参考にしたい。</p>
<p>・藤原先生の講義の中で、話す際の基本動作、美しい所作、メッセージの伝え方、ほめながらの指導方法がとても分かりやすく、勉強になりました。又、後半の「交通安全指導等の事前準備」のお話もとても具体的で、今後の交通安全講話に生かせると思えます。藤原先生、ありがとうございました。</p>
<p>・街頭キャンペーンや広報媒体を活用した啓発活動の際などに活用できればと考えております。</p>
<p>・交通指導員としての知識や交通安全教室などの実施に活用したいと思えます。</p>
<p>・2日目の山口教授の講義の中で出てきた「能動的な交通安全学習」については、実際の交通安全教室で活用したいと思えました(横断歩道の横断練習の際に、「これは渡っていいの?」等、子ども達に多少の判断を委ねてみる、など)。</p>
<p>・今までどうろに出て指導員が道をふさいでいたが、子供たちで判断できるような指導、みまもりをしようと思った。</p>

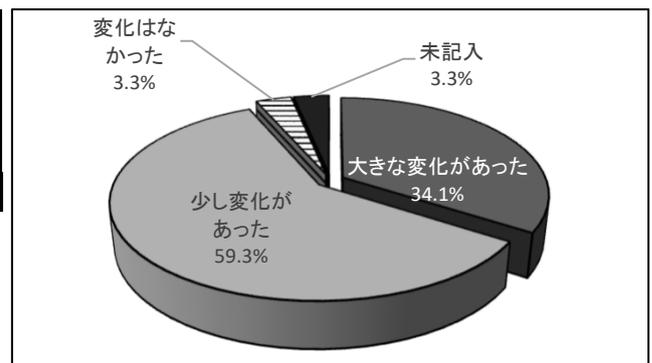
- ・発達心理学の視点から幼児・児童の特性を理解した上で、メッセージの伝え方を守って、園児・児童への講義をやっ
ていきたい。
- ・警視庁の安全教室でも使用の折り紙等、当市で実施中の交通安全教室に取り入れていきたい。また、交通安全教
育普及協会・彦坂次長が使用の「自転車の通行方法・通行区分」は、“中国・四国ブロック交通ボランティア等ブロック
講習会(10/26開催)”でも使用されており、当市の中学1年を対象にした自転車教室で活用したく、可能であればデー
タ送付を希望しています。
- ・話し方や伝え方、考え方などが勉強になり、教室で取り入れていきたいと感じました。
- ・当市にて行う指導員研修会などで今回の研修内容を周知して次年度の活動に取り入れたい。
- ・明日以降も毎日交通安全教室の予定が入っています。明日以降の教室に今回学んだ内容を活用していきたいと思
います。グループ討議で情報交換した内容にも今後教室で取り入れていきたい内容がありましたので、報告し教室内
容に組み込んでもらいたいと思います。
- ・高齢者の集まりの時の話題の一つとして活用する。
- ・本市で実施している研修会や教室の内容の検討など。
- ・幼児・児童及び高齢者に対する交通安全教育を開催する際の内容に応じて盛り込めるときに盛り込んでいきたい。
- ・自転車のながら運転や自動車の一時不停止の危険性について、啓発チラシやポスターに掲載するなどしていきた
いです。
- ・他県の取り組み(本県に無い)を参考にしたい。

< 思わないと回答した理由 >

- ・活用する機会がない。
- ・小学校、幼稚園、こども園の安全教室の為、資料が大人向けで馴染まないと思った。
- ・全ての講座を受講できなかった。

6. 本講座を受講して、意識に変化はありましたか。

	人数	割合
大きな変化があった	31	34.1%
少し変化があった	54	59.3%
変化はなかった	3	3.3%
未記入	3	3.3%
合計	91	100%



< 「大きな変化があった」「少し変化があった」と回答された方、具体的にどのような変化でしょうか。 >

- ・自分達で動画を作成するなどして、コロナ渦でも積極的に活動していることに刺激をいただきました。
- ・自分は交通安全指導員として市民の方に、きちんと指導する人間だという事が、グループワークを通じて改めて感じ
ました。
- ・交通安全指導員活動の中で、自身が交通安全に注意すべき所に意識の変化があった。
- ・通行車両や歩行者の映像を見て交通ルールやマナーに対して大半が守られていないことを再認識した。
- ・講座を受講させていただき、話すことの大切さ、伝えることの大切さを再々認識させていただき意識変化をいたしまし
た。
- ・交通安全の知識(グループ討議、各先生方の講話)を得ることができ、理解が深まった。
- ・今まで実践したことのない内容など、今後少しずつ取り入れて実践していきたいと思います。
- ・話し方はすぐ実践できることなので、身につけることで自分の自信につながるがあると新たな意気込みになっ
た。
- ・固執した考え方から柔軟な考え方に意識が変わった。
- ・行動心理的なもので気づきがあったので、指導の進め方などよりよいものにできそうです。
- ・運転している人の目線だけでなく、自転車や歩行者目線でも教室の中でも伝えていきたい。
- ・県によって、交通安全の教室の内容がちがひ、みなさんの交通安全教室の熱意がわかり、色々勉強になりました。
- ・今まで以上に頑張っていきたいと思った。

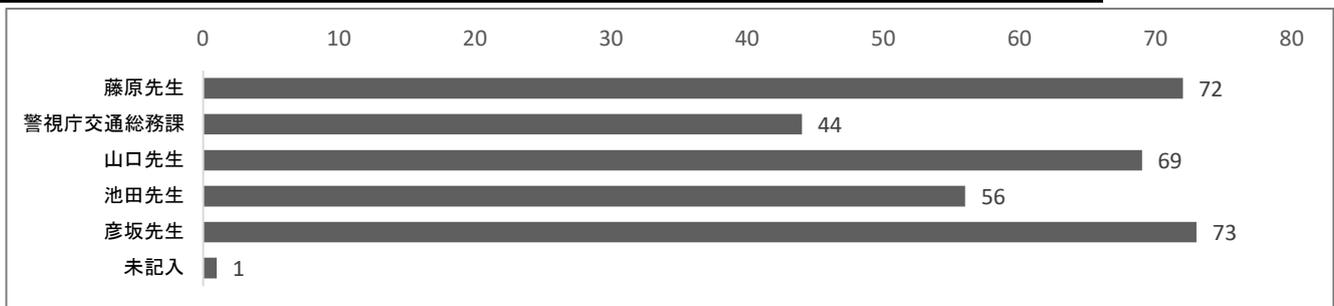
<p>・受講前、「交通安全に対する意識は人並みに高い」と考えていた。その人並みの意識がそもそも低いのだと実感。今、「交通安全担当職員として、人の交通安全意識高揚のため、意識を高く持たなければならない」と考えるようになった。</p>
<p>・交通安全指導者として改めて、今後も色々と学びながら指導者としての心構えをしていきたいと思えます。</p>
<p>・全国各地の方が同じような問題意識を持ち、どのような対策を取ったらいいか真剣に取り組まれていることが良く判った。交通安全、事故の未然防止に懸命であることが感じられた。またコロナ禍での取り組みでユーチューブやツイッターを駆使されており、自分達では発想もしないことであった。(その効果がどの程度有効だったかは、次回教えてもらいたい)</p>
<p>・指導的立場にある人間(親も含む)の行動、言動は非常に重要であると、再認識できた。</p>
<p>・交通安全指導にもいろいろな方法があることを知り、自分達もいろいろな方法を試しながら、幅を広げていきたいと感じました。また、1件でも事故や違反を減らしていくためには、まずは指導員が模範となることが大切だと改めて感じ、気を引き締めて過ごしていきたいと思いました。</p>
<p>・グループ討議で、他の参加者の普段行っている教室内容をお聞きし、もっとレベルアップしていかなければならないと感じた。</p>
<p>・グループ討議をして、周りの方々の交通安全への意識が高く、知識を今以上に深め、今後活かしていきたいと思った。</p>
<p>・高い意識で交通安全啓発活動に従事する方が数多くいたので、自ら積極的に取り組んでいきたいと思った。</p>
<p>・どのような話をしたらいいのかが分かってきた気がする。</p>
<p>・自分自身も、交通安全に心掛けていきたいです。皆さんの意見を聞いて、大変参考になりました。</p>
<p>・交通ルールの遵守は当然ですが、想像力を働かせて行動しようと強く思いました。</p>
<p>・講座やグループ討議を通して様々な考え方を知ることができ、今回学んだ事を自身の中だけで留めておくのはもったいないと思い還元していかななくてはと感じる様になった。</p>
<p>・説得力のある講習のためにはたくさんの知識と正しい伝え方が大切なのだと気づき、更に教養を身につけたいと思った。</p>
<p>・子供への話し方、高齢者講習について詳しく聞く事ができた。</p>
<p>・今まで以上に、人の命に関わる大切な職業だという意識を持ち、自信を持ってこれからも指導にあたりたいと感じました。</p>
<p>・全国に行われている教室の内容ややり方がとても参考になりました。又、受講者に「つまらない、早く終わって」と思われたいの教室内容を考えさせられました。対策案が分かり、今後活用したいと思います。</p>
<p>・ありました。受講に接し方だったり、話し方だったり、自分に自信を持つためにどうしたらいいか、それ以外にも多くを学び直した。</p>
<p>・交通安全指導者は、「規範を守る道徳的な人間としてのお手本」であるということ学んだ。日頃、指導する時、その指導が、幼児・児童にとって最初の交通ルール、マナーの知識となる可能性もあるため、誤った内容を指導することがないよう、自分自身も、知識を深める努力をしていきたいと思った。9日に、交通安全教室があったが、幼児・児童に対して、幼児語を避けて指導することができた。また、手の位置や立ち方等、交通安全指導時の基本動作を意識しながら、取り組むことができた。</p>
<p>・各都道府県の指導員さんの話を聞いて、それぞれ皆さん努力をされていたり、質の良い教室をするためにどうすべきなのか、ということなど色々考えているのがわかったので、自分も今までよりも良い(効果的な)教室ができるように努力をしようと思えた。</p>
<p>・他の自治体が抱える課題等について話を聞くことで、自分の県が抱える問題を相対的に考えるきっかけとなった。</p>
<p>・ウェブを活用する研修には誰もが使いやすいネット環境の整備と工夫、交通指導員さん達への丁寧な説明が必要。(皆さん高齢であるため)</p>
<p>・改めて私は町の交通指導員なんだと気が引き締められた。教える立場として交通ルールに関する事は見本となれるように行動しようと思った。</p>
<p>・自分が苦手意識のある高齢者対象の交通安全教室で試してみようと思ったので。また、受講したことにより、他の自治体から参加された方たちも同じような悩みがあったことを知れて前向きな気持ちになれました。</p>
<p>・出会い頭の事故の危険性をより注意し、指導していくべきだと思った。</p>
<p>・自らの考え、行動が、いろいろなご意見を聞くことによって新しく知識になりました。</p>
<p>・これまで子どもに合わせた交通安全指導を行っていたが、横断歩道を渡る際に私が子どもと一緒に右を見て左を見てという指導を行っていたので、子ども自身に見てもらおう(「私は見ないからみんなが安全か教えてね)」という指導方法はこれから実践していきたいと思いました。</p>

<p>・今までも大切な仕事をしていると思っていたが、受講してますます、1人でも交通事故で亡くなる人が少なくなるようにしていきたいと強く思いました。</p>
<p>・本講座を受講して改めて命に関わる大切な業務に携わっていると再確認する事が出来ました。又、今後の業務活動への意欲へもつながっていくと思いました。</p>
<p>・他の参加者とグループ討論をして、皆さんがとても交通安全意識が高く様々な取り組み(SNS活用等)をしていることが分かりとても勉強になった。</p>
<p>・他の都道府県の方々とお話をする機会を与えていただいたことで、皆さんが真摯に交通安全活動に取り組んでおられることが実感でき、私自身ももっと頑張っていかなければと思いました。</p>
<p>・今回のような研修等、知識を積み、経験を重ねて、自信を持って交通安全の指導が出来るようにスキルアップが必要だと感じました。</p>
<p>・他県で活動されている方のお話を伺い、皆さんが様々な工夫を凝らして意欲的に取り組んでいる事を知りました。私もできる事から挑戦して参りたいと思います。とても良い刺激になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・交通安全教室等の内容の見直し等、他県の方々の意見を伺い刺激になりました。・交通ルールや現状を学べ勉強になりました。</p>
<p>・いつも以上に危険予測をして生活したり、普段から交通に関する情報にアンテナをはるようになりました。</p>
<p>・これまでこのような講座を受講したことがなく、自己流ながらパワーポイントを使って講話を行っていました。受講者にちゃんと伝わっているのか、役目が果たせたのか半信半疑でいました。受講者に自信を持って伝えるべきことを伝えるためには、自分が一所懸命にならなければ伝わらないことが分かりました。</p>
<p>・実践的な交通教室にしたい。すべきと思うようになった。</p>
<p>・「子供の安全教育」での、目先の安全にとられない本当の交通教育についてのお話を聞いた時に、自分の意識の変化を感じました。自分で考え、判断する領域の必要性。手取り足取り教え込むのは違うのだと気づきました。</p>
<p>・今日の講座で得た知識、ネタを250人の指導員に伝えていきたい。</p>
<p>・各県によって話し方が違うので教室などで活用していきたいと思えます。</p>
<p>・資料の構成や相手への伝え方、講義の回し方など、参考になるところが多かったです。また、他自治体との意見交換などで学べる事例が多かったです。</p>
<p>・話し方、話すポイントについて、考えさせられた。</p>
<p>・自分ではしっかりと交通ルールを守っていると思っていたが、ビデオなどを通して慣れた道などでルーズな安全確認をしていた事に気付いた。</p>
<p>・全国に熱意のある指導者がいることを知ったこと。</p>
<p>・交通事故の撲滅</p>
<p>・私は幼児担当なので幼児のことをずっと考えてきましたが、やはり親へのアプローチがとても重要だと今回の研修で感じ、色々な制約がある中でも何とか親子で交通安全の意識を高めてもらう方法を考えて行かなければならないと思いました。</p>
<p>・実際に自転車事故の映像を見て、少しでもこういった事故が減るように啓発により力を入れ取り組んでいこうと感じた。</p>
<p>・講習時の話し方</p>
<p>・より一層交通安全の意識が高まった。</p>
<p>・本講座で学んだことを交通教室に取り入れ、多くの人に知ってもらいたいと思った。</p>
<p>・他の都道府県の方の話をお伺い、考え方・やり方も様々で勉強になった。今行っている指導が全てだととらえず、取り入れていきたい。</p>
<p>・受講前、自らは自転車に乗ったり自転車を運転することがなく、交通安全教育について補助的な立場である等、消極的に考えている部分がありました。講座を受講して、だれもが指導者になりえる視点、自転車や自動車を運転するかどうかは関係なく大切な気づきを学ぶ機会になりました。また、法律改正や車を運転しない若者の増加等、時代や社会の変化とともに注意すべきことが増えていることも学びました。交通安全は、一度学べばよいものではなく、だれもがどんな世代にとっても生涯にわたって大切なことで、社会全体で実践するために貢献したいという思いが強くなりました。</p>
<p>・今までの知識をさらに向上させることができた。</p>
<p>・これまで以上に自身が交通ルールを守ること、そして人に伝える方法を工夫しながら考えていこうと思いました。</p>
<p>・教室や講座を行う上で、話す時の心得などは自身改める事が多々ありましたので、意識して取り組んでいきたい。また、この度の教材等を参考に進めていきたいです。</p>
<p>・未経験のまま「人に教える」立場に就いたことで不安があり、自信のないまま交通安全教室を開催している。知識力をつけ、経験を積むことでしか自信を培うことはできないと知り、積極的に研鑽を積みながら取り組んでいくことを決意した。</p>
<p>・他の自治体の方や先生方のお話を聞き、交通安全教育について参考になる意見があったから。</p>

・これまでの自分の講話に不足している部分が理解できたので、修正して、よりよい講話を目指していきたいと思いました。
・これまでの啓発内容に加え、電動自転車やキックボードに関する内容も今後取り入れていく必要があると感じました。
・知らなかった事、間違った知識などを変化させる良い機会となりました。
・幼児・児童への交通安全教室は、こちらが一方向的に伝えるだけでは、子ども達から「交通ルールについて」自分で考える機会を奪うことになってしまうかもしれないと感じました。
・自転車や横断歩道で注意して良いこと、あいまいだった点が明確になった。実際の指導員でつかえる内容ばかりでした。
・発達心理学の視点から幼児・児童の特性から、幼児・児童の目線を知りました。また、ほめるにしても、「いいね!」だけではなく「どんなところが良かったのか」を指摘して講義、実技をしていきたい。
・グループ討議の討議結果では、それぞれが工夫した取り組みを行っていることに大きな関心を寄せたところで、幼児対象の「お約束バンド」等は早速に活用を検討したいと思っています。
・他県の方の取り組みや考え方を教えていただき、自分たちも取り組みたいと思うことがたくさんありました。(横断歩道の渡り方、お約束バンド、お守り、チャイルドビジョンなど)
・指導を行うことの心構えや講義をするときの基本動作の大事さを改めて感じ、今後の教室内容を考えていきたいと思いました。
・経験がまだ1年未満なので知らないことが沢山あり、研修一つ一つがとても参考になりました。自分がとても大切な立場に立たせてもらっているということを再認識できました。
・これまで、話し方について研修を受けたことがなかったので興味を持って受講できた事。自身がGの発表者となり発表(発表事項は皆で取りまとめ)について考えた事。
・他自治体の交通安全指導体制を聞き、横浜市の指導体制がいかに乏しいか(人員不足であるか)を実感した。財政状況やそもそもの人口の多さなど、人口比で同じ割合の体制を整えることは難しいが、警察と常に一緒に活動している自治体もあるようで、内部の体制を整えることに限らず、周辺機関との密な連携もあわせて、検討する余地はあると感じた。
・交通安全教育には様々な内容が存在することや各自治体によって交通安全を進行するための活動が創意工夫して行われていることが分かり、自らが交通安全推進活動を進めていく上で参考になった。
・講義の内容や他都市の職員との交流を受けて、自身の知識不足を強く感じました。また、柔軟に様々な啓発手法の検討を行ってみようと思いました。

7. どの講義が役に立ちましたか。(複数回答可) * 敬称略

講義名	人数
①交通安全指導における効果的な話し方について(藤原徳子)	72
②交通安全教育デモンストレーション(警視庁交通総務課交通安全教育指導係)	44
③子供の交通安全教育について(山口直範)	69
④いきいき運転講座(池田佳代)	56
⑤自転車の安全利用のために(彦坂誠)	73
未記入	1
合計	315



8. 具体的にどんな点が役に立ちましたか。感想などご自由にご記入ください。

・実技が参考になりました。
・キックボード、アシスト自転車など新しい情報が大変参考になりました。
・交通安全指導員に着任してで、人に話す際に上手く伝える話し方が自信がなかったので、参考になりました。
・今後の交通安全指導員活動に役に立ちました。
・①については話す時の基本動作や話し方、褒めながら指導する事が為になりました。④の交通脳トレの判断能力や通行車両の注意点について具体的に定義できたことが良かった。⑤については交通法規に従って自転車等の通行方法について理解を深めることができた。
・幼児、児童に対する効果的な話し方について、勉強をさせていただきました。
・話す時の心得、思考整理術、腹話術(着ぐるみ)のデモンストレーション
・交通心理学、いきいき運転講座等(プログラム)
・JATRASの交通安全
・グループ討議での様々な意見(コロナ禍の指導方法、ヘルメット、自転車保険)
・藤原先生の効果的な話し方についての講義内容は、人前で話す機会の多い私にとってはとても参考になる内容でした。話材を常日頃意識して見つけて集めておくことを今後実践していきたいです。彦坂先生の自転車の交通安全教育の講義は、勉強不足で知らなかった内容もあり、とても勉強になりました。今後の交通安全教育で今回の学んだ点を取り入れていきたいと思います。
・自分自身が2年間の経験を持って参加し、講話を聞いたので、自分のやり方を見直したり、照らし合わせることができた。電動アシスト自転車の話が有意義だった。
・講義の組み立て方法や、話すためのコツ、表現方法など直ぐ実践に役立てることの出来る内容でした。また「いきいき運転講座」にあっては業務にとどまることなく機会があれば活用していきたい内容であった。
・腹話術の内容がすごくわかりやすく、ぜひやってみたいと思いました。子どもたちにわかりやすく伝える手法があつてとてもよかったです。山口先生の自転車教室での子どもたちの様子や、指導方法がとても参考になりました。
・子どもの目線、高齢者の目線、それぞれの年代に合わせた話し方などが参考になりました。又⑤は実際のビデオを見ることで事故について(なぜこのような場所で事故がおこるか…)などが分かりやすかった。
・講習会を実施するにあたり、話す題材選びから、資料の組み立て方、発表の手順、発表者の接遇等、すべてにつながる部分で大いに役に立ちました。
・どの講義も、実際の交通教室に役立てそうだった。⑤が1番良かった。データも新しく、映像資料も見やすく分かりやすかった。他は触れたことのある内容だった。(内容は良かったが)(データの更新して欲しい)
・腹話術、初めて拝見させていただきました。全ての講義、お勉強になりました。
・1.自転車の乗り方について、安全教育について(彦坂先生)の講義された映像を是非DVD化してもらいたい。そのDVDであれば、そのまま交通教室、中学校、高校、高齢者、それと警察官が見てもいい勉強、学習になると思います。2.「話し方」講義もためになりました。これまでは自己流でしたが、プロの方から話し方の細かい点まで教えて頂き、今後役立てていきたいと思っています。
・1年目なので、すべてが役に立ちそう。
・どの講義も大変分かりやすく、今後に役立てたいと感じるものばかりでした。「子供の交通安全教室について」の講義では、子どもの心理や発達から見た事故・行動の特徴を知ることができ、良い学びとなりました。子どもたちや、その保護者に対してお話をする機会が多いので、後は子どもの特徴等も交えながら、より説得力のある話をしていきたいと思っています。「自転車の交通安全教育について」では、知っているつもりで曖昧になっていた自転車のルールや、近年の事故状況、特徴について知ることができました。難しいルールも多いですが、関心をもてるように工夫しながら、市民の方にも伝えていきたいと思っています。
・(藤原先生の講義)今まではつい幼児に対し、幼児語で話してしまいがちだったが、丁寧な言葉で接するように改めようと思った。
・(警視庁交通安全教育デモンストレーション)腹話術や着ぐるみなど、見た目もインパクトのある内容で楽しみながら参加することができ、これからこのように楽しめる教室を目指していきたいと思った。
・(山口先生の講義)幼児の道路横断の実験映像で、親を目かくして横断すると、子どもは注意深く安全確認をすることが驚いた。
(彦坂先生の講義)改めて自転車の交通ルールを学ぶことができ、ドライブレコーダーの映像では自分自身も気をつけなければならないと感じた。
・交通安全教室で教える立場として自分でも使えそう(実践できそう)と思った知識を得られたため。
・何の知識もない中、地に足が付かない状態で指導員をやっていた(5分程の脳トレ)。今回の研修で、指導のコツ、根拠を教えていただいた。自信を持って実施するために勉強から始めていきたいと思った(自ら学んで行く)。

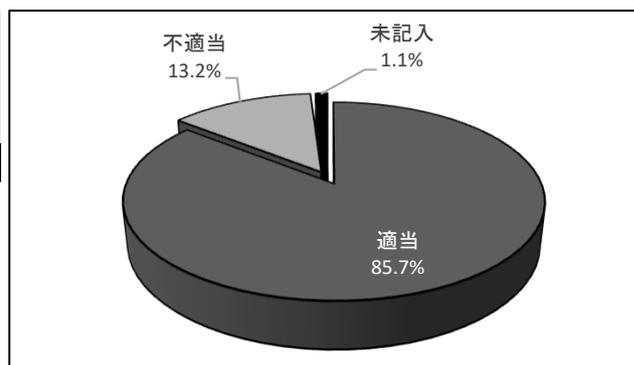
<p>・話し方やコミュニケーションや交通安全など、盛り沢山で普段学べない様な事を短期間で学べてとても良かったです。明日から教室に生かし、よりよい教室にしていきたいです。</p>
<p>・①言葉づかいや話し方など参考になった。③子どもの特性を知ること、自ら考え行動できるような安全教育の重要性を学べて良かったです。⑤疑問に思っていた自転車のルールが聞けて勉強になりました。ヘルメットの着用、ルールの重要性を伝えていきたいです。</p>
<p>①「講習の場で緊張するという人に対して私はどのくらい練習(努力?)をしましたか?と聞きたい。くよくよ考えるヒマがあったらその分練習をしたらよい」という言葉に非常に共感を覚えたとともに、自身もそうありたいと感じた。②折って作る交通安全しおりが参考になった。③子供は大人に依存する為に自ら安全行動を取らなくなるという事を実験した動画と共に説明して下さったこと、また児童の自転車教室の内容が参考になった。④当県にも同教材はあるが、使用したことがなかったので、使い方等を学ぶことができてよかった。⑤自転車の教育は、自身がやったことがなかったので、知識や教え方が参考になった。</p>
<p>・③子どもの心理的な成長の観点から、なぜ子どもが出来ないのかも理解でき、成長段階にあわせた内容の講話の大切さが分かった。⑤パワーポイントが分かりやすく、実際の事故例もあわせての講話だったため、実際に自分が話す立場になった時のこともイメージしやすかった。電動キックボードの話も教えていただけで良かった。</p>
<p>・講話や街頭指導時に役立つ情報が多かった。(自転車の事故映像、子どもが目隠した親の手を引いて道路を渡る様子等)</p>
<p>・山口先生の「子供の交通安全教育について」の講義で「大人が一方的に安全な環境を作るのではなく、子どもに危険を考えさせる領域を残しておく必要がある。」まさに目からウロコでした。子ども達が危なくないように…。という思いが強かったので、大人に頼り切ってしまう、警戒心がとぼしくってしまう事に驚きました。</p>
<p>・発達心理学を学び、各教室での年齢に合わせた対応の仕方が分かりました。「なぜ子供は飛び出してしまうのか」…そこから指導員は考え、把握してから教室を行わなければならないと思いました。</p>
<p>・特に交差点での一時停止のビデオが印象的でした。あとは、デモンストレーションも楽しい雰囲気良かったです。</p>
<p>・幼児・児童に対しての指導時に、幼児語を避けたり、「やばい」といった流行語の使用は禁止であるということであったが、9日に、交通安全教室があったが、幼児語を避けて指導することができた。また、手の位置や立ち方等、交通安全指導時の基本動作もしっかりとすることができた。</p>
<p>・どんな話し方をすれば、相手によく伝わり、好印象を与えることができるのかわかったからです。</p>
<p>・わかりやすい事例が多かったのでそれぞれ役に立ちました。</p>
<p>・どの講義にも当てはまる大切な事は、話す内容が一方通行にならないようにする事。身近な問題でなかったり、知られていない交通ルールが沢山あると思うので、内容1つ1ついいいに、分かりやすく、楽しく指導する事が大切である。</p>
<p>・今後の交通安全教室の進め方に役立てそうだから。コロナ禍なので仕方のないことですが、「交通安全教育デモンストレーション」での腹話術については口の動きをみたかったのでマスクをされていた状態だったのは残念でした。Zoomでの開催でしたので、講師の方にはアクリル板などの感染対策をされて、マスクのない状態で講話をしていただきました。</p>
<p>・講習会等でお話をする際の注意点や話法を知ることができ、一方的な話でなく、話し合いを含めた講習会にすれば、より効果的に参加者に理解していただけたと思います。</p>
<p>・交通教室等で子ども達に質問をする時に、はいかいいえで答えてもらうのではなく言葉で答えてもらうと引きつけることができるという話をきいて、これから実践していきたいと思いました。腹話術は交通教室で行っていますが、話し方や講話の内容が違って、このような言い回しの方が伝わりやすいと思う点がいくつもあったのでとても参考になりました。</p>
<p>・話し方や組み立て方。</p>
<p>・全てにおいてとても勉強になる講義ばかりでしたが、特に私の場合、幼児への交通安全教室を1年の間約10ヶ月行っています。その為、山口先生のお話はとても興味深く受講させて頂きました。幼児の特性を知ってこそ、現場での指導に自信や説得力が増し、今後の教室内容にも良い影響や効果が得られるのではないかと思います。</p>
<p>・①自信を持って話をするための方法(「話材を見つける」等)、「ロジックツリー」を用いての講習内容の整理、準備。 ③最近接発達領域について。子供が自ら考え行動する部分を奪わない。伝えすぎず自発的な行動を促す手助けをしてあげることが重要という点。④講座の内容、進め方を実際のワークシート等を体験しながら知ることができ良かった。⑤自転車利用者の「車両意識」の希薄化による危険運転、事故の増加。自分自身や周りの人を守るような安全な乗り方、当事者責任、保険加入について</p>
<p>・親子乗り自転車(幼児2人同乗用自転車)の注意点、子どもを前だっこ×、背中におぶるは知っていましたが説明の仕方が曖昧だったのが何故だめか説明する事ができる。キックボードの法令化について知る事ができた。</p>
<p>・具体的な話し方のレクチャー、又は資料の見せ方など参考になることがたくさんありました。</p>

<p>・①伝えたい事が、伝わる為の効果的な話し方。③資料のデータ・映像がわかりやすく、今後の講話の参考になりました。⑤自転車の交通安全教室の必要・重要性が再確認できました。</p>
<p>・どちらの先生の講義もとてもわかりやすく、内容も素晴らしかったです。ズームは初めてでしたが、リラックスした空間で集中して講義を受ける事ができました。特に児童の行動特性や発達特性のお話をいただいた山口先生の講義は大変勉強になりました。</p>
<p>・①分かりやすく講話の組み立て方等勉強になりました。講義で1番良かった。③児童対象の活動の為データ、心理等分かりやすく今後の活動に役立てられると思いました。④グループディスカッションからの学びは効果があると思いました。⑤自転車に関するルールが漠然としていたので、とても勉強になりました。</p>
<p>・電動キックボードは今後増加していくと思うので、種類や必要な免許等知れてよかったです。</p>
<p>・指導する上での話し方や心がけ、子供の特徴や行動、自転車の基本的なルールの再確認や疑問に思っていたところが分かったので良かったです。自転車のルールは複雑なので、特に役に立ったと感じました。</p>
<p>・効果的な話し方では、受講者への視点法、ロジックツリーで整理等。</p>
<p>・子供の交通安全教育では、子供の視野、自己中心性、危険を学ぶ機会を奪わない等。</p>
<p>・いきいき運転講座では、知識と実際の行動の差異、教材の活用とディスカッションの重要性等。</p>
<p>・自転車の交通安全教育では、自転車安全利用5則の指導ポイント等。</p>
<p>・③子どもの特性について再認識できた(昨年、山口先生には本市のYouTube作成に監修・出演(講演)いただいた)。⑤自転車のルールは我々でも難しい。プロの言葉を聞いた。最新の情報を知ることができた。</p>
<p>・人前で話す時、今はマスクをしている為、目だけしか見えていない状況で相手に悪い印象を与えないようにする事、また後ろ手は相手に威圧感を与える事(実際自分がやっていた)等を知れ、まず自分が直すべき事を知れた。</p>
<p>・過保護は禁物!に賛成。自分で考えさせる教育方法は大切。あえて子供に頼るのも作戦。</p>
<p>・自転車教室で今回の講義について話していきたいと思います。</p>
<p>・資料の構成や相手への伝え方、講義の回し方など、参考になるところが多かったです。実践でも生かしていきたいと思います。</p>
<p>・全ての講座が役立ちました。教室に参加する子ども達、保護者、高齢者の立場になって、分かりやすい言葉、分かりやすい内容が必要だと思いました。</p>
<p>・交通安全指導時に限らず、人と話す時の効果的な話し方が出来ると感じたから。</p>
<p>・③子供の交通安全に対する認識を知れたこと。</p>
<p>・効果的に話すための準備と交通安全指導等の事前準備が今後役に立つと思う。</p>
<p>・藤原先生はロジックツリーです。デモンストレーションの講習では高齢者に恐ろしい事例だけを話して免許の返納を求めるのではなく、サポートカーの機能を説明したり、返納したら受けられる特典を説明したりと、相手の気持ちに配慮した内容になっていることです。いきいき運転講座では教材セットを無料でダウンロードできると教えて頂いたことです。私自身だけでなく部署内で役立つお話や情報が沢山ありました。ありがとうございました。</p>
<p>・他県の活動の仕方を知ることができ、参考にしたいことがたくさんあった。例えば保護者向けの啓発という点で乳児検診でチラシ配布など他課と協力してできることがあると考えるきっかけになった。</p>
<p>・講習内容の組み立て方法や話し方</p>
<p>・交通安全と心理学が密接に関わっていることが分かった。</p>
<p>・①ロジックツリーを用いたスピーチトレーニングを活用し、交通教室の組み立てを説得力のあるものにしていきたい。②「横断歩道でクラシック」の動画がよかった。自分たちが交通教室を行うとき、導入として寸劇を行うことがあるが、トシローさんややくん(腹話術)などを取り入れていきたい。③歩行中の交通事故死傷者数のうち7歳児の事故が多いといったようなデータを交通教室で伝えることで、自分事として学んでもらえるようにしたい。</p>
<p>・学んでいた知識もあったが、更になぜなのか、どうしてなのかまで掘り下げて聞くことができ、より知識を深めることが出来た。例えば、「なぜ子どもは飛び出しをするのか」「なぜ7才に事故が多いのか」等。</p>
<p>・全ての講座で交通安全の確保に必要な考え方や手法を学ぶことができました。①理解促進に役立つ例話の導入、ロジックツリーを用いた伝えたいことの整理方法。②人を惹きつける話し方、自分のことばに変えて一音一音大切に方法。③子どもの目線、言い過ぎず自分で考えさせる領域、体験型交通安全教育実践例。④「いきいき運転講座」教材の体験、「自分たちで考え見つけた答えは忘れない」気持ちの実感。⑤自転車安全利用五則の図解、さまざまな通行区分、ルール改正。</p>
<p>・藤原先生のお話では話し手側からだけではなく、聞き手側の特徴や視点から、伝わる指導の方法を学ばせて頂きました。</p>
<p>・山口先生のお話からは心理学の観点から子どもの交通行動を把握したり、また、保護者や周りの大人が自覚を持って子ども達に早い段階から、交通教育を行うことの大切さを理解することができました。</p>

<p>・彦坂先生のお話からは道交法を基に、より正しい自転車の交通ルールを再確認することができました。また、実際の映像を交えながら、危険な場所や運転の仕方など、自らも今まで以上に気を付けなければならないことを自覚致しました。</p>
<p>・今後、教室のプログラムを作成する際に活用させていただきたいと思っています。</p>
<p>・教室の内容を作成する上で活用して行きたいです。</p>
<p>・講師の話し方や説明の仕方の一つひとつが、人前で話すことや内容に興味を持ってもらうことの参考になった。特に、初日の初回に藤原先生の講義を拝聴できたことは、本講座への意欲につながった。どの講義もオンラインであることの弊害が多少はあったが、子どもへのデモンストレーションやいきいき運転講座はすぐにでも活かしていけそうだと思う。山口先生や彦坂先生からは、どのような観点で交通安全教育を行えばよいのかデータや事実に基づいて理論的に教えていただいたので、自分が行う教室でもそのように内容を組み立てていこうと感じた。</p>
<p>・①は、前記5.で述べたとおりです。②は、腹話術が楽しかったです。③は、「乳児、児童が養育者を避難場所として安全基地として使うかもしれない」とのことで、児童の行動背景、特性を理解した声掛けが重要であることが分かりました。</p>
<p>・ワークシートを活用した講座は、受講者側の視点で物事を考える良い機会となりました。また、実際に体験することやグループ討議などを行ったことで他都市の状況が理解でき、考えが深まったと感じます。自転車に関する講座では、電動自転車やヘルメットの着用に関する事など、近年注目が高まっている内容についても触れており、大変勉強となりました。</p>
<p>・交通安全腹話術をやってみたいと思いました(記憶に残るので)。どこかで習ったり人形をかえたり、専門の業者があるのかおしえてほしいです。</p>
<p>・1.交通安全指導における効果的な話し方について。受講者はどんな話を聞きたがるのか。わかりやすく話すためのコツ。良い点を褒めながら指導すること。2.子供の安全教育について。子供の特性(大人に比べ未発達。視野が狭い。相手の立場から物事を見れない。感情の抑制が苦手)知ったこと。3.自転車の安全教育。児童向け自分の担当教科のため。前だっことはダメ。</p>
<p>・①思考整理とロジカルトークは、わかりやすい話し方の参考になるので取り入れたい。②レジュメはわかりやすく、引用を検討する予定です。③子供の特性はわかりやすく、高齢者対象の交通安全教室でも参考として話題展開できる。④交通脳トレは引き続き活用します。⑤自転車の通行方法・通行区分はわかりやすく、自転車教室で活用したい。</p>
<p>・保育園、幼稚園で主に教室をしているので、とても勉強になりました。特に藤原徳子先生の、「自信がない原因は話材がないこと、場数を踏んでいないこと」というお話が心に残りました。自信を持って話せるよう、私自身が努力しなければいけないと、意欲的な気持ちになりました。</p>
<p>・話す時の心構えにて幼児にも丁寧なことばで接し高齢者には依頼形で指導など普段あまりきにしていない話し方・接し方・視点法はすぐに実践していきたい。交通安全教育デモンストレーションの中で高齢者の免許返納を促すことを勧めるのではなくわかりやすく返納までの流れや自治体のサポート内容を説明するとの話があり寸劇で取り上げていけるのではと思いました。</p>
<p>上記①:初めての内容でしたので、事前準備と思考の整理術が印象に残りました。上記②:身体能力の低下、視覚能力の低下、バランス感覚の低下についての事。上記③:印象に残った言葉、「自分で考える」「体験教育・ゲーム感覚」「現実的実践的教育」「動画による説明」「難易度が高い実践」「必要になる前に学」。上記④:脳トレを取り入れ興味深い学習ができる事。ワークシート利用とグループ討議(本講義では対面方式)により自身で回答が探し出せる事。上記⑤:自転車の様々な通行部分、自転車が確認すべき信号機を再認識できた事。キックボードの種類(無動力・電力・特例)と使用条件についての事。</p>
<p>・①は交通安全指導に限らず、自治体職員であれば誰もが身に着けるべきスキルだったので、当課の交通安全担当でない職員にも共有したい。②は折り紙のしおり(紙の角を差し込むタイプ)があることを知らなかったのも、何かしらに取り入れたみたいと思った。④は本市で実施しているシルバーリーダー養成研修会にそのまま取り入れたいくらい参考になりました。来年度、講座実施依頼をすることも検討したい。⑤は大変わかりやすく、非常に勉強になった。今後実施する教室等にぜひ取り入れたい。</p>
<p>・藤原先生の講義では相手に対する言葉づかい・表情などの重要性。山口先生の講義では各年代の特性を理解し、相手の目線に合わせた教育を行うことの大切さを学ぶことができた。</p>
<p>・道交法の改正に伴う自転車の規則・通行方法などに関して不透明な部分があったが、彦坂先生の講義において詳しく解説していただいたことで解消することができた。</p>
<p>・交通安全対策への従事経験が浅いため、どれも有意義な講義でした。特に、子どもの発達や行動特性は初めて知ることが多く興味深かったです。また、自転車の交通ルールについては知識が曖昧であったため、本講義で改めて学習することができ良かったです。</p>
<p>・③子どもの自主的な安全確認を養うためのフォローが大切という点。</p>

9. 本講座の開催方法:オンラインでの開催はいかがでしたか。

	人数	割合
適当	78	85.7%
不適當	12	13.2%
未記入	1	1.1%
合計	91	100%



<適当と思われる理由>

- ・遠方の為、移動に時間をとられることなくよかったですと思いました。
- ・コロナ禍で感染防止対策のためによいと思った。また、会場に行く労力の必要もないため。
- ・コロナ禍で大変な時期ですので、オンラインが良いと思います。
- ・各府県で集合することなく実施できるので大変良いと思いました。電波の不具合で途切れる場面が多いのが今後の課題と思われた。
- ・多くの方が参加されましたのでオンラインでの開催は良かったと思います。受講者を全国から1つの会場に集合させての開催は遠方の方の参加が減少してしまうと思います。
- ・開催場所にとらわれず、コロナ禍でも学ぶことが出来た。
- ・時間通りスムーズに開催していただき、こちら準備などやりやすかったです。
- ・オンラインでなければ参加が難しかったので、オンライン開催が有難かった。
- ・コロナ禍で講座を開催地まで行くことなく受講できたことは、とてもよかったです。
- ・コロナ禍における講習では最適。移動もないので。
- ・オンラインだと複数で参加することができるから。
- ・東京まで行くことなく、地元でみることによって時間が有効につかえました。
- ・移動時間がなく受講できたので気軽に参加しやすい。
- ・都心での一極集中開催であれば、地方からの参加の折、高額な旅費等が発生し、そもそも参加がむずかしくなる。
- ・講義は全てオンラインでも十分良く分かった。画面上の資料も、広い会場でスクリーンに映し出されるものより、よく見えた。ただ、全国の指導員等と直接会って話ができないことは残念。
- ・コロナが終息していないのでオンライン開催が適当。
- ・コロナ禍で開催するには適当であると思う。また旅費宿泊費の削減にもなると思います。
- ・グループ討議は対面でやりたかったが、コロナ禍では仕方がないと思う。ただ、他業務が入り、途中退席する人がいたのは、残念だった。
- ・コロナウイルスの現状を考えると今回のオンラインでの開催は適当だったと思います。しかし、グループ討議の際は対面の方がより活発な意見交換や交流ができたと思いますので、その点に関しては少し残念な気持ちがあります。
- ・子育て中なので、3日間も東京に出張することは難しく参加を見合わせていたが、今回はオンラインでの開催でようやく参加することができた。
- ・コロナ禍で少し落ち着いてきたとはいえ、オンラインで良かったのではと思う。
- ・移動の時間、経費の削減となる。
- ・オンラインでもディスカッションできていたので、移動が少なく良いと思います。
- ・「適」・コロナ禍において、自県で受講できたことは非常にありがたく感じた。・各講座も講師の先生の表情がはっきりわかって良かった。「不適」・グループ討議は進めにくく感じたので、会場に集まって話し合いができれば良かった。
- ・自宅から受けられたため、時間的拘束が少なく、職場の仕事に影響が少なかったため、受講しやすかった。
- ・オンラインでも不便なくできたから。
- ・オンラインでの講座とても良かったです。実際に会場に伺っての講座は、なかなか参加が難しいので、とてもいい機会でした。グループ討議で自分の意見を正確に伝えることはとても難しく感じましたが、いい経験になりました。
- ・オンラインは初めてでしたので、少し戸惑いがありましたが、良かったです。
- ・コロナが去年よりも落ちついてきたとは言え、県をまたぐことが不安なので、オンラインで受講できてよかったです。
- ・まだコロナが落ちついたとは言えない状況で、大人数が1つの会場に集まるのが難しい中、オンラインという形をとってもらえて非常に助かった。
- ・子供がおりますので、オンラインでの開催でなければ参加が難しかったです。
- ・誰でも気軽に参加し易いから。

・コロナ禍での開催だったので適当であったと思います。
・コロナ禍で感染対策としてオンラインで開催するというのは良かったと思います。ただ、ネット環境が悪かったのか講義の途中で画面が見えなくなったりミュートにしたり解除したりで少し時間がかかったり等少しもどかしさを感じました。
・今の状況だと適当だと思います。ただ、グループディスカッションはオンラインじゃない方がいいような気がしました。
・最初は、オンラインでの会議、講義が未経験だった為とても不安がありました。しかし、3日間というカリキュラムもあっという間に楽しく過ぎた。というのが感想です。講座の内容や日程内容が良かったのだと思いました。
・事務局の方の進行、又、電波状況等特に問題なかったため。
・出張せずに受講できる事が良かったと思います。リモートでなければ受講できなかった可能性があります。ただ一同に集合する事で参加者と意見交換ができ、もっと多くの情報が得られたと思います。
・コロナ禍での現状では適当であったと思います。
・会場への移動時間等の負担も無く、参加出来ました。休憩の時間も配慮していただいていたので、良かったです。
・新型コロナウイルス感染症の変異株も話題になっていましたので、オンラインはとても有り難かったです。
・コロナ禍では適切な方法で身近に参加できました。操作も思っていた程困難でなかったので助かりました。ただグループ討議は対面の方が良いのかなと感じました。
・今回のような状況では、平等に参加できる形式はよいと思う。
・私はオンラインでの講座を初めて受けたのですが、思っていたよりもスムーズにでき、県内の方とも話し合いができて良かったです。
・コロナ禍ということもあり、県外出張が不安ということや、旅費を使わずに有意義な講座を気軽に受講できることは現在のニーズに合っており、オンラインによる質疑応答にも問題は見られなかったため、これからもこの開催方法が良いと思いました。
・講演はオンラインでも良かったと思います。グループ討議はやはりFACE to FACEでない意見を出しにくい。(しゃべりすぎたようで申し訳なかったです)
・会場に行く為の時間が省略出来ている事は、とてもいいと思いました。ただ、参加されている方達との交流出来る時間がなく(グループ討議以外)もっと、交流が出来る時間があると良かったです。
・コロナの中での講座のため。
・役所内で、長時間のネットワーク環境(Wi-Fiの接続環境)が整っておらず、安定した環境でオンライン講義を受けるには限度を感じた。Wi-Fiの容量が30分/回、5回までなど制限があるので長時間には対応できない。
・普段行くことのできない遠い場所での研修を、コロナ禍ということもあって、職場で受けることができよかったです。
・移動時間がないので、参加しやすかったです。
・グループディスカッションも出来、相手の顔も見られ良かった。
・コロナウイルス感染症対策上、全国規模の面会形式は難しいと思うから。
・コロナ禍でオンラインが主流となっているので。
・遠方なのでとても助かりました。それから実際の会場よりも手が挙げやすいと感じました。休憩時間のトイレもいつも女性は混んで大変ですがその心配もなく良かったです。
・会場に赴くまでの移動時間を省略できる。家を空けられない人も参加できる。
・コロナ禍で移動が不安なため。また、子育て世代の職員が多く、二泊三日の出張研修は負担が大きい。
・庁内にいながら、全国の方の顔が見えて、話をしたり、講話を聞くことも出来、実際に会っての研修会と変わりなく学ぶことが出来た。
・コロナウイルス感染防止の観点から、今年度のオンライン形式はよかったと思います。次の質問10では、②会場集合を選択しましたが、オンライン開催と会場開催の同時開催が可能であれば、来年度以降、一度参加した者でも連続で参加できたり、受講希望者が多い場合でも参加しやすいかなどと思いました。
・感染予防対策になること、移動の為の時間と経費の節約。
・コロナ禍で対面式が難しいことに加え、参加しやすかったです。
・コロナ禍では、やむを得ないと思います。参加しやすく思いました。
・コロナ禍であることを理由に中止されるのではなく、オンラインであっても開催していただけたことは非常に有意義だったと思う。しかし、オンライン研修であるため、参加者どうしが自由に会話できる機会は無く、グループワークも司会者からの指名により発言する形式のため、タイムラグや参加者により活発さに欠けた面があり非常に残念だった。せっかくの機会なのに、横のつながりを持つことができなかった。来年度以降、直接参加者どうしが顔を合わせて詳細を情報交換できる研修が開催されるのであれば、ぜひまた参加させていただきたいと思う。具体的な教材の展示や紹介も生で見たかった。

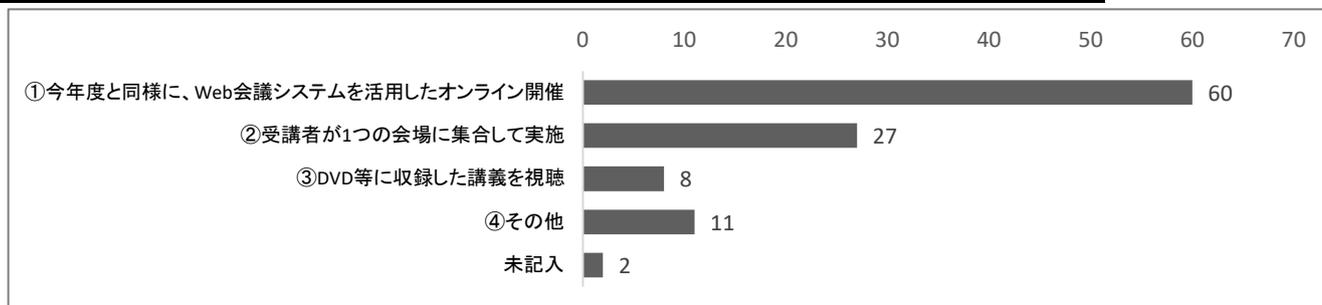
<p>・全国の自治体の方が一同に会するより、オンラインの方が会場開催時に移動に多くの時間を要する自治体の方も気軽に参加しやすいと思うから。</p>
<p>・コロナ禍の状況のため適当であったと思います。可能であれば、実際に集まって講義を受講できれば一番良いのかなと思いました。通信環境の影響により、一部音声や映像が聞こえなかったり、グループ討議がし辛かったりしたためです。</p>
<p>・コロナ禍では当然適当かと思えます。</p>
<p>・移動が少なく楽でした。</p>
<p>・話もききやすく、資料をみながら話をきけるのは移動も少なく、とてもよかったです。</p>
<p>・画像がはっきり見え、メモがとりやすい。</p>
<p>・大きな不具合もなく、声も聞き取りやすかったです。</p>
<p>・この時期の対面講習会にはまだ抵抗がありオンラインは適当であると思います。</p>
<p>・通信環境、必要機器を確保する必要はあるが、在所で受講できる事は利便性が良い。</p>
<p>・会場への往復時間・交通費が節約できること、身体的負担が少なく済むこと、精神的な受講ハードルが低いことなどのメリットがあるため。ただし、本市はオンラインの環境があまり整っておらず、Wi-Fiが途中で途切れてしまい受講に支障をきたしたので、3日間ずっとリアルタイムのZoomで接続し続けるのではなく、講座の内容に応じて録画(DVD等)とZoomを組み合わせてもらえたらよかった。例えばYouTubeの限定公開で録画した講義を3日間だけ動画公開し、動画内の途中途中でキーワード用の文字を1文字ずつお知らせする。アンケートでその文字をつなげたキーワードを答えられた人を受講完了とする、等。</p>
<p>・オンラインでの開催は日程表通り講義が進み、時間間隔に無駄がなく、メリハリがあるため、合理的と感じた。</p>
<p>・オンライン開催であることによる深刻なデメリットは感じなかったため。また、遠方からも参加しやすいため。</p>
<p>・コロナ禍では止むを得ない。</p>

<不適當と思われる理由>

<p>・zoom使用説明書があっても、使用しづらそうだった。動画の配信でもよいかと思う(ディスカッションのみオンラインなど)。</p>
<p>・もっと詳しく、他県のやり方など聞きたかったです。オンラインだと、手を挙げにくかったり、グループ討議がとてもやりにくいと感じました。意見があっても気軽に話せない感じがしました。</p>
<p>・いきいき運転講座でのワークシートの講座はディスカッションができにくく、他の方の話がよく分かりませんでした。又、マイクの調子が悪いのか、講師の声が聞き取りにくかった。</p>
<p>・講義の受講は、オンラインでも適当であると思うが、今回は欠席ではあったが、グループ討議については、直接、討議し合った方が、意見も発表しやすく、また、他市等の方との交通安全指導等の情報交換も円滑に行えるように思うので、不適當であると思う。</p>
<p>・長時間パソコンの前に縛りつけられるのは苦痛だった。</p>
<p>・交通指導員さんには高齢の方が多く、zoomの使い方に慣れていない。抵抗感が強く、参加をすすめても断られるケースが多かった。ウェブ環境も整っておらず、自治体としても反省点があった。</p>
<p>・グループ討議だけは、対面でやりたかったです。</p>
<p>・コロナの影響と理解しているが、できれば対面で参加したかった。来年は対面で開催されること、できること願っております(今回はオンラインでよかったと思っています)。</p>
<p>・初めての参加であったが、通常の回も参加してみたい。</p>
<p>・グループ討議は、司会者と発言者の一対一の構図となり、他の参加者との一体感が生まれないので、効率的な意見交換が出来ないようです。タイムリーな討議が出来ず、質問等の機会も逃しがちで、実のある討議ができにくいと思いました。</p>
<p>・通常の開催では色々な方と直接会話が出来るのに、オンラインでは、事務局、そしてグループ討議で同じグループの人としか話ができず、コミュニケーションがとれないため。</p>
<p>・職場がオンライン会議の対応に追いついておらず、いつもの自分の席でzoomをつなぎ行ったため非常に周りの雑音、話し声、電話等が気になり集中できなかったのが残念でした。今後もオンラインをご検討なさる場合は職場への指示、指導も含めお願いしたいと思います。</p>

10. 本講座の実施方法:どのような実施方法が効果的だと思いますか。(※複数回答有)

講義名	人数
①今年度と同様に、Web会議システムを活用したオンライン開催	60
②受講者が1つの会場に集合して実施	27
③DVD等に収録した講義を視聴	8
④その他	11
未記入	2
合計	108



＜「その他」の回答＞

- ・Web会議だったので、グループに分かれた時の事務局のフォローが大切。特に最初の進行については、事務局で進めてほしかった。
- ・オンラインで受講し、その講座をDVDで復習したいです。
- ・全国の受講者が1つの会場に集合して実施するのは、受講者数も多くなるため、地域ブロック毎に受講者が1つの会場に集合して実施。
- ・9の通り、グループ討議は集合で実施。
- ・グループ討議だけ別日にアクリル板を用いていただけたのかな？
- ・集合して顔を会わせる利点もあると思うので、集まれる人は集まり、難しい人は①と組み合わせても良いと思う。
- ・感染状況によっては①でも開催することを希望、可能であれば②を希望。
- ・②が最も良いですがコロナの状況では①が良いかと思います。
- ・地域の実践例をしりたいので(コロナがおちついたら)身近なエリアであつまる機会もあればと思います。

11. 今後、改善してほしいところ、また改善策があればご記入ください。

- ・グループディスカッション討議の共有場面は、全グループ共有で良いと思う。口頭だとメモする時間、聞きとれない部分が生じるため。
- ・リモートで行うとやはり、コミュニケーションしづらかったり、機材のトラブルがあったりと気になる所が多々ありました。次回あるなら1つの会場に集合したいです。
- ・電波の不具合を改善すること。
- ・ディスカッションがやりにくかった。ホワイトボード機能があることを終わってから知り、取り入れればよかった。
- ・オンラインでの開催は、とても魅力的であるがネット環境の関係で音声や画像が途切れる時があった。
- ・グループ討議の最初の方だけ、各グループに一人進行役の方をつけてほしい。なかなか話し出さない…。話した人が進行役になってしまうので。
- ・オブザーバーとして警察官に居てもらい、道交法に関する発言に助言して欲しい。
- ・2日目のグループ討議後(休憩中)、ブレイクアウトルームを開設したままにしていれば、討議中にできなかった情報交換などもやりやすかったのではないかと思います。
- ・1日目のグループごとの自己紹介の場面で、誰もなかなか喋らず戸惑ったので、事務局の方から「グループの名簿の上から順に自己紹介をお願いします」などの指示をいただくとよりスムーズに進行できたかなと思います。
- ・次回もオンラインであれば、司会は事務局の方でも良いのかなと思いました。
- ・交通指導員、交通に関する市町職員など立場が異なる人々で討議すると話がまとまらないことがあるので、ある程度同職でグループ分けした方がよい。リモートなら、進行/書記を討議に入る前に割り振りした方がよい(人数も多く収集がつかないため)。

・ID・名前の表示でしたが、講師の方が読めないことがあったので、ID・名前ナマエ、フリガナが必要かと思いました。
・班別の討議が始まるまでに少し時間がかかったので、司会や書記(発表)の決め方の提案などあるともっとスムーズに進行できると思います。
・グループ会議はマイクOFFが基本だったため、反応も少なくやりにくかった。研修の様子を受講者も録画させて欲しかった。
・グループワークでの司会、書記は事務局側がランダムで指名してほしい。
・タブレットでの参加だった為、講義中に細かい所を確認したい時など、手間取り、少し難しいと感じる時がありました。
・講義⑤のマイクの改善。せっかくの素晴らしいお話がところどころ聞き取りにくかった。
・講座の開催方法
・画面上での共有(教材・チラシ等)だけでは物足りなさを感じたので、事前にメールやFAXで集めて資料に入れていただけるとありがたいです。
・オンラインだとほかの指導員さんとの交流ができないグループワークに限りができてしまうなどが分かったので、コロナが終息したら会場に集まっての講義を再開した方が良い。
・オンラインにも良さはありますが、グループ会議の時は実際にお会いして皆さんと色々な情報交換をしたかった。と思いました。
・グループで集まって司会進行役、発表者役を決める際(初対面でオンラインでマスク着用表情がよく分からず)なかなか話が始められなかったため、最初だけ事務局の方で手助けしてくれるとありがたかった(約5~8分程沈黙状態でした)。
・グループ討議のテーマで、自転車についてですが「自転車の交通安全」と広範囲ではなく、もう少し絞った形たとえば高齢者の自転車等にしていただければ討議しやすかったと思います。
・Web会議の日程であれば初日を朝からスタートすれば2日間にすることができると思います。
・今年度と同様にweb会議の場合、グループ討議の司会者は主催者側で事前に決めていただいた方が良いのでは、と思いました。
・各講義の先生方が資料ページを最初に言って頂ければよかった。「いきいき運転～」は目次に58ページとありましたが講義は70ページからでした。①藤原先生は最初にしっかり説明していただけていました。
・パソコンの調子が悪くなると、画面が止まってしまうたり、若干、時差があるのと、声が聞こえにくい時があったので改善できたら良いと思いました。
・オンラインでの会議に参加したことがありますが、短時間であれば疲れは感じなかったのですが、この長時間にわたる受講では、画面を集中して見ているため目に疲れが残りました。休憩時間の配分に改善の余地があると思いました。
・グループ討議、発表、質疑応答の時間が短かった。これが一番重要だと思う。これだけに1日割いて欲しい。
・マイクの音が割れて聞き取りづらい講義がありました(講義③)。その都度音の調整は大変だと思いますが、折角なので聞き取りやすいマイク音量でお願いしたいと思います。
・グループ討議の際、もしくは後、個人的に連絡をとって聞きたくなった場合の手段があるといいかと。チャットが使えたのか不明。
・IDの表示について、どこの自治体かわかるように表示方法を統一した方が良かった(例:〇〇氏名(自治体名)…)など。グループ討議のワークシートについて、誰がどの発言をしたのかわかるように整理した方が、質疑応答の際に対応しやすいかと思います。(発言者が必ずしも質疑応答に答えられるものではないため。)また、ワークシートの記入見本などがあると統一したレイアウトで書けるようになると思います。
・もう少し出席者の日常の取り組みなどを聞かせて欲しかった。
・面会での開催の方が効果は高いと思うので、コロナウイルスの見極めをしっかり行っただけで開催方法を決定していただきたい。
・10の①と③を交えた講義。
・発表者の隣の部屋で別な会議をされていたようで、その声が大きくて発表者の声とかぶり聞き取りにくい時間がありました。静かなところでお願いします。

<p>・円滑に進めていただき、会議システムで資料をわかりやすく確認しながら受講することができました。2日目のグループ討議結果の発表で、結果用紙の情報共有を「あり・なし・どちらでも可」で進めていただきましたが、情報共有なしのグループの発表で少し聞き取りにくいところがありました。全グループ討議結果用紙は「情報共有あり」で進めていただけるとさらによかったと感じました。今後ご検討をお願いします。</p>
<p>・講義している隣室の声が入ってしまっていたことや、こちらの回線の不具合で時間どおりにブレイクアウトルームに入室できなかったことがあった。ブレイクアウトルームから退室する際も回線が遮断されてしまった。こちら側の回線容量の問題と考えられるが、このような弊害が生じてしまうことが残念だった。</p>
<p>・グループ討議で思っていたより多くの意見が出て、活発な議論ができたため、グループ討議の時間をもう少し増やした方がよいと思う。</p>
<p>・討議グループの編成は、10人くらいが良いと思います。</p>
<p>・オンライン開催時ではきぐるみや腹話術などは聞こえにくいいため、講義では要検討かと思います。グループミーティングでは問題点で終わっていて最終的なアンサーがなかったように思いました。</p>
<p>・オンラインなら、マスクを外してよいのでは(1人できている人、教える側)。口のうごきも重要かと思うので。</p>
<p>・早くコロナが収まり、受講者が1つの会場に集合して実施するようになってほしい。</p>
<p>・ZOOM機能になれていなかったり、ネット環境の不備等からか一部、音声途切れがあったりと思いますが、事前テスト等を十分に行っていただければ幸いです。</p>
<p>・私は今回初めてのオンラインで不慣れなものでグループ討議でのディスカッションに上手くなじめず司会・発表者選びでもどうしたらよいのかグループ内で時間がかかりました。事務局で推薦をしていただければスムーズに進めたのではと思います。後、前もって各参加者に今回の討議内容の課題・問題点を資料として出していただいていると、発言の準備ができ実際に自分達が行っている教材などを紹介できる。</p>
<p>・グループ討議が皆オンライン研修に不慣れという理由でかとても消極的で残念でした。中では一言も何も発せず終わった方もいらっしゃいました。事前に事務局でもう少し指示をいただくか、1グループの人数を減らしてはどうかと思う。</p>
<p>・今回のオンラインは98名の受講者がありました。グループ討議を除き全ての参加者の顔がわかりませんでした。Zoomのシステムにもよると思いますが、PCを二画面構成として、一画面に講師とテキスト画面、二画面に受講者6×5名の切替方式はできないでしょうか。</p>
<p>・内閣府による挨拶や講義②、④は完全に受講者が黙って聞いているだけの内容だったので、録画で良かったのではないかと思います。</p>
<p>・もう少し時間を短縮されたい。</p>

12. 講師への質問等がありましたら、ご記入ください。(複数記入可)

①藤原 徳子先生へ

(講座名:交通安全指導における効果的な話し方について)

<p>・人と話をする際のわかりやすい話し方について知りたかったので、わかりやすく話して下さり大変参考になりました。特に、ロジックツリー、思考整理術は活用できそうです。</p>
<p>・大変勉強になりました。</p>
<p>・思考整理術を今後自分なりにまとめ、視点のズレ防止に生かしたいと思います(私はまだ知識経験不足のため時間はかかりそうですが)。教室での話す時の心得もとても参考になりました。今後の指導に活かせたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>・今回多くの参加者の話し方を拝見しましたが、普段指導をする立場であるからなのか高圧的に話される方が多いと感じました。高圧的にならない印象や話し方のコツなどがあれば教えていただきたいです。</p>
<p>・ロジックツリー、とてもためになりました。教室で活用していきたいです。</p>
<p>・この度は貴重なご講義をありがとうございました。今後の、交通安全教室で活用していきたいです。</p>
<p>・人前でお話をする機会がありますが、今回の[参考]資料をしっかりと熟読させていただきましたが、あっあれが抜けていた、これもなかったなと気づくことができました。今後はしっかり「話材」を集める努力をしていきたいと思いました。このたびはありがとうございました。</p>
<p>・最後に質問されていた方と同じく、映像が途中で切れてしまい残念でした。運営側で現状を全体に説明し、対応して頂けたら良かったな。と思いました。</p>

<p>・コロナ禍でマスクを着用して話す機会が多いので、マスクの下でも口元の表情を作り笑顔を作ることが大切だと感じた。自分よりも年長の高齢者に対して話す時は何かと気を使ったり苦労していたので、心得を知ることができた。話し方で印象や伝わるメッセージが大きく変わるので教えていただいたことを意識して安全教室に臨みたい。</p>
<p>・条件付否定でどう危険なのか伝えたあとに、正しい行動を伝えた方が良いのか。拡張自我の説明がメモが間に合わなかったのを知りたいです。</p>
<p>・有り難うございました。</p>
<p>・ありがとうございました。今後の講話にぜひ活用させていただきたいと思います。</p>
<p>・先生がお話しされた中で、例話を用いるのに、実話以外の事でも良いという事をおっしゃっていましたが、①直接経験してなくてもよい。②世間でありそうな話を創作する。そして、3つ目をなんとおっしゃっていたのか、教えて頂きたいです。</p>
<p>・私はていねいな言葉づかいよりも、子供たちと友達のような話し方が効果的だと思っていました。親しき仲にも礼儀ありくらいで考えておけばよいのでしょうか？</p>
<p>・質問ではなく感想です。ロジックツリーは仕事のあらゆる場面で役立つと感じました。ありがとうございました。</p>
<p>・とても分かりやすい講義でした。マスクをしていても笑顔でいることで目元が笑ったような印象を受けることや、幼児に対しても丁寧な言葉で接することの大切さがわかりました。</p>
<p>・P5の2.(2)の②★「相手の言葉を正す必要はない」とありましたが、話された方は「否定された」と取るのは理解できますが、「年寄り」と指名を受けたであろう「対象者」は悪い気分となるかと思われるので、発言者の分別のある人になってもらうためにも直す必要があると思います。</p>
<p>・オンラインで長時間でも飽きることなく講義に惹きつけられた。先生の話方や態度の全てが、効果的であることがとても参考になった。自分が講義する際にも態度や立ち居振る舞いを真似して話そうと思う。【質問】特に幼児向け教室において、最近発達に問題のある子や個性的な子が多くいる。保育士の先生方のフォローもあるが、「1対1」では集中して聴くことや理解することができる子も、「1対集団」だと集中できなかつたり、発言し続けて場を乱してしまったりすることがある。私自身保育士資格があり、発達段階や発達障害についてある程度の知識や経験はあるつもりだが、「交通指導員」の立場で教室を行う際には、「全員に対して短時間でテーマをしっかりと伝える」ことを目的として「1対集団」で話す。命を守るためには、どのような子にも交通安全知識は必要であり、それぞれに合った方法で身につけてもらいたいと思っている。結局その場ではある程度の発言を無視して進行を重視し、「1対集団」での講義や実技に特化してしまい、細かいフォローやそれぞれに合った教え方は先生方にお任せして退室している状況である。どのような発達の子にも、短時間で目的に合ったテーマを分かりやすく伝え、興味を持って集中し理解してもらうには、どのように話せばよいのか、どのような手法があるのか、教えていただきたい。</p>
<p>・自分の弱点、不足していた部分が良くわかり、為になりました。</p>
<p>・最後の方をもっとゆっくりききたかったです。最初の方、少しねむくなりました。</p>
<p>・わかりやすく、話し方等大変、参考になりました。質問はありません。</p>
<p>・思考整理術とロジカルトークについて、ワーク「自転車の安全利用…」とP12参考「幼児の交通…指導内容」「高齢者の交通…啓発する」などの交通安全教室にかかる模範例の例示は有りませんか。</p>
<p>・表情や言葉遣いの重要性がよくわかりました。今後開催される交通安全教室の際は表情や言葉遣い、動作など相手の年齢に合わせた表現を実践していきたい、印象に残るものにしていきたいです。</p>

②警視庁交通部交通総務課交通安全教育指導係へ

(講座名:交通安全教育デモンストレーション)

<p>・人形や着ぐるみを使ってのお話がゆかいで、こういうやり方もあるのだと勉強になりました。子供たちや高齢者の方に楽しく知ってもらうためには大切なことだと思います。お話しするためのポイントもためになりました。</p>
<p>・腹話術を初めて見るのが出来ました。素晴らしいお話で感動いたしました。</p>
<p>・オンライン時の腹話術は、高音の声は、こちらに声が届かなかったです。音がひろえないのか、必ず高音で大きな声は消えてしまっていました。</p>
<p>・YouTubeでおいさんキャラが出てくる動画を見たことがあります。</p>
<p>・腹話術を初めて拝見させていただきました。とてもお上手で感動しました。知識があるからこそ1時間に色々な内容を話せるのだらうと思いました。ありがとうございました。</p>
<p>・交通安全教育指導係の方々、何名で活動されているのでしょうか?・市や区の指導員と連携し、小学校などの教室を開催されているのでしょうか?</p>

<p>・腹話術、正直ハードルがとても高いと思っていましたが、子どもたちにも高齢者の方にも楽しんでもらえると思います。機会があれば挑戦してみたくなりました。レジュメなどぜひ活用させて頂きたいです。データ、頂けたら嬉しいです。</p>
<p>・さんかくしおり(大きいもの)が欲しいです。</p>
<p>・横断歩道の渡り方で確認です。鹿児島県警の「ひまわり号」ご存知だと思います。時々来て頂いて幼児に教える際、横断歩道の真ん中までは右を見て、それからは左を見て安全を確認する。全国的に同じ、ですよ。</p>
<p>・「交通安全さんかくしおり」今後活用させて頂きます。ありがとうございました。</p>
<p>・声の出し方やかけ合いがとても上手でした。腹話術は、大人も子供もとても楽しめます。機会があれば是非挑戦してみたいと思います。</p>
<p>・実際行われている安全教室とは異なる内容だったり、制限もあったかも知れませんが、出来れば対象者や指導ポイントをしぼって発表していただきたかった。情報量がとても多く、指導員同士のやりとりも聞き取りにくい部分があり、内容を理解するのが難しかった。</p>
<p>・レジュメについている交通安全さんかくしおりの折り方は、ホームページ等で見る事ができるのか。</p>
<p>・有り難うございました。</p>
<p>・腹話術の高い声(人形の声)はリモートには不向きな気がしました。高齢者のかぶりものも声がかもって聞こえました。早く、生で実施できるようになるといいですね…。</p>
<p>・腹話術をやってみたい!と思いますが、今は「マスク」を付けているので、人形が話をしている感じが出ていますが、マスクをしていなかった時にはどのようにやっていたのか教えて頂きたかったです。</p>
<p>・感想です。お年寄りの境遇に配慮した温かで親しみの持てるデモンストレーションでした。私は幼児担当ですが、私も相手に寄り添った教室が行えるようにしていきたいと感じました。</p>
<p>・講座内でご紹介いただいた「横断歩道でクラシック」がとてもよかったです。私たちが普段交通教室を行うとき、子どもたちに興味を持ってもらおうと様々な工夫をしているのですが、交通教室の導入として「横断歩道でクラシック」を歌ったり踊ったり動画を流したりして使用することは可能でしょうか。</p>
<p>・交通安全資料(レジュメ)について、イラスト、写真も多用しており、また本のしおりとして活用する方法は大変感心しました。参考にさせていただきます。映像を通して説明が分かりやすいと思いますが、そこに着ぐるみを用いての対話型は聞いている側もあきがなくなるといいと思います。参考にさせていただきます。</p>
<p>・腹話術や着ぐるみなど、子ども達が楽しく学べる方法をデモンストレーションしていただいて、非常に参考になった。予算や技術の問題で叶わないこともあるので羨ましく感じた。おたよりのようなレジュメのレイアウトも興味深かった。自信を持って話す3つのポイントを伺ったので、今後実践したい。</p>
<p>・有名なキャラクターのグッズを作成して児童、生徒に配布することはどのような問題点が発生しますか?職員手作りのグッズでも問題がありますか。先日、警視庁による自転車の取り締まり強化、のニュースを拝見しました。自転車のマナーアップ、法令遵守が進まない中、とてもありがたい取り組みだと思えます。全国警察に広がっていただけることを期待します。</p>
<p>・マスクをはずした腹話術がみたかったです。やってみたいです。2m以内に人がいなければOKかと思えます。</p>
<p>・腹話術は得て、不得手があり、採用は検討しますが、レジュメは参考になりました。質問はありません。</p>
<p>・自身の能力を適性に評価する事。交通安全には周辺の状況判断は適切か。日常的に意識していないと交通事故に遭遇することになるのではないか。自者・他者にも注意喚起する意識をもって交通指導員に勤めます。</p>
<p>・警視庁様による腹話術や寸劇を活用した交通安全教育のデモンストレーションを鑑賞し、改めて腹話術や寸劇による交通安全教育が印象的であることを実感しました。</p>

③山口 直範先生へ

(講座名:子供の交通安全教育について)

<p>・子どもに考えさせる機会を作る教え方に印象を受けました。映像で、お母さんと一緒に渡るのと弟と一緒に渡る様子を見て、子どもがちゃんとルールを守って渡る行動に感心しました。自転車教育での実際に必要な教育を導くことは自分達の指導にも必要なことだと思いました。</p>

<p>・デンマークでの実践教育について(配付資料P54)。京都市で開催された幼児の自転車教室はいつ開催されたものなのか。現在も各地で開催されているのか、日本の指導員に伝えて行われた、とのことでしたが、今後も開催予定があるのか等知りたいです。よろしくお願い致します。</p>
<p>・心理学と交通教育はとても関係の深いものだと思います。先生の講義はとても興味深く参考になりました。</p>
<p>・子どものための交通安全教育入門、持っています。興味深い内容です。講義で使われるデータが少し古いので新しいと更に良いと思います。</p>
<p>・貴重な資料たくさんありがとうございました。交通事故死者ゼロにはビックリしました。教育心理等興味があるのでとても勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・警察官でヨーロッパに研修に行った人の話(十数年前位)では、自転車が走る環境(道路状況)が日本とは比べものにならないぐらいすばらしかったと言う話を聞きました。その環境がどのようなものか教えてください。</p>
<p>・情動未発達の段階にある幼児等に対する対応事例を紹介したサイト・ホームページ等があれば、教えてほしい。</p>
<p>・とても興味のあるお話で、楽しく学べました。国によって交通教育に大きな差がある事に驚きました。また、交通事故死者数の歩行者の各国の死者数と日本の死者数の構成率にも驚きました。2歳児への自転車教育での、子ども達の「無意識なゆずりあい」や、周りの子どもとの距離を適度にとれることも、目からウロコでした。</p>
<p>・日々の児童の見守り活動の中で講義内容を生かし、被害者にも加害者にもならないよう活動していこうと思います。ありがとうございました。</p>
<p>・非常にわかりやすく、「なるほど!!」と思う事が沢山ありました。最初から最後までとても興味深く聞かせて頂きました。ありがとうございました。</p>
<p>・道路に飛び出すこと、具体的な指示を出さないと伝わらないこと等、子供の特性と関連づけたお話でとても分かりやすかった。幼児期の自転車教育でデンマークの実践方法は興味深かった。地域によっては高学年でもあまり自転車に乗り慣れていない児童もあり、基本操作の指導は必要だと思う。実情に合わせて早いうちから現実的な教育を行う必要性も感じた。</p>
<p>・生態学的システムの「エクソシステム」と「マクロシステム」のちがいがよく分からなかった。ローカルルール等はどこに入るのか。</p>
<p>・昨年は本市(生駒市)のYouTube監修・講演いただきありがとうございました。奈良県では現在『渡るならLet's sign!』をスローガンに子どもたちへ道路を安全に渡るため、「手を上げて合図して渡る」よう指導しております。子どもが横断の意思を明確に伝えるより良い方法はどのようなものでしょうか。</p>
<p>・先生のお話で、子供には「自分で考える、判断する領域を残しておく」事が必要と言う事を学ばせて頂きましたが、今、子供たちに横断歩道を渡る時に「渡り終わったら、止まってくれていた車におじぎをする」ところまで一連の流れで教えようとしていますが、必要だと思いますか?</p>
<p>・小6までは歩道で自転車○。中1からは原則車道なのだから、やはり小6から教えてあげないといけないと思いました。</p>
<p>・感想です。幼児の発達を考慮した教育をというのはとても納得いたしました。</p>
<p>・ドイツでは親が横断(通学)を教えているとのことですが、日常的に親子で歩いて教えているということでしょうか。</p>
<p>・心理学的な観点から理論的に講義していただき、とても興味深かった。「子どもに危険を考えさせる領域を残しておく」というのはなるほどと思った。一方的な講義だけでなく、実技指導も可能な限り自分で考えて行動できるような内容に組み立てて、いかに「自分のこととして考え行動させるか」を重視するようにしたい。【質問】特に幼児向け教室において、最近は発達に問題のある子や個性的な子が多い。保育士の先生方のフォローもあるが、「1対1」では集中して聴くことや理解することができる子も、「1対集団」だと集中できなかったり、発言し続けて場を乱してしまったりすることがある。私自身保育士資格があり、発達段階や発達障害についてある程度の知識や経験はあるつもりだが、「交通指導員」の立場で教室を行う際には、「全員に対して短時間でテーマをしっかりと伝える」ことを目的として「1対集団」で話す。命を守るためには、どのような子にも交通安全知識は必要であり、それぞれに合った方法で身につけてもらいたいと思っている。結局その場ではある程度の発言を無視して進行を重視し、「1対集団」での講義や実技に特化してしまい、細かいフォローやそれぞれに合った教え方は先生方にお任せして退室している状況である。どのような発達の子にも、短時間で目的に合ったテーマを分かりやすく伝え、興味を持って集中し理解してもらうには、どのように話せばよいのか、どのような手法があるのか、教えていただきたい。</p>

・小学校一年生の歩行教室において、ある児童から「歩く人の信号がチカチカしたので止まったら、お母さんから手を引っ張られ、「何かこつけてるの、早く渡りなさい」と言われ、横断歩道を走って渡らされた。」と、話してくれました。このような大人(保護者)をなくしていくために、交通安全教育担当者として、どのようなことが出来るでしょうか。

・声の抑揚があって大変聞きやすかったです。内容も日頃の指導員に生かせる内容でよかったです。

・子供の特性は大変、わかりやすかったです。質問はありません。

・子供の身体、心理を深める事ができました。子供に対する安全教育とともに、保護者にも学んでもらう事、また「子供と保護者が一緒に交通安全を学ぶための教材」は有りませんか。

・子どもの特性を理解し、考えさせる教育の重要性を学ぶことができました。また、国内だけでなく国外の交通安全教育の情勢にも視野を広げることも重要であると感じました。特に北欧のような保護者から子への交通安全教育の徹底が印象的でしたので、コロナ禍で交通安全教育が思うようにできない現在は、保護者の存在が重要であると感じたため、対策を考える必要があると改めて感じました。

④池田 佳代先生へ

(講座名:いきいき運転講座)

・受け身の交通安全教育ではなく、自分たちで話し合い考えを導き出す実践的なやり方がとても良いと思いました。教材が無料なのも大変助かります。老人クラブで使えたらと思います。

・大変勉強になりました。

・無料でダウンロードすることができ、内容も楽しみながら出来る脳トレやワークシートなど教室のはばが広がると思います。ありがとうございます。

・とても勉強になりました。楽しい内容で、高齢者の交通安全教室に行く機会が多いので、活用させていただきたいと思います。

・今後地元で行う高齢者講習等で大いに活用させていただきたいと思います。「気づき」のためにいろんな手法も考えてみたいと思います。ありがとうございました。

・参加型の講座は、受け身ばかりにならずとても良いと思いました。

・ワークシート1つ取っても、安全な通過方法は一人一人違う考えでした。先生(リーダー)から答を伝えるのではなく、回答者から「気づき」を上手く引き出すことで安全意識を高める結果につながることを実際学び、とても勉強になりました。

・脳トレが3ヶ月実施とあるが、講習会で実施しない分はいつやるのか、各自でやってもらうのか。

・有り難うございました。

・ありがとうございました。この講座を子ども向けにアレンジする際にどこをどうすれば良いですか。アドバイスをお願いします。

・「いきいき教室」を開く中で、リーダーを決めたり、意見を求めたりする事を嫌がる人もいますが、そのような時はどうすると良いのでしょうか?

・聴くだけの講座より断然、自分達で考え学んでいるというスタイルの講座は受講者のためになり良いと思いました。

・講習の内容(広さ・深さ)から持ち時間が短いのではと感じました。

・感想です。高齢者の講習に直接役に立つことばかりでした。さらに「いきいき運転講座」を無料でダウンロード可能、その上それを活用してもよいとのこと感動いたしました。私は幼児担当ですが、高齢者担当に伝えます。ありがとうございました。

・グループに分けたとき、初対面の人同士でちゃんと話し合いができるのか心配に思います。実際に交通教室にグループ討議を取り入れたとき、話し合いをスムーズに始められるような、指導者側の声掛け、段取りについてアドバイスをいただければ嬉しいです。

・短時間での講義で、非常に駆け足での説明と体験だったことが非常にもったいなかった。ワークシートに関しては、オンラインなのでそのような方法をとるしかなかったことは承知しているが、実際に高齢者が話し合ったり発表したりする場面の動画などを見ることができたらよかった。主題から逸れずに進行するためには、リーダーと班長の役割が非常に大きいと感じた。実際の様子を見てイメージを膨らませて、実践にどう取り入れるか検討したかった。現状ではコロナ禍でサロンや老人クラブの活動もほとんど中止しているため、高齢者対象教室は実施できていない。交通脳トレだけでもうまく活用していければと思う。また、コロナ禍が収束したら是非プログラムどおりに実践したいと思った。

<p>・とても興味深い内容でしたが、先生の話し方が威圧的で、聴く側への伝わり方がとても薄くなったような感じがして、残念でした。</p>
<p>・先生は大変そうでしたが1人1人当てて答えてもらうやり方は眠くならず考えながらできてよかったです。指導員、現場の方は意識が高いという点も自身もしっかりしようと考えさせられました。</p>
<p>・交通脳トレ等、引き続き活用させていただきます。質問はありません。</p>
<p>・大変有意義な講習ができたと思いました。また、それなりに時間も必要と考えます。本講習を実施するに当たって必要とする時間と内容をどの様に考えれば宜しいのでしょうか。最低1時間でも出来る事、2時間で言う場合、半日程度で行う場合など、具体例的なものは有りませんか(〇〇地区、〇〇時間、講習事項、脳トレ)。</p>
<p>・交通安全教育は、講師による講話をイメージしていましたが、交通安全に対して自らが考え意見を発表したり他の人の意見を聞いたりグループディスカッション形式の教育は効果が期待できると感じました。</p>

⑤彦坂 誠先生へ

(講座名:自転車の安全利用のために)

<p>・自転車事故の重大さ、特にどのような事故が多いのか教えて下さり参考になりました。実際の事故の映像を見ると、ルールを守ることの大切さを感じました。法律については、交通指導員に着任したての事もあり、改めて確認できました。事故を起こした際のトラブル対応も参考になりました。</p>
<p>・パワーポイントで資料の追加を説明されていたので、追加資料を頂ければ助かります。</p>
<p>・大変勉強になりました。</p>
<p>・グラフの統計は、いつも見ても説明の仕方がわからなかったのですが、「日本人のまじめさの表れ」などというところが大変参考になり、こうやって受講者は聞けるしわかりやすいなと感じることができました。</p>
<p>・話し方、内容、映像資料、どれもとても良かったです。資料も新しく、自分達が交通教室に行った際に使えるのが良かったです。先日、高齢者向けの自転車講義を依頼され、資料をたくさん集めてやりました。この講義を先に受けれていたらと思いました。</p>
<p>・貴重な資料や雑学をまじえながらの講話ありがとうございました。とても楽しくとてもお勉強になりました。</p>
<p>・山口先生へも質問したのですが、ヨーロッパ等における自転車が街中を走る道路環境がどのように違うのか教えて下さい。これは私の勝手な考えです。幼児児童に対する教育で実際の道路での訓練は危険が伴いますが、その心配がないような場所、例えば交通教育に特化したテーマパークでの実施。テーマパークを建設する計画はないのでしょうか。</p>
<p>・配付資料P86で「自動車運転免許等の停止処分」とありますが、自転車の運転で自動車免許に影響することがあるのでしょうか?</p>
<p>・自転車関連事故件数が減少傾向にある中で、減少傾向をたどっている一番の要因は何だと思われますか?</p>
<p>・パワーポイントがとても分かりやすかったので、使っているパワーポイント教材や素材を使わせてもらうことは出来るか。</p>
<p>・自転車教室は毎年春に行っています。今回の講義を活かし、安全で楽しめる教室づくりを目指したいと思います。</p>
<p>・この度は貴重な講義をありがとうございました今後の、交通安全教室で活用していきたいと思います。また、自分自身の日常生活においても、注意していきたいと思います。</p>
<p>・地元の小学校で行われる自転車の安全な乗り方教室等で講義内容を伝え自転車安全利用五則をはじめ徹底していきたいと思います。また、機会あるごとに自転車で事故を起こした時の義務など、とにかく徹底されていないようなことも今後は伝え、注意喚起していきたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>・とても分かりやすく、改めて命の大切さについて学べた講座でした。先生のお話を自分なりに1人でも多くの方へ伝えていきたいと思います。</p>
<p>・被害者にも加害者にもならないような安全な乗り方を学ぶことが出来た。スウェーデンのエアバッグ式ヘルメットは始めて知りました。電動キックボードも3種類程度あるとのことなのでそれぞれの違いをよく学びたい。大人も含めたヘルメット着用について、より多くの人に周知するため効果的な方法は?</p>
<p>・アシスト自転車の信号待ちでペダルから足を降ろすとなっているが、両足降ろした方が良いのか。</p>
<p>・有り難うございました。</p>

<p>・ありがとうございました。動画などがポイントごとにあり、大変わかりやすかったです。お話の中で、東京では傘さし、ながらスマホ運転が減ってきているとの事でしたがその原因はどのような事が考えられますか？</p>
<p>・ヘルメットの着用が重要なのは十分承知ではありますが、小学校までは当たり前に着用していたヘルメットを中学生になると「格好悪い」と着用しなくなってしまいます。色々な事例を出し着用するように促しますが、学校へ行く時は仕方なく着用し、遊びに出る時は決して着用しません。そのような子供達に、何か良い方法はないか教えて頂きたいです。</p>
<p>・スウェーデンのエアバッグ型のヘルメット、すぐに調べてしまいました。5万位するんですね。名古屋市はヘルメットの補助事業をやっていますが、まだこのヘルメットの申請はありません。</p>
<p>・感想です。児童の自転車交通安全教室も行っていますが自転車専用通行帯の細かいルールははじめて知りました。今まで子供が飽きないようにざっくりとしか説明していなかったのですが、何らかの形で伝えていければと思います。</p>
<p>・パワーポイントの使い方、電動アシスト自転車の危険なところの指摘ポイント等とても勉強になりました。配布資料83ページでの左折レーンがある場合の自転車での直進についてですが、当市では別添のような左折専用レーンがある交差点があり、どのように指導してよいかわからず苦慮しています。左折レーンの直進については講習では質問がない限り触れないようにしていましたが、①について、JAFから問い合わせ②について、講習先の高校生から質問がありました。完全な回答は出来ませんでした。自転車のための道路環境が整備されていないのが一番の問題なのですが、左折専用レーンの正しい通行方法を指導するため、現状での正しい通行方法についてご回答いただければ幸いです。また、インターネット上では左折専用レーン(車両通行帯)が設けられた道路では、数えて1番左端の通行帯を通行すればよく、車両通行帯のない道路のように左側端に寄って通行する義務はなく、後方からくるクルマに注意しながら左折レーンの右側によって走行できると記載されているサイトもありますが、この解釈は正しいのでしょうか。安全上問題があるとおもうのですが。</p>
<p>・とても分かりやすい講義でした。知らないことも多々あり、学ぶことができ大変良かったです。</p>
<p>・動画や事例を用いて、非常に分かりやすく講義していただいた。通行区分や自転車レーンについては、自分自身あいまいなどところがあったので、正しい知識を学べてよかった。自転車については小学生が重要視されがちだが、中高生や大人に対してしっかりとルールを学んでもらう機会を設ける必要があると感じた。当町では、自転車教室に関しては小学生に対して警察官が行うものがほとんどで、交通指導員としてはあまり関知していない現状である。コロナ禍により教室開催が困難であっても、中高生の自転車通学者向けにルールに関するリーフレットを配布するなど、さまざまな手法を用いて安全ルールを周知していきたい。</p>
<p>・自転車のマナーが悪いことに起因する交通事故が多発していると思います。児童に対して、そのような大人たちの悪い行動をまねさせないための教育方法を教えていただけますか。</p>
<p>・私は、小学校3年生の自転車の交通安全教室も担当しています。その中で、自転車の手信号についてです。道路交通法53条には「車両(自転車以外の軽車両を除く)の運転手は、手、方向指示器又は灯火により合図し…」と定められていますが、今は手信号を教えていないのでしょうか?お尋ねします。また、理由は「片手運転が危険だから。車道通行から歩道も走れるように」になったからでしょうか。</p>
<p>・彦坂先生が使用のパワーポイントの内、「自転車の通行方法・通行区分」は、“中国・四国ブロック交通ボランティア等ブロック講習会(10/26開催)”でも使用されていたと思いますが、当市の中学1年を対象にした自転車教室で活用したく(静止画やパネルでは伝わりにくいと思料されます)、可能であればデータ送付を希望しています。</p>
<p>・「自転車で事故を起こしたときの義務」の報告義務について。対自転車、対人の場合に非常に軽微(かすり傷も無いような場合)な時、相手方が直ちに立ち去った場合の対応で、相手方の素性が全く把握できない状況で警察に報告すべき事項はどの様にすべきでしょうか。</p>
<p>・自転車の交通安全だけでなく、見通しの悪い交差点やT字路交差点など様々な交差点に潜む自転車、自動車、歩行者のそれぞれの危険についても詳細に解説していただき、参考になりましたので、今後の交通安全教室で幼児・児童・高齢者・保護者に伝えていきたいです。</p>

13. 今後、講座で取り上げてほしいテーマ等がありましたら、ご自由にご記入ください。

・教材の紹介があったらいいなと思いました。
・全国で行っている面白い講座や、取り組みがあったら知りたい。後は、現状何か問題や課題があったら知りたい。
・幼児のグループが多かった割に幼児対象の教養資料が少ない様に思った。
・年齢別に求められる指導内容や、最適なポイントなどあったら参考にしたいです。実際に行動心理をふまえて行われているような専門的な教室の様子など見れるものがあれば動画で見せていただきたい。
・(1) 幼児・児童に対する交通教室の中で横断歩道の渡り方で、教え方が県によってまちまちであったので、基本的なことまで教えて欲しい。できれば指導者用の教本を作って、配布して欲しい。(2) 見守り隊・ボランティアで交通立哨・子供の誘導をする人達の講習の場をもうけてもらいたいが、それは無理なので、見守り隊・ボランティアへの教本を作って配布してもらいたい。
・全国の自治体、学校等が独自に定めている条例、校則等があれば紹介してほしい。
・交通安全指導で効果的な教材と、その使い方について。
・交通安全教室の講義に特化した講座を希望します。今回、グループワークにて交通安全教室のやり方の話をみんなでした際に、今回の討議内容とは異なるという結論に至ったため。
・他県の教室の実演が見たいです。
・シニアカーの通行について。バス通学について(注意点等)。聞き取りやすいアナウンスの仕方(車両広報をするため)。
・中・高生の事故の特徴など。
・子どもが興味を持てる交通安全教室での指導方法や指導例。・親子で学べる交通安全教室での指導方法。
・保護者向け講座
・チラシの作成方法(イラストレーター・ビデオスタジオの使い方)
・実際に行う形で「幼児」「自転車」「高齢者」等の交通安全教室内容を見せて頂けると参考になると思いました。
・通学路の交通安全対策。高齢運転者の運転操作ミス(踏み間違い等)による事故の現状と対策。
・高校生・大人(一般人)への交通安全意識を高めるためにはどうしたら良いか。
・幼児を対象に教室を開催する際の導入部分での手法を具体的に教えて欲しい。手品や歌、パペットの使用など色々あると思いますが、実演を見たいです。
・交通安全教室で使用する教材(パネル、DVD等)で、効果的な物の事例。
・電動キックボードについては今後増えていくと思うので細かく知りたいです。
・長野県の信号機のない横断歩道で歩行者がいる場合、車が一時停止する割合、全国一位(68.6%)の事例。
・幼児、児童、高齢者、各々の教室での教え方、教材の使い方、作れる教材。実際やって好評な事など、を提示し教えて頂きたいです。
・講義中に受講者とのやりとりがない講義について、受講者専用のポータルサイトなどで講義動画を限定配信し、視聴した形跡にログを取ることで受講というかたちだと難しいのでしょうか。オンライン(生)開催にこだわるのであれば、Wi-Fiなどネットワークの使用容量が限られている方もいると思うので、オンラインの必要性感じる講義内容を求めたいです。
・県外ナンバーの運転者に対する安全運転の啓蒙や当地での要注意通行個所などのアピールの方法。
・交通指導員の基本に戻り、街頭指導における留意事項について交通環境の変化対応のため、DVD等で30分位で。
・交通安全はどこかの団体が単独で行うより社会全体で連携して行う方が効率的だと思いますので、役所・警察・教育委員会・学校・PTA・町内会などが協力し合う取り組みをしているところがあればお話を伺ってみたいです。
・地方自治体の交通安全キャンペーンについて。
・幼児の保護者に対する交通教室について。
・教室教材(オンライン教材なども含む)の作り方など。
・YouTubeなど動画の教材の活用について。

<p>・SNS(Facebook、LINE、YouTube等)を活用した交通安全教室のニーズが高まってくることが予想される。自治体が情報発信や動画作成を行ううえでの注意点(内容や構成の方法、教材や機材などの準備品、著作権、肖像権、個人情報保護、セキュリティ、予算、金額、企業・ケーブルテレビ・警察等とのタイアップ等)について、詳しく教えていただきたい。</p>
<p>・映像等を取り入れた、実際の交通事故の発生状況、原因、対応策について。通学路点検等で把握された危険個所の早期解決策。</p>
<p>・交通安全教室の実際の事例や実践している内容の紹介</p>
<p>・伝わりやすい、少人数でできる交通安全教室の事例をみたい。中、高生のイヤフォン禁止にできる対策。中高生(大学生も)自転車教室</p>
<p>・あおり運転の加害者・被害者にならないために必要な取り組みについて。</p>
<p>・新卒者に対する交通安全教育について。</p>
<p>・交通指導員の業務について(警察官のような権限はないということ。その上でどのような手法(技法)を駆使するのか…)</p>

14. 講座の実施にあたり、運営やスタッフの対応等にご意見がございましたらご記入ください。

<p>・とても丁寧で細かく指示をして下さってよかった(zoomの使い方や一日の流れetc)。音声トラブル、聞きとりづらい場面があったが即対応してくれてよかった(隣で会議をしていたとき)。</p>
<p>・オンラインだと機材のトラブルや音量が大きかったり小さかったりと聞き取り辛い時があった。</p>
<p>・コロナ禍で大変な中、ズームで講座を実施して頂き誠にありがとうございました。</p>
<p>・運営スタッフの対応は素晴らしかったです。ありがとうございました。</p>
<p>・ご対応ありがとうございました。初めてzoomを利用しました。画面共有を利用し、資料を拝見したり、とても便利だと思いました。</p>
<p>・オンライン講座の案内など丁寧でとてもわかりやすかったです。</p>
<p>・初めてオンラインで受講させていただきましたが対応がよく、わかりやすかったです。ありがとうございました。</p>
<p>・資料などわかりやすく、スムーズに講義に入れました。事前に確認メールなど、早めにご送ってくれたので仕事の合間にこちらも準備することができました。</p>
<p>・グループ討議の時なかなか発表者が決まらなかったのですが、2019年度の際は、運営部の人が中にはいって、スムーズに決まったそうです。今年もなかなか決まらないところには、はいってほしいと思いました。</p>
<p>・グループ討議の時に、最初だけでもスタッフの方に入ってくださいと、スタートがもっとスムーズだったと思います。準備等大変だったと思いますが、とてもためになる研修でした。ありがとうございました。</p>
<p>・グループ討議をzoomでやる際、事務局に聞いてみたいと思うことがあっても、簡単に聞くことができない(電話してきた)為、その点のみ方法があると良かったのではないかと思います。</p>
<p>・事前接続テストをふくめて4日間、丁寧で分かりやすい対応ありがとうございました。</p>
<p>・事前に資料が郵送されて来て、各人事前準備が出来てよかったと思います。初めてオンラインでの講座に参加させて頂き、スムーズに開催されている印象を受けました。</p>
<p>・グループ討議時のフォローをお願いしたい。</p>
<p>・私含めzoomの使用に慣れていない参加者も多かったと思いますが、そのあたりも丁寧に対応(事前の資料配付、その都度分かりやすい指示)いただき、大変ありがたかったです。</p>
<p>・丁寧な対応をしていただきありがとうございました。</p>
<p>・自己紹介はIDの数字の早い方から等、細かい部分ではありますが、指示いただけるとありがたかったです(グループワークの人数も少なくなかったと思うので話し始めはどうしてもためらってしまうので…)。</p>
<p>・ズームを使用した研修会に出席するのは初めてで、操作方法が不慣れであったが、その都度説明して下さったのでありがたかったです。</p>
<p>・とても丁寧で分かりやすかったです。FAX送れていなく、申し訳ございませんでした。</p>
<p>・オンラインに不慣れな私でも、とても解りやすいマニュアルでした。ありがとうございました。</p>
<p>・とても素晴らしかったです。お疲れ様でした!</p>
<p>・この度は貴重な講座を開催いただき、ありがとうございました7日は交通安全教室があり、欠席となりましたが、また次回の講座で受講を希望いたします。どうぞよろしく願いいたします。</p>

<p>・私自身、慣れないzoomでオンラインの講座でしたが、事務局やスタッフの方々のおかげでスムーズな講義を受けられました。ありがとうございました。</p>
<p>・3日間お世話になりました。自宅からの参加させていただきましたが、有意義な時間を過ごせたと思っております。ありがとうございました。</p>
<p>・大変お世話になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・アンケートの切日数がとても早いです。日常業務をこなしながら、この量のアンケートに回答、提出となると厳しいものがあります。もう少し余裕をもらえると有難いです。</p>
<p>・藤原先生の講座の途中で、映像が消えてしまい、残念でした。</p>
<p>・詳細のご連絡(メール)がもう少し早く頂いた方が市役所での準備等に余裕ができたと思います。</p>
<p>・初めてZoomを使用しましたが、使い方等事前にまとめていただいたためスムーズに利用できました。</p>
<p>・事前準備～実施までスムーズに運営していただきありがとうございました。</p>
<p>・コロナ禍でも、このような学べる場を提供していただけて、とても感謝しております。ありがとうございました。</p>
<p>・チャット(グループ討議の際の1分前です。終了です。などのご発言)だと気づかないことがあるので、声のかけ方にも工夫が必要だと感じました。個人あての事務連絡は、可能な限り電話やメールで事前に行う方が良いかと思いました。グループ討議の発表は、発表者が画面共有を行うことにより発表した方が、レジュメと発言内容にズレを感じにくいかと思います。また、説明資料が事務局に届かなかった場合のトラブル改善にもつながるかと思っています。</p>
<p>・急な欠席ではあったのですが、電話をしたけど繋がらない、メールをしたけど返信が返ってこないという状況だったようで、ちゃんと連絡が来ているのかわかりませんでした。確認できたら返信か何かをしていただければと思います。</p>
<p>・親切、丁寧に教えて頂きありがとうございました。</p>
<p>・スムーズに運営されたと思います。</p>
<p>・ZOOMでパソコンを使うので、紙資料の配付はありがたいと思いました。</p>
<p>・IDなどのお知らせメールが届いたのが、何か手違いがあったそうで12/1の接続テストの2日前でしたので少し心配になりました。それ以外はとても丁寧に対応していただいて何も困ることはありませんでした。ありがとうございました。</p>
<p>・初めてのzoom会議で不安でしたが、zoom使用マニュアルが大変分かりやすく、スムーズに参加できました。ありがとうございました。</p>
<p>・スムーズに進行していただき、ありがとうございました。時間通りに進み、大変良かったです。</p>
<p>・オンライン形式に慣れていない者に対して、初めてでもわかりやすいように事前の資料(紙媒体)送付や接続テストなど、細かくご配慮をいただき、オンライン形式への不安が軽くなり、ありがたかったです。2日目の午前中に急遽家族の病院の付き添いで欠席させていただくことになった際やその後の確認電話でも、丁寧に應對していただき感謝しております。ありがとうございました。</p>
<p>・初めてのオンライン講座ということで、多人数参加にもかかわらずオンラインの確認や講座資料の作成など、有意義な三日間の講座でした。スタッフの皆様、誠にお疲れさまでございました。</p>
<p>・オンラインによる開催で不安もあったが、時間をきっちりとしながらも終始丁寧に應對いただきありがとうございました。チャット機能や挙手機能など、どうしてもタイムラグが生じてしまうため、もどかしい面もありましたが、カメラワークや画面共有などもうまく対応していただけたので、大きな問題なく受講することができました。メール、事前資料の配布や接続テスト、マニュアルに至るまで、全ての面で手厚くご対応いただき、戸惑うことなく参加できました。大変感謝しております。</p>
<p>・リモート開催という条件の厳しい中、手際よい運営、受講者に対してもきめ細かい配慮を頂き、有意義な講習を受講することが出来ました。ありがとうございました。</p>
<p>・グループ討議は、最初の司会者と発表者を定めるまでの司会進行役を先に事務局で決めておいていただいた方が、人選に時間がかかり討議の時間が少なくなることを防げるのではないかと思います。</p>
<p>・グループ討議は、最初に経験者の司会の方をすでに決めてからスタートしないと時間もつたいないし、未経験の集まりなので疑問が疑問を呼ぶと思う。D班は上手にまとめる方がいてよかったです。</p>
<p>・コロナ禍という大変な状況の中、このように手段を替え開催していただきありがとうございます。今までと違うやり方を始めるということでもご苦労されたことと思います。ありがとうございました。</p>
<p>・Zoom接続開始の時間が8時40分頃からできると、受講準備に合わせやすいと感じました。受講の遅刻を避けながら受講準備をすると接続準備20分は忙しいと思いました。</p>

・事務局から特定の個人あての連絡ややり取りは、他の受講者は聞く必要が全くない内容であり、他の受講者が聞いている中で個人名を挙げて呼び出される人も晒されているような気持ちになるのでは、と感じた。電話やEメール等の連絡手段を使用したり、ZOOMで別のミーティングを立ち上げたり等、もう少し工夫できたのではないかと思う。

・初めてのオンライン講習で不安でしたが、講習前の事前接続確認の実施や日程通りの講座の進行、各講義前の説明等非常に丁寧でわかりやすくありがたかったです。3日間ありがとうございました。

・グループ討議の進め方で、担当の皆さん(司会・発表)お世話になりました。

15. その他、講座全般にかかわるご意見・ご感想・ご要望等ございましたらご記入ください。

・グループ討議では他県の方と交流できて、とてもタメになりました。先生方の講義も改めて知る部分(気づく部分)があり、今後活用したいと思いました。ありがとうございました。

・グループワークを通して、全国の色んな方とお話することが出来たのが一番良かったです。普段、自分たちが行っている方法とは違った指導方法がわかりました。コロナ禍が落ち着いたら、是非対面でできるようにしてほしいです。

・自治体の中で電波障害があるところやないところとある様でした。電波障害で講話が聞けなかったところが多々あり残念でした。今後DVD化して質疑を別にするなど改善されたら良いのではないかと思います。

・講座を受講し、自信につながりました。

・内容の充実した講座で多くを学び、他の都道府県の皆様のご意見も大変勉強になりました。今後もzoom開催を希望します。(出来れば、各グループの発表ようにまとめた資料もダウンロード出来たら助かります。参考にしたいため。)

・高齢者、自転車、幼児、児童、一般的な講義でしたが、グループ発表でも幼児児童に対する討議希望者が多いように、もう少し子供に対する安全講習の講座の時間がいただきたいと思いました。

・初めて研修に参加させて頂きましたが、分かりやすくオンラインでも無理なく参加することが出来ました。又テスト(zoom)もして頂いたので、当日はすぐにつながることが出来、良かったです。グループ討議がオンラインであるのが初めてだった為、少し戸惑いました。又オンラインだった為かグループ討議の時間が少し短く感じました。あと30分~1時間プラスであるといいです。

・色々ありがとうございました。3日間勉強したこと、今後に生かしたいと思います。

・急な来客対応等で一時的に離席するというのが度々ございました。大変申し訳ございません。

・zoomでの研修会は、想像以上によかった。交通安全指導者が意見交流できる場なので、休み時間、講義時間外に話すことができないzoom研修は、その点が残念だった。

・定期的に受講機会があるというのは、大切なことだと思う。日本自動車工業会ホームページの紹介がありましたが、その他閲覧できるサイトがあれば教えてください。Zoomが体験できて良かった。

・3日間にわたり、充実した講座を開催してくださりありがとうございました。各講座、どれも実践に役立つものばかりで、早速現場で役立てていきたいと思えます。グループ討議では、普段知ることのできない他県の交通指導について情報交換をしたり、今まで気付けていなかった問題点についても考えたり、大変有意義な時間となりました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

・今回の講座で、様々なプログラムを用意していただき知識だけでなく、他の指導員の方々の様子を知ることができ、有意義な3日間となりました。貴重な機会をいただきありがとうございました。

・終了時間は16:30や16:00あたりの時間で終わればなと思いました。会計年度職員ですと17:00定時の方も多いのでは?と思うので、復習時間も当日に自分でとれれば良いなと思いました。

・一番見たい所で画像が消えてしまったのが残念(話し方の口の動きや、あいさつの角度の時)でした。グループ討議は長いので途中で5分か10分休憩を入れた方が良いと感じました。

・大変勉強になりました。コロナ禍において様々な制約がある中でこうして開催して頂けたことに感謝しております。本当にありがとうございました!

・グループワーク: 静岡県では、指導員制度がしっかりしている事が、グループワークで改めて感じた。そのため、他の県の方にアドバイスをしたいと感じたが、オンラインでは限られた一定の人が多く発言してしまうため、解決まで時間がかかる。全員が同じ会場に集まった方が、もう少し良い話し合いができるのではと感じた。

・とてもためになる内容で楽しみながら学ぶことができました。これからの交通教室で活かしていきたいと思えます。何度も見返して勉強したい内容ばかりの講座でした。今回の内容のDVDがありましたら、ぜひ頂きたいです。よろしくお願ひします。

<p>・討議発表の内容を改めて知りたい。全て書き留める事が出来ず、共有された発表の用紙のコピーをいただきたいと思いました。写真に残しておけば良かったのですが…。</p>
<p>・グループ討議の全内容を知りたいです。もし可能でしたらEメールとかでお送り頂けると有り難いです。</p>
<p>・貴重で内容の濃い時間をありがとうございました。</p>
<p>・オンラインで3日間の受講者にとっても不安を感じていましたが、あっという間に楽しく学ぶ事が出来ました。今後も、引き続き開催して頂ければ更に交通事故防止につながると思いました。</p>
<p>・3日間ありがとうございました。本講座で習得したことを今後多くの安全教室受講者の方に還元していけるよう努力していきたいと思えます。</p>
<p>・今回の講座は大変貴重な経験となりました。参加でき良かったです。ありがとうございました。</p>
<p>・パソコンが苦手でしたが何とか初めてのズームも体験する事ができ、本当に良かったです。大変お世話になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・講座の実施ありがとうございました。</p>
<p>・色々な方の意見や考えを聞くことで、とても学びがあり、先生方の講座で知識を得る事ができとても良かったです。コロナ禍なので難しいことは分かっているのですが、実際に皆さんで集まって話し合いができればもっと良いなと感じました。大変勉強になりました。3日間ありがとうございました。</p>
<p>・グループ討議の時間が短かったです。丸一日、討議の時間でも良い位だと感じました。もっと他市さんのお話が聞きたいし、本市の事を知っていただきたいかった。</p>
<p>・グループ討議のグループ内に、ベテランの方を2人以上入れて欲しいと思いました。経験が浅いと(私を始め)経験談もあまり言えず、スムーズに討議が進まなかったように思いました。もしくは、養成講座に参加できる資格を、経験1年以上の者として頂く方が良くと思いました。</p>
<p>・グループ討議の発表者になりました。2日目にまとめあげる作業に時間がかかりました。</p>
<p>・ZOOMの研修が初めてのため、接続がうまくいかず申し訳ありませんでした。</p>
<p>・Zoomシステム含め初めてのオンライン研修を受講致しましたが、想像していたよりも集中して受ける事が出来良い経験になりました。</p>
<p>・司会者、発表者の選出に苦慮した。進行例の呈示はありがたかったが、討議をオンラインで行うことに慣れていないため、うまく進行できず、中身の薄いものになってしまった。討議の司会の人選が大事だと思った。</p>
<p>・ZOOMでの研修は初めてでしたが、私はとても良かったと思います。今まで通りには出来ないと嘆いている発表者さんもいらっしゃいましたが、この方法が定着していけばこの方法にあったやり方が確立してくるでしょうし、受ける側としては時間的・費用的・体力的に負担が少なくストレスなく集中して受講することが出来ました。</p>
<p>・オンラインで開催大変なこと多々あったと思いますが、開催していただき感謝しています。ありがとうございました。</p>
<p>・地方自治体の交通安全担当向けの講座を開いてほしい。</p>
<p>・交通教室で実際にどのような教材を使っているのか、他の市町村の方に聞いてみたいと思っています。今回はチャイルドビジョンやおやくそくバンドなどを知ることができて良かったです。</p>
<p>・閉会のことばでいただいたように、「必ずしも成果に直結するものではなく、交通事故で悲しい思いをする人々が少なくなるように、地道に継続的にあらゆる方法を実践していく…」ことは、すべての業務のどこかに必ずつながっていると思って、学んだことを振り返りながら取り組んでいきたいです。コロナ禍で学ぶ機会が減少していることを感じていた中、受講対象が全国規模で、講師の生の声や経験、最新の動向や取り組みなどを学ぶ機会はとても貴重だと感じました。ありがとうございました。</p>
<p>・講師の先生方のお話が大変参考になりました。今後の交通安全教育に生かせるよう努力して参りたいと思えます。</p>
<p>・「いきいき運転講座」をグループワーク前に受けることができればよかったなと思いました(グループワークのまとめ方などとても参考になりました)。</p>
<p>・講師の方が、受講者に対して発言させて、人それぞれの意見等を出し合って進行する手法は、色んな考え方や気付きがあり、とても参考になりました。</p>

内閣府主催ということもあり、講義内容や講師を含めてとても素晴らしい内容でした。繰り返しになりますが、内容が良かっただけに、オンライン開催が残念でした。他市町村の担当者との情報交換や雑談、講師への質疑応答、教材等の展示や紹介など、生でしかできないことの方がたくさんあると思います。コロナ禍が収束し、生での開催ができることを願っています。私は、一人で30年近く担当していた指導員の後任として今年度着任しました。今後十数年間、一人で交通指導員として頑張っていかなければなりません。全くの未経験でありながら日々模索し一人で悩みながら教室を行っていた私にとって、今回の講座は非常に有意義なもので貴重な財産となりました。数年後、少し経験を積んでから受講すると、また違った発見があると思います。今後も同様の機会があれば、ぜひ再度受講を希望したいと思います。今回は、このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

・大変勉強になりました。全国の受講生との直接の交流が出来なかったことが残念です。早く、会場での講習会再開を願っています。

・プログラムに資料のページナンバーをつけてほしい。自分の子供の下校時間に合わせ、指導員の仕事をしているので17:00までが2日間あるのはこまったので、午前の講義を何日かに分けてほしい。

・グループ討議結果の取りまとめと提出時間に、もう少しゆとりをお願いしたい。グループ討議結果の発表を翌日最初ではなく、2限目として結果の提出をG討議日中にできないでしょうか。

・マスク着用のため声が聞きづらい部分がありました。ゆっくり話されると大丈夫と思います。